

# 映像半世紀

和歌山映像クラブ創立50周年 記念誌

平成16年7月10日

和歌山映像クラブ

映像に青春を、心に安らぎを



和歌山映像クラブ

# 目 次

項 目	ページ
1. 祝辞 創立50周年おめでとう (和歌山文化協会 会長 伊藤 孝文氏)	1
2. 50周年記念誌発刊を祝う (和歌山映像クラブ会長 前田 幸男)	2
3. 座談会「和歌山映像クラブ創立50周年を語る」	
3. 1 クラブ創立当時・・・生馬先生との出会い	3
3. 2 生馬賞の制定	4
3. 3 クラブの活動状況・・・藤戸氏	5
3. 4 クラブの活動状況・・・吉方氏	5
3. 5 クラブの活動状況・・・高塚氏	6
3. 6 クラブの活動状況・・・共同制作	7
3. 7 和歌山県アマチュア映像連盟との関係	7
3. 8 全国組織との関係	8
3. 9 マスコミとの関係	8
3. 10 後輩へのメッセージ	9
4. 和歌山映像クラブ50年の歩み	11
5. 平成15年度年度賞コンクール講評記録	
5. 1 高野 武司先生プロフィール	17
5. 2 アマとプロ	17
5. 3 講評の仕方	17
5. 4 「光川亭仙馬の足跡を訪ねて」(鈴木 荘:13分) 講評	18
5. 5 「シベリア抑留の軌跡」(中嶋 孝:14分) 講評	21
5. 6 「梅」(岡崎 譲:3分) 講評	24
5. 7 「秋の火打山・妙高山縦走」(南川 陽一:14分) 講評	26
5. 8 「ぐるっと徳島・海峡&溪谷」(前田 幸男:14分) 講評	29
5. 9 「結婚式」(藪谷 承吾:6分) 講評	33
5. 10 「雲雀山・得生寺」(塩崎 博:15分) 講評	38
5. 11 コンテスト総評	39
6. 創立50周年を迎えて	
6. 1 随想・映像クラブの20年 (前田 幸男)	43
6. 2 フィルム一筋 (小野 誠之)	45
6. 3 私のビデオ三昧 (菱田 公造)	46
6. 4 撮っても楽しい『ビデオ』(塩崎 博)	47
6. 5 思い出50年 (岡崎 譲)	49
6. 6 映像クラブ五十周年おめでとうございます (藪谷 承吾)	50
6. 7 和歌山映像クラブと私 (奥野 敏之)	51
6. 8 ビデオの楽しみ (南川 陽一)	52
6. 9 私とビデオ (中嶋 孝)	53
6. 10 祝50周年諸先輩方々のご苦勞とご努力に感謝 (鈴木 荘)	55
7. 入賞作品記録	56
8. 和歌山映像クラブ創立50年 在籍記録	61
9. 会員名簿	65
10. 会則	
10. 1 和歌山映像クラブ会則	66
10. 2 申し合わせ事項	68
10. 3 運営基準	69
11. あとがき	70

## 祝辞 創立50周年おめでとう

和歌山文化協会会長：伊藤 孝文



沖縄首里城での伊藤氏

和歌山映像クラブ創立五十周年おめでとうございます。  
ご同慶に堪えません。

三代目会長本谷惣山先生は和歌山文化協会の創立にかかわった方であり、私もその仲間に入れて戴きご一緒に歩いてきた一人として懐かしく思い出します。

あの当時8ミリの機材を持って活躍された先生は勿論会長として撮影会や撮影旅行を企画され、その時には和歌山文化協会にも声を掛けて下さいました。

そしてまた、その都度文化協会としてもご協力させて戴いたことを思い出します。

四代目会長高塚修先生ですが、ご存じの通り現文化協会事務局長の要職にあります。毎年の文化協会総合美術展には映像クラブで鍛えた腕前で作品を出されて「流石プロ級」と感心させられます。また、撮影旅行は今も続いています。

会長の前田幸男先生も文協会員でもありますが、特になくはならない人として、記録を撮り続けて下さっています。曰く総会、曰く名月に舞う、曰く先覚文化功労者顕彰式典と貴重な記録を映像として撮り続けて下さっています。

この様に歴代会長様には一方ならずのご協力を戴いているわけであります。

勿論、映像クラブとしてのご活動は「8ミリ・ビデオ映像祭」をはじめ諸種のご活躍をされ市民文化の向上に貢献されています。

共に「郷土の文化、発展に寄与する」の目的を持つ貴会と同じ会則を謳い上げている私達文化協会としても将来に亘って足並みを揃えて頑張りましょう。

ご一緒に歩いてご縁を喜ばせて戴きたいと思います。

五十周年の映像の財産です。ライブラリーです。映像による歴史の証人とも言えます。報道、芸術と思い出シアターとして新作、旧作、同時上映ご披露下さい。

五十周年を記念して映像の時代を歩む会員のご健勝とご発展を祈念してお祝いの言葉と致します。

## 50周年記念誌発刊を祝う

和歌山映像クラブ会長：前田 幸男

五十年が長かったか、短かったか・・・それはどちらも正しいかも知れない。今クラブの五十年の歩みを反復熟読すると、いくつもの発見がある。

中でも印象的なのはクラブ員の共同制作になる「くろしお国体」、「小野田元陸軍少尉の帰還」や、「明治100年郷土わかやま」である。共同で制作するため先人たちが如何に情熱を注がれたかがひしひしと伝わってくる。

また先般開催された「座談会」で、最も古くからクラブにいらっしゃる方々のお話を承ることができた。その時の一部だが「全国撮影大会」に参加するのに、文化協会の仲間や、御家族の方々も誘い、大型観光バスを仕立てて大挙して東北や南九州の会場まで繰り出されたという。当時の「和歌山シネクラブ」のエネルギーに、他の府県から参加された方々は度肝をぬかれたと言うことで、今でも思いがけない旅先で当時の人たちからその話を聞かされることがある。



これに限らず、毎年行われた撮影旅行の記録にしる、公開映写会の記録にしる、また新しい器材に出会って相互に研究し合った熱意と努力の記録にしる、単なる趣味とは思えない回想が各所に散見され、その勇気や探究心には頭が下がる。

このところ全国各地で、五十周年を謳いあげる団体や企業の話が意外に多く聞かれる。同じ頃同じく青雲の志を抱いて発足した頼もしい仲間達が至るところにあったのだろう。そのうちのひとつとして私達もぜひ力強い歩みを続けなければならない。

思えばこのクラブの、この記念すべき年に、たまたま一会員として在籍できたことは、無上の光栄というほかない。ただ私自身は年齢からも、能力からも先頭に立って引っぱって行くほどの器量は持たないので、会員ひとりひとりの知恵と熱意の結集でその成果を挙げていてもらいたいと願うばかりである。全国には映像を愛する仲間のグループがいくつもあることだろう。視野を広く持ち、志を高く持って、それ等の人達に伍して行けるようにがんばってほしい。

五十周年記念というこの節目の年が、「温故知新」の言葉のとおり、会員達にとってまたとない奮起の年になってくれることを衷心より期待し、記念誌発刊に当たって御協力くださった多数の皆様へ深く感謝申し上げ、万感の思いをこめて発刊を祝うこととする。

# 和歌山映像クラブ創立50周年を語る



座談会風景

日 時：平成16年3月25日(木)

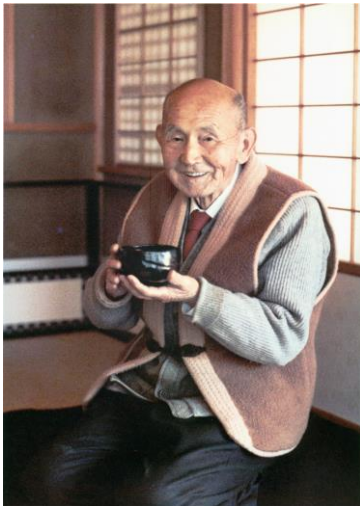
場 所：県庁前 まつや食堂

出席者：藤戸 輝一様・高塚 修様・吉方 徳一様  
(司会)前田 幸男

(撮影・編集)南川 陽一・中嶋 孝

前田:本日はお忙しい中、この企画にご賛同頂き誠に有難うございます。

今日お集まり頂いた三人の皆様はクラブ創立当初からご活躍されている方々です。50周年を迎え会員のメンバーも随分変わってしまっておりますので、創設当時のお話を存分に聞かせて頂いて今後の活動のエネルギーに致したいと存じます。よろしくお願ひ致します。



生馬 茂先生

## 1. クラブ創立当時・・・生馬先生との出会い

先ず「50年の歩み」を振り返りますと、故生馬茂先生(昭和60年没)と藤戸さんとが中心になって、このクラブを立ち上げられたと聞いております。その辺の様子から始めて頂けませんか。(以下敬称略)

藤戸: 生馬先生と私との結びつきは先生が先の奥様を亡くされた後、私とこけし収集家の松島先生の2人で生馬先生の寂しさを慰めるために訪問したのが始まりです。

前田:昭和29年(1954年)12月に、和歌山城内の「湖月」で、生馬茂、藤戸輝一両氏を中心に、藤沢、菱川、田幡、溝口、浜野、田村、中村、谷口、栗山、成川、秋山、奥野、西脇、客殿、西峰、稲葉、木村、畔柳、小坂、田谷の22名の方々が集まって「ナクサ和歌山支部」が発足されました。

和歌山映像クラブの前身です。「ナクサ和歌山支部」は昭和36年にナクサ本部が解散されたため「和歌山シネクラブ」と改称され、昭和47年「和歌山8ミリクラブ」と改称されるまで続きました。それが更に平成10年になって現在の「和歌山映像クラブ」に改称された訳です。

藤戸:創設時のメンバーは殆んどお医者さんばかりだったようです。

南川:生馬先生はどのような方だったのでしょうか?

吉方:いい人でよく可愛がってもらいましたが意地がありました。こうと言ったらこうと言う風にね。映像についての知識はあまりなかったが熱心でした。

前田:生馬先生の熱心さの象徴と言えるのは沖縄行きの話でしょう。生馬先生が医師会の仲間と沖縄へ行かれたときに彫刻家の山田真山という画伯に会われました。画伯は戦後の沖縄をイメージして平和観音像を作っておられたのですが、その作業振りを見て「これを撮りに来よう。費用は私が持つ。」と言われたそうです。後日5人の会員を連れて1週間沖縄へ行かれました。

その作品が「地上に平和を」です。その時沖縄へ行かれたのは生馬先生と梶原さん(何れも故人)、藤戸さんと吉方さん、武本さんです。

高塚:「地上に平和を」は、主として藤戸さんが16ミリで撮ったのを、吉方さんが編集されたそうです。

前田:京都映画で音を吹き込み、東洋現像所で完成しました。16ミリ、830フィートで、同時に8ミリの縮小版も作ったとあります。このフィルムは後日東京九段会館で開催された「沖縄平和公園建設協会」の発会式で山田真山先生に贈呈され、総裁・吉田茂氏から生馬先生に感謝状が授与されたと聞いています。

前田:「子猫物語(80歳はまだ若い)」は、生馬先生の伝記映画で、先生の人柄を知る上でよいネタなんです。生馬先生が亡くなられた次の例会はこの話題で持ちきりだったそうですね。

高塚:間違っているかも知れませんが、自分が医者だから自分の精子を顕微鏡で写して、動いているところを8ミリで撮って見せてもらったと思います。「子猫物語」は生馬先生が亡くなる前の話です。

前田:「吉方・鎌田両氏が生馬先生所蔵のフィルムから編集した。」となっています。

高塚:私が入会したのは昭和32~33年頃だったと思います。その頃の例会は生馬先生のお宅で開かれ、休憩時間にはぜんざいなどを出してくれて楽しかったことを覚えています。しばらくしたらステージやスクリーンを作って音声もいけるようになりました。見た作品には記憶がありません。ラッシュばかりでした。例会は毎月木曜日の午後でした。木曜日はお医者さんが昼までだったからだと思います。40年代にはテープレコーダーが出たので、これで音を入れましたが同調機が無いので音がずれていました。エルモの同調機が出たのはもっと後です。



「地上に平和を」の完成を伝える  
S38年11月発行の会報

## 2. 生馬賞の制定

前田:昭和48年(1973年)4月、創立20周年記念祝賀会が「寿司由」で開かれ、この席上「生馬賞」が制定されたそうですが、その辺の事情をお聞かせ下さい。

高塚:生馬賞は会長の本谷さんの発案だったと思います。生馬先生は喜んでお引き受け下さいました。

前田:翌年に市長賞が出ました。現在は市長賞、知事賞、生馬賞と三つの賞があり生馬賞は和歌山映像クラブの中で、その年度の最高の作品に与えられています。

高塚:市長賞も本谷会長が頼んでもらって来ました。この時は当時の宇治田市長が例会場まで来て授与されました。

前田:2年遅れて知事賞が出たそうですね。

高塚:知事賞は県議会議員をやっていた元会員、富田豊さんが「市長賞があるのに知事賞が無いのはおかしい。私がおらってきてやろう。」と言ってもらって来てくれました。

前田:1回目は市長賞、2回目は知事賞、3回目は生馬賞と、ついこの間まで年3回コンクールをやっていました。しかもそれぞれ金銀銅と3人が受賞したので、年に9回チャンスがありました。同じ人が2回も3回ももらったことがありました。

高塚:その時分は会員が多かったものね。

前田:その上今年退会された県議会議員の富田さんが個人で副賞も付けてくれました。



生馬杯

高塚:そこへ会長賞というのもありました。これは功労のあった人に渡していました。

前田:功労のあった人というのは選ぶのが難しかったでしょうね。だから本谷会長の時に始まって高塚会長の時には終わっています。

### 3. クラブの活動状況・・・藤戸氏



藤戸 輝一氏  
全日本写真連盟本部 顧問  
和歌山社会保険センター講師

前田:藤戸様の作品「那智の火祭り」がクラブでは初めて「全日本アマチュア映像コンクール」に入選されたという記録(昭和42年)があります。これについて何かお話し下さい。

藤戸:「那智の火祭り」は毎年写しに行きました。8ミリで20分ほどの作品です。泊り込みで撮影しました。少し足りなくて後でもう一度撮り足しに行ったこともあります。フィルムはASA25, コダックのカラーです。

前田:「全日本アマチュア映像コンクール」に出されたいきさつは?

吉方:コンクールはクラブの中ではまだあまり意識されてはおらず、それだけの腕も無かったので藤戸さんに和歌山代表として出してもらいました。

高塚:藤戸さんはニュースカメラマンとして県内を飛び回っており、この方面へも何度も行ってコツが分かっていたからですね。

藤戸:朝日放送から「和歌山で16ミリをやっている人が無いか。」と言って来たのですが、私だけしかいなかったの、和歌山駐在と言うことになってニュースばかり撮っていました。それで8ミリの方に出る時間が出来ませんでした。

前田:「全国アマチュア映像コンクール」の草分けなので、みんなも後に続いて欲しいと思います。

### 4. クラブの活動状況・・・吉方氏



パテーベビーを構える  
吉方 徳一氏

高塚:当時生馬さんのところでは編集の知識が無いのでラッシュばかりでした。それを吉方さんの所へ持込んで編集してもらったものです。吉方さんは自分が編集したのに、撮影者の顔を立てて本人が編集したことにしていました。

前田:頼まれて編集してあげた人は誰々ですか?

前田:吉方さんは創立直後に入会され長年作品作りの指導的立場に立って、多くの会員のお世話をされたと伺っています。当時の様子を少しお話し下さい。

吉方:私の映画好きは小学生の頃からです。スチール写真よりも動く映像の方が好きでした。昭和15～16年頃にフランス製のパテーベビーを買って、動く映像を撮っていました。当時のフィルムは蔵の中に入れておいたので戦災で焼いてしまって今はありません。当時使った風の音や水の音のレコードは今でも置いてあります。

高塚:当時生馬さんのところでは編集の知識



パテーベビー



吉方:誰々と言われてもすぐ名前が出てこないが、とにかくはっきりなしに頼まれそれがまた私の楽しみで、夜はほとんど部屋へ閉じこもってやっていました。

前田:タイトルを付けはじめたのは?

吉方:初めから付けていました。水軒の浜を写して「春の海」というタイトルを付けたところ、「タイトルが付いている」と驚かれました。大工さんに頼んでタイトルを作るセットを作ってもらってタイトルを入れたのです。

南川:生馬先生の作品も編集したり、タイトルを入れたりされたのですね。

吉方:まあそんなところですよ。家で小間物屋の商売をしながら編集やタイトル入れをしていたので夜だけでは間に合いませんでした。

前田:吉方さんは長い間縁の下の力持ちをやってくれたわけですね。

どこかから感謝状を貰えばいいのに。

吉方:私は人に喜んでもらえたり楽しんでもらえたら、それで充分です。

前田:吉方さんの「母の詩」は?

吉方:これは頼まれ物です。クラブの人達にも撮影に協力してもらいました。完成には約6ヶ月ほど掛かりましたが、あの作品は依頼された刑務所の方々のみならず受刑者の方々にも大変喜んでいただけました。

しかし現在は時勢の変化で、この作品は上映して見せるわけには行きません。

高塚:当時は刑務所の見学も出来たし撮影も出来たが今は様子が変わって、人権擁護の視点からあのような撮影は一切出来なくなっています。



8ミリ リール・フィルム

## 5. クラブの活動状況・・・高塚氏

前田:高塚さんは本谷氏の後を受け第4代会長に推されて足掛け20年の長きに亘って会長の重責を担って来られました。会員の出入り、時代の変遷もあってご苦労も多かったと存じますが、いくつか思い出話を聞かせてください。

高塚:バイヤーをやっていた私の叔父が、たまたまアメリカで買ったコダックの当時「弁当箱」と呼ばれていた8ミリカメラを貸してくれ、それを使って出征兵士を撮って来て喜ばれたことを思い出しました。昭和15年頃のことだと思います。ところが映写機が高くて買えないので小学校から16ミリの映写機を借りて来て、半分マスクをして映写しました。映写会のときにレコードに印をつけてBGM代わりに流したことがあります。



高塚 修氏

初代会長は生馬さん、次が梶原さんでした。この人は熱心な人で、いろいろ教えてもらいました。そのうちに「お前、副会長をやれ」と言われて副会長にしてもらいました。その間吉方さんのところへ行って、よく教えてもらいました。

前田:梶原さんが亡くなった後、昭和47年(1972年)に本谷さんが第3代会長に就任しましたね。

高塚:そのときに吉方さんが適任だと言う話が出たのですが、吉方さんが固辞されたので他にやる人が無く年齢的にも本谷さんがよかろうという事で就任してもらいました。

前田:その頃例会は何処でやっていたか?

高塚:しばらくの間日赤前の電電会館でやっていました。そのうちに井崎さんが家を建てたので、その二階を借りて例会を開くようになりました。

前田:そして昭和52年(1977年)に高塚さんが第4代会長に就任されました。その頃は毎月の例会でも月例賞があったのですね。

高塚:その頃は会員が80人くらいおり例会には30人くらい出席していました。

富士フィルムが昭和40年「マガジン・ポン わたしにも写せます」という撮影機を売り出してから、いっぺんに会員が増えました。公開映写会に出す作品を選ぶのに苦労しました。

新しい会員には吉方さんがよく指導をしておられました。

前田:昭和61年(1986年)から平成7年(1995年)まで高塚さんの家で例会を開かせてもらいました。私はそこで育ちました。

高塚:あの例会場を作るのには、いろいろ苦心しました。部屋は20畳ほどで、正面は箱型のステージ風にし、スピーカーは完全防音にするためコンクリートで固め、投影するため壁に枠を作ったりしたので、設計士に「何のためにそんな大層な事をするのか」と笑われました。

新しい技術の試みも熱心にやりました。それはカメラ3台で同時に撮影して、3台同時に映写する「三面マルチ」と言うもので、会員の金谷さんとハワイで作って来ました。昭和49年(1974年)です。またモデルを東京から呼んでヌード撮影会をやったこともありました。



フジカシングル 8 の CM  
(富士フィルムのホームページから)

## 6. クラブの活動状況・・・共同制作

前田:クラブの共同作品名がいくつか記録に残っていますが、それぞれにまつわる思い出話をお聞かせ下さい。先ず「明治100年郷土和歌山」について、どこかで頼まれたのですか?

高塚:これは和歌山文化協会に頼まれたもので、出来上がったフィルムは紀三井寺競技場のタイムカプセルに入れました。主になってやったのは本谷さんでした。お茶屋やスナックやモーテルやミニスカートなども当時の風俗として撮ってありました。



くろしお国体

前田:「くろしお国体」は?

高塚:当時の梶原会長の兄貴が国体のボートに関係していたので写すことになり、撮ったフィルムを吉方さんのところへ持込みました。みんなで分担しましたが、カメラをシングルに統一し、編集は吉方さんに引き受けてもらいました。長さは30分くらいだったと思います。ナレーションも入れました。国体のフィルムがまだ沢山あるので見たい人があればお見せします。

前田:次は「小野田元陸軍少尉の帰還」についてお願いします。

高塚:海南の8ミリ同好会の皆さんが中心になって、みんなで手分けして、東京から列車に乗ってくるのを写しに行きました。

前田:東京まで写しに行ったのですか?

高塚:東京から小野田さんと一緒に来る人に頼みました。大阪駅からバスに乗って来るのを孝子峠から和歌山映像クラブで引き受けて撮りました。それを吉方さんのところへ持ち込んで編集してもらいました。



小野田元陸軍少尉の帰還

吉方:自分で見ていないものを編集するのは難しい。折角撮ったものをカットしたと言って、文句を言われたのは辛かったですね。

前田:次は「車イスと共に」(施設へ寄贈)とありますが何処へ寄贈したのですか？

高塚:これはある団体から頼まれて「街の中に車イスで動けない道があり行政に陳情したいので、そういうところを撮って欲しい。」と頼まれて鎌田さんと2人であちこち回って撮りました。それを1本のフィルムにまとめて車イスの人達にも見せ団体に寄贈しました。

## 7. 和歌山県アマチュア映像連盟との関係

前田:現在の「和歌山県アマチュア映像連盟」の前身である「和歌山県小型映画連盟」が、昭和41年(1966年)に白浜・聴濤閣で結成され、生馬先生が初代会長に就任されたとあります。

前田:第二代会長の本谷さんが亡くなられた時点で、松山さんが「紀三井寺はやし」へ臨時総会を招集され、「和歌山県アマチュア映像連盟」に組織を改組されました。その2~3ヵ月後に大阪の「天野屋」で総会を開催し、そのときの役員が会長松山、副会長高塚、事務局長丹生、会計監査大井で、平成4年(1992年)に発足しました。

高塚:松山さんは学校の先生だったので教育に映像も利用出来、県とのつながりも強いということだったようです。その頃、和歌山だけの映写会と県小型映画連盟の映写会と2つやっていました。県の方は昼と夜2回やったが、あまり入ってくれませんでした。私達の8ミリ映写会にはよく入ってくれました。8ミリ映写会の世話役は吉方さんがやってくれていました。

## 8. 全国組織との関係

藤戸:玄光社主催の「小型映画友の会」の全国大会が毎年各地で行われ、和歌山は第1回から参加しました。昭和42年(1967年)の第6回大会は和歌山が名乗りを上げて、「熊野路全国大会」として紀南で開催され、私達がお世話をしました。

前田:昭和43年(1968年)9月「小型映画友の会 九州全国大会」と、翌年の「東北大会」、翌々年の「北陸大会」などに大型観光バスを仕立てて大勢で参加し他府県からの参加者の度肝を抜いたと評判ですが、その辺の事情をお聞かせ下さい。

吉方:文化協会からの参加もあったのですが、1週間から10日程行って来ました。冷房の無いバスで窓は開けっ放し、頭から鼻の穴まで真っ白になってしまいました。西瓜と包丁を買ってバスの中で西瓜を食べながらのドライブでした。

高塚:全国大会で遠野へ行ったこともありましたね。

前田:作品コンクールで入賞したことがありますか？

高塚:本谷さんが時々出して入賞していました。私は2度くらいでそれから後は出していません。

前田:あの頃は全国大会の後で作品コンクールをやっていましたが、今はやらなくなったようですね。

吉方:私の場合は新人の作品ということで大阪へ出したら大阪が勝手に東京へ出してしまい、両方でトップ賞をもらったことがあります。これは「ナクサ」の全国大会です。

高塚:その他に現在「全国映像作家連盟」という会があって和歌山からは私と元会員の武本さんが入っています。年に1回親睦会をやっています。

前田:以前例会に、会員以外の作品が「ライブラリー」という呼び名で上映されていた記録がありますが、あれはどんな制度だったのですか？

高塚:「小型映画」が全国大会で入賞した作品を保管していて、一時貸出していたのです。作品の上達に大変役に立ったと思います。今も同じようなシステムがあるか研究してみるといいですね。

## 9. マスコミとの関係

前田:NHKほかマスコミともいくつか関わりがあったようですが。昭和47年12月和歌山放送の「映画を語る座談会」に本谷さん他3人が出席したとありますがご記憶がありますか？

高塚:やりましたな。記録は取っていませんが。

前田:昭和48年10月高塚さんのお家の新築披露に映写会をやって、NHKが取材に来たとあります。

高塚:来ましたな。この頃はNHKがよく協力してくれました。

前田:昭和50年12月、辻・塚本・良井・堀津の4名の作品をNHKが上映したそうですね。

吉方:県民文化会館の壇上で座談をやったことがあります。

前田:昭和51年2月和歌山放送のラジオで本谷さんが「8ミリ談義」をやったという記録がありますが、ご存知ありませんか？

高塚:覚えていませんね。

前田:昭和52年9月NHKニュースワイドで上野さんの「お城の動物園」が放送されたようですが。上野さんというのはどなたですか？

高塚:千田さんの近くの人です。

前田:平成2年11月、ニュース和歌山の「ふれあいネットワーク」で中本悦子という女性記者が高塚さんのところへ例会風景を取材に来て「映写室だけでも驚いたのに、隣りにまだ機械室があるのですね。」とびっくりして記事に載せました。

高塚:そう、そんなこともありましたね。

前田:平成3年6月、読売新聞に「熟年・時の輝き」として、70歳以上の会員がこれだけ元気にやっているという記事と写真が載りました。

前田:平成11年1月、テレビ和歌山が吉方さんのところへ来て、昔の器材を前にして数人で話し合っているのを取材しました。

## 10. 後輩へのメッセージ

南川:先輩の方々から最近入会した私達に対して何かメッセージがありましたらおっしゃって下さい。

吉方:いい人達が入会して来てくれたと喜んでます。

高塚:私が心配するのは新しく入って来た人があまり熱を入れ過ぎて途中で止まってしまうということです。今までもそうでした。ある程度おだても必要だし、あそこが悪い、ここが悪いとあまり批判しない方がよいと思います。

吉方:例会場へ持って来るのは自分でよく出来たと思う作品なのだから、あまりいろいろ言われたら持って来なくなってしまう。悪いところは自分で気が付いて直して行くでしょう。

高塚:プロが批判するならともかく、仲間内での批判は避けたほうがいいと思います。みんなが楽しんで、遊びでやっているのですから。

中嶋: 私は批評してもらった方がよいのですが。

前田: 例会で指名して批評や感想を求めるといったやり方はどうですか？

南川: 大勢の方々の価値感や美意識が違うのは当然なので、私は皆様のそれぞれの感想やご意見をお聞きしたいと思います。それで先日の例会では皆様の作品映写後、指名して感想を求め風にも司会させて頂きました。

私は自分の作品を一人で見ている場合と、みんなが見てくれている中で見るのでは全然違います。皆さんに見ていただきますと自分一人では気付かなかった、つまらない部分があるの場が分かります。さらに何らかのコメントをいただくと次の作品づくりに大変役立つと思っています。

吉方: 私が「あれは何処で撮ったの、どうして撮ったの。」と聞くのは興味があるからで、悪い意味で聞いているのではないと思っています。

高塚: 以前例会とは別に研究会を開いて技術的な問題を討議していましたが、批判されるのがいやで来ない人が増えてきたので止めてしまいました。

藤戸: 私は「だんだん上手くなってきたね。」と言ってもよいが、批判的なことはなるべく言わないほうがよいと思っています。大抵の人は「いいことを言ってくれた。」とは受け取らないからです。人によっては何処で撮って来たのかと聞かれるだけでも嫌がる人もいます。

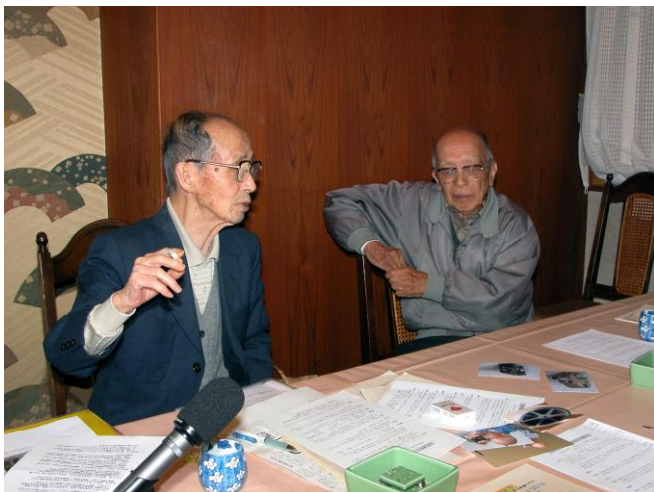
高塚: 批判がいやな人は作品を持って来なくなります。

前田: 遊びというのと研究というのとどちらへ傾くか、折にふれて出て来る問題ですね。

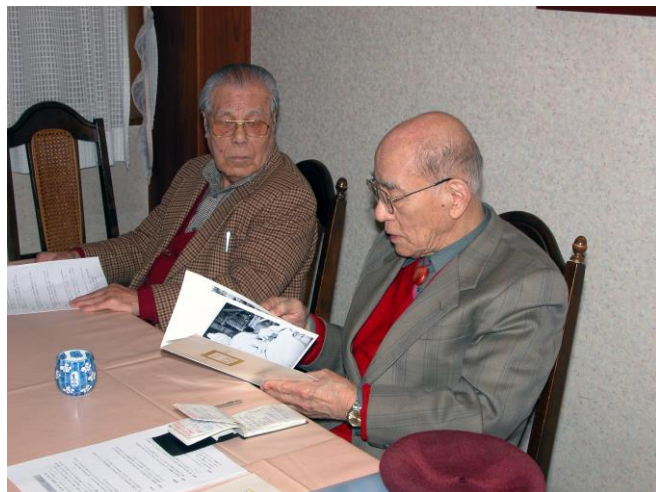
中嶋: 作品発表前に本人がメモを読みますが、その時批評して欲しい人はその旨申し添えたらよいと思います。

南川: 批評がいやと言う人がいるということにあまり気が付いていませんでした。今度の例会から批評が欲しいかどうか、本人の意向に沿った形で進める事にしましょう。

前田: いいお話をいろいろ聞かせて頂きました。このエキスを文書にまとめ50周年記念誌を作って差し上げます。本日はどうも有り難うございました。



前田氏 と 吉方氏



高塚氏 と 藤戸氏

# 和歌山映像クラブ50年の歩み

## 昭和29(1954)年

12月、「創立総会」開催、「ナクサ和歌山支部」として。(注)ナクサ=NACSA, 日本アマチュア・シネスライド・アソシエーションの略、小西六(さくら)系統の団体。和歌山城内「湖月」にて。生馬茂、藤戸輝一両氏を中心に、藤沢、菱川、田幡、溝口、浜野、田村、中村、谷口、栗山、成川、秋山、奥野、西脇、客殿、西峰、稲葉、木村、畔柳、小坂、田谷、以上22名にて発足。初代会長に生馬茂氏、副会長に藤沢元雄氏就任。



ベル&ハウエル

## 昭和30(1955)年

11月23日、クラブ創立第1回撮影会、「室生寺」にて。12月15日、生馬会長宅にて「忘年懇親会」を開く。参加者15名。「例会」を、毎月第3土曜日に生馬会長宅で開催することを申し合わせる。

## 昭和31(1956)年

5月10日、東京「玄光社」より『小型映画』誌発行される。第3回「ナクサコンクール」入選作品発表映写会を「紀の国荘」で開催。

## 昭和32(1957)年

5月、第4回「ナクサコンクール」入選作品発表映写会を商工会議所で開催。国産フジ8ミリカラーフィルム、フジマグネトーキー映写機、エルモFTS組込みF-SO映写機が発売され、8ミリブーム起こる。

## 昭和33(1958)年

4月、第5回「ナクサコンクール」入選作品発表映写会を「歯科医師会館」にて。8月、「全国小型映画友の会(CFC)」発足、「和歌山支部」として加入。10月、生馬会長 マグネトーキー「アメリカ村」を発表。

## 昭和34(1959)年

7月、撮影会、和歌山城内で、コンテによる劇映画「拾われたハンカチ」、モデルを「みかん座演劇研究会」より。8月、「エルモ同調機」発表、テープトーキー大いに威力を発揮。10月、撮影会。「有田辰ヶ浜、広の八角網」を撮影。モデル2名。12月、「総会・忘年会」を京橋「かき惣」にて。出席13名。

## 昭和35(1960)年

2月、撮影会。湯浅町広川「白魚とり」。「国産ズーム撮影機」が発売される。12月、「総会・忘年会」をアロチ「郵政クラブ」にて。出席24名。

## 昭和36(1961)年

2月、名称を『和歌山シネクラブ』に改称。(ナクサ本部の解散による。) 3月、撮影会、再び「白魚とり」。参加者13名、モデル2名。6月、撮影会。加古川「登竜の滝」「鮎狩り」。参加者16名。12月、「総会・忘年会」を紀三井寺「はやし」にて。出席25名。第1回「小型映画友の会—徳島全国大会」に、生馬会長が出席。

S36年当時のガリ版刷り会員名簿

## 昭和37(1962)年

3月、撮影会、「賀名生梅林」。5月、第2回「小型映画友の会—京都全国大会」に生馬・藤戸・吉方・貴志参加。7月、撮影会(2泊)。「那智の火まつり」「勝浦ヌード」、モデル2名。11月、撮影会、「秋の吉野山」。12月、撮影会、「有田みかん山」。参加13名、モデル3名。「総会・忘年会」を紀三井寺「はやし」にて。出席32名。

## 昭和38(1963)年

2月、「コダクローム」日本東洋現像所にて現像始める。3月、「地上に平和を」沖縄ロケ。生馬・藤戸・梶原・吉方・武本で撮影旅行。5月、第3回「小型映画友の会—岐阜全国大会」に参加。7月、共同制作『地上に平和を』完成。10月、撮影旅行(5泊)。「秋の十和田湖・奥入瀬」。11月、撮影会、「延命寺」。参加者19名。12月、「総会・忘年会」を築地「浪の家」にて、出席29名。

## 昭和39(1964)年

5月、撮影会、「信貴山」。6月、「第一回・和歌山シネクラブ公開映写会」を歯科医師会館にて開催。7月、撮影会、由良「興国寺・灯籠焼き」。生馬・梶原・吉方・藤戸・福田。9月、沖縄の「山田真山」氏を迎え、新和歌浦「米栄楼」にて歓迎会。老人ホームを慰問映写。梶原・武本・菅原。12月、「総会・忘年会」を「六三園」にて。第4回「小型映画友の会—日光全国大会」に参加。

## 昭和40(1965)年

1月、撮影会、淡路島「黒岩水仙郷」にて。4月、撮影会、「道成寺」にて。6月、撮影会(ヌード撮影)、風吹峠・砂川。8月、撮影会、「PL花火大会」。共同制作映画『地上に平和を』を、「財団法人・沖縄平和公園建設協会」<総裁・吉田茂>へ贈呈する。「東京九段会館」にて。11月、撮影会、「有田みかん」と、糸我「中将姫遺蹟」。12月、「総会・忘年会」を「六三園」にて。坂本為之氏を招待。

## 昭和41(1966)年

2月、撮影会、「白浜温泉」。3月、「日高地方社会教育委員会」の委嘱により、日高の郷土芸能を撮影。<御坊市・鉢の木旅館大広間にて> 生馬・藤戸・梶原・鎌田。4月、撮影会、伊賀上野「忍者屋敷」。5月、第6回「小型映画友の会—信濃全国大会」は「松代地震」のため中止。代わりに「長野支部主催・撮影会」。吉方・井崎・貴志が参加。7月、撮影会(ヌード撮影)、「日置海岸」。参加者30名、モデル2名。12月、『和歌山県・小型映画連盟』結成。初代会

長に生馬茂氏。《白浜温泉・聴濤閣にて》「総会・忘年会」を「六三園」にて。

#### 昭和42(1967)年

7月、第6回「小型映画友の会—熊野路全国大会」を開催。9月、上記「熊野路大会」成功の祝賀会を「葵館」にて。10月、藤戸輝一氏の「那智の火祭り」が、第8回「全日本アマチュア映画コンクール」に入賞。11月、撮影旅行(1泊)、四国「祖谷」へ。12月、「総会・忘年会」を「六三園」にて。

#### 昭和43(1968)年

第2代会長に「梶原隆」氏就任。生馬前会長、那智勝浦へ移住のため。1月、例会場を「井崎ビル」2階に変更。4月、撮影会、富田林「PLランド」。桜は満開、モデル2名。7月、「紀人会」浜光治氏より『明治100年郷土わかやま』作成の依頼を受け、撮影を開始。昭和47年、感謝状と大トロフィーを授与される。9月、第7回「小型映画友の会—南九州全国大会」に、大型観光バスにて参加。10月、撮影会(1泊)、「高野山」にて。徳島のクラブも参加。12月、「総会・忘年会」を「六三園」にて。生馬氏を「名誉会長」に推戴。

#### 昭和44(1969)年

2月撮影会、「南部梅林」にて。モデル2名。3月、「第二回・和歌山シネクラブ公開映写会」を歯科医師会館にて開催。4月、撮影会、「河内・金剛山」にて。参加12名。5月、撮影会、「田辺・元島」にて。参加10名。7月、撮影会(1泊)…ヌード、「百間溪」にて。参加15名、モデル2名。8月、第8回「小型映画友の会—東北全国大会」に、大型観光バスにて参加。12月、「総会・忘年会」を「和歌浦・米栄楼」にて。

#### 昭和45(1970)年

2月、「第1回和歌山県小型映画連盟・総会」を奥新和歌「ニュー観潮」にて。撮影会、「雑賀崎・旧正月風景」を。4月、山田真山先生、沖縄より来和。和歌浦「不老館」にて歓迎会を開催。5月、「第三回・和歌山シネクラブ公開映写会」を紀の国会館にて開催。6月、「和歌まつりコンテスト」を例会でおこなう。7月、第9回「小型映画友の会—沖縄全国大会」に、生馬・梶原・武本氏参加。8月、『和歌山・国体』を明年に控え、「インターハイ」を撮影、8名参加。撮影会、「竜神・護摩壇山」にて。9月、撮影旅行(4泊)、「秋芳同、萩、津和野、出雲、鳥取」方面へ。11月、第3回県民文化祭参加『8ミリ映画祭』開催。「県民文化会館」にて。12月、「総会・忘年会」を「和歌浦・米栄楼」にて。

#### 昭和46(1971)年

2月、「第2回和歌山県小型映画連盟・総会」を「有田シネクラブ」担当で。＜同時、青ノリ採りを撮影＞3月、撮影旅行(1泊)、「三河湾国立公園…伊良湖岬」方面へ。4月、撮影会、「桃山町」にて。桃花満開。5月、「第四回・和歌山シネクラブ公開映写会」を県民文化会館大会議室で。7月、撮影会、湯浅町・広川上流にて。鎌田氏の指導、モデル2名。8月、第10回「小型映画友の会—北陸全国大会」に、大型観光バスにて参加。10月、和歌山『くろしお国体』に両陛下御来県、クラブ員合同で撮影。11月、撮影会、「四郷の柿」。14名参加。第4回県民文化祭参加『8ミリ映画祭』「県民文化会館」にて開催。12月、「総会・忘年会」を「和歌浦・米栄楼」にて。

#### 昭和47(1972)年

2月、「第3回和歌山県小型映画連盟・総会」を「新宮8ミリ映画同好会」担当、湯川温泉「ニュー勝浦」にて。県主催『くろしお国体8ミリコンクール』発表映写会にて、1位受賞。4月、撮影会、「由良・興国寺」。虚無僧ほか多数モデル参加。24名参加。5月、完成した『明治100年の郷土わかやま』…500フィート2巻を「国体記念カプセル」に収納。梶原会長逝去に伴い、第3代会長に「本谷惣山」氏就任。7月、合同作品『とどろけ黒潮』完成。祝賀パーティを長安閣にて。「第五回・和歌山シネクラブ公開映写会」を県民文化会館小ホールで。8月、撮影旅行(1泊)、「福知山まつり」。11月、第5回県民文化祭参加『8ミリ映画祭』「県民文化会館」にて開催。前記『明治100年郷土わかやま』の観賞会が「紀人会」主催で開催。知事・市長はじめ100名の観客、「東邦荘」にて開催。12月、「和歌山放送」の特別番組『映画を語る座談会』に本谷会長ら3名出演。「総会・忘年会」を奥新和歌「七洋園」にて。クラブの名称を『和歌山8ミリクラブ』に変更。

#### 昭和48(1973)年

3月、「第4回和歌山県小型映画連盟・総会」と「粉河撮影会」を開催。4月、「和歌山8ミリクラブ」創立20周年記念祝賀会を開催。同席上『生馬杯』を授与。＜会場「寿司由」、会員33名出席＞5月、20周年記念撮影会(家族ぐるみ)を「養翠園」にて、70名参加。6月、「第六回・20周年記念公開映写会」を県民文化会館小ホールで開催。＊動員観客数…400名。8月、CFC主催「第12回・平戸、佐世保…撮影大会」に参加。10月、撮影旅行、「福知山・松茸狩り」へ。13名参加。高塚邸新築披露「映写会」、30名参集。NHKより取材あり。「録音・講習会」開催。11月、第6回県民文化祭参加『8ミリ映画祭』。昼夜2回於「県民文化会館」。撮影会、「紀伊風土記の丘」。モデル3名。NHKより取材あり。12月、「総会・忘年会」を「寿司由」にて。44名参加。冊子『20年の歩み』発行。

#### 昭和49(1974)年

2月、「磁気録音・研究会」を開催、高塚氏宅にて。「第5回和歌山県小型映画連盟・総会」と「石神梅林撮影会」を開催。4月、『小野田元陸軍少尉の帰郷』状況を、海南8ミリ同好会と合同撮影。「50ftノーカット映画」の研究会、高塚氏宅にて。4月例会に、市長来会、『市長杯』授与。5月、撮影会、「加太・潮干狩り」。家族同伴、70名参加。50ftノーカット。6月、「第七回・和歌山8ミリクラブ公開映写会」を県民文化会館小ホールで。大橋知事来会、挨拶さる。3面マルチ作品も上映。7月、撮影会、「白浜…ヌード」。(マイクロバス満員で参加。)9月、「タイトル・研究会」を開催、高塚氏宅にて。10月、CFC主催「第13回・山口、萩…撮影大会」に参加。撮影旅行(1泊)、「福知山・松茸狩り」。13名参加。11月、第7回県民文化祭参加『8ミリ映画祭』。昼夜2回於「県民文化会館」。生馬茂・本谷惣山両氏、49年度「全日本社会教育功労者表彰」を受賞。12月、「総会・忘年会」を「寿司由」にて。42名参加。次年度より、年会費5,000円。

## 昭和50(1975)年



S50年5月増刊号

2月、「第6回和歌山県小型映画連盟・総会」と「高野山撮影会」を開催。富士フィルム大阪支社より『ZC-1000』の説明(例会)。3月、撮影会、「賀名生梅林」。マイクロバスにて、21名参加。5月、撮影会、「エキスポランド…家族と共に」。45名参加。6月、「第八回・和歌山8ミクラブ公開映写会」を県民文化会館小ホールで。7月、CFC主催「第14回・東北、出羽路…撮影大会」に参加。8月、クラブの制帽…赤色…夏・冬用完成。9月、富士フィルム大阪支社より『サウンド映写機SH-30』の説明(例会)。11月、第8回県民文化祭参加『8ミリ映画祭』。「県民文化会館」にて。<上記、新製品「SH-30映写機」始めて使用。>「初心者講習会」を開催。12月、NHK・TVで、辻・塚本・良井・堀津各氏の作品が上映される。「総会・忘年会」を料亭「夕やけ」にて。会長・副会長・会計の他、幹事(指導・企画広報)を置く。

## 昭和51(1976)年

2月、撮影会、「雑賀崎・旧正月風景」。「WBC和歌山放送」で、本谷会長『8ミリ談義』に出演。3月、「和歌山刑務所」にて、吉方氏他数氏共作の映画『母の詩』を上映。4月、撮影会、「みさき公園」。家族と共に、25名参加。5月、「第7回和歌山県小型映画連盟・総会」と「和歌祭り撮影会」を開催。<参加者、65名>6月、「第九回・和歌山8ミクラブ公開映写会」を県民文化会館小ホールで。7月、「録音…パルス打込み、互換性について」研究会開催。(吉方氏宅)

CFC主催「第15回・松山・宇和島…撮影大会」に28名参加。11月、第9回県民文化祭参加『8ミリ映画祭』。「県民文化会館」にて。撮影旅行(2泊)、「蒜山高原」へ特別バスにて、25名参加。12月、富士フィルム大阪支社より『シングル8・サウンド』の説明(高塚氏宅)。「総会・忘年会」を「円山亭」にて。34名参加(会員数=73名)。

## 昭和52(1977)年

2月、撮影会、「石神梅林」にて。18名参加。4月、「ミニ撮影会」と研究会。「お城の動物園」にて。5月、「第8回和歌山県小型映画連盟・総会」と「八角網・撮影会」を開催。6月、「第十回・和歌山8ミクラブ公開映写会」を県民文化会館小ホールで。<動員観客数、400名>7月、撮影会、「たそがれコンサート」。撮影旅行(1泊)、「福知山・鮎狩り」。福知山8ミリ同好会と交歓。8月、CFC主催「第16回・新潟、佐渡…撮影大会」に参加。9月、NHK「ニュースワイド640」に上野氏の『お城の動物園』放映。10月、第10回県民文化祭参加『8ミリ映画祭』。「県民文化会館」にて。11月、撮影旅行(1泊)、「当尾の里」へ。12月、「総会・忘年会」を「円山亭」にて。役員改選により、第4代会長に「高塚修」氏就任。

## 昭和53(1978)年

クラブ創立25周年。SH-30サウンド映写機・例会場用黒板を購入。4月、「第9回和歌山県小型映画連盟・総会」と「串本、大島撮影会」を開催。5月、創立25周年記念「撮影会」を「友が島」にて。家族共70名参加。6月「第十一回・和歌山8ミクラブ公開映写会」を県民文化会館小ホールで。10月、撮影旅行(1泊)、「大台が原」へ。20名参加。第11回県民文化祭参加『8ミリ映画祭』。「県民文化会館」にて。11月、生馬名誉会長、県「文化功労者賞」を受賞。12月、「総会・忘年会」を「円山亭」にて。『知事賞』新設さる。

## 昭和54(1979)年

2月、撮影会、「南部梅林」にて。11名参加。5月、撮影会、「打田アスレチック」にて。家族共30名参加。6月、「第十二回・和歌山8ミクラブ公開映写会」を県民文化会館小ホールで。7月、「第10回和歌山県小型映画連盟・総会」と「白浜撮影会」を開催。9月、CFC主催「第18回・遠野、三陸…撮影大会」に参加。10月 第12回県民文化祭参加『8ミリ映画祭』。「県民文化会館」にて。11月、撮影旅行(1泊)、「湖東三山」へ。9名参加。12月、「総会・忘年会」を「円山亭」にて。(会員数、65名)

## 昭和55(1980)年

3月、撮影会、「根来寺」にて。19名参加。5月、「第11回和歌山県小型映画連盟・総会」と「真田祭り撮影会」を開催。6月、「第十三回・和歌山8ミクラブ公開映写会」を県民文化会館小ホールで。8月、例会を「納涼ビールパーティ」に変更、26名参加。(高塚会長宅)同月、撮影旅行(1泊)、「上高地」へ。21名参加。10月、第13回県民文化祭参加『8ミリ映画祭』。「県民文化会館」にて。11月、撮影会、「談山神社・蹴鞠」。15名参加。12月、「総会・忘年会」を「円山亭」にて。62名参加。

## 昭和56(1981)年

3月、撮影会、「ポートピア81」。雨天の中、16名参加。4月、「第12回和歌山県小型映画連盟・総会」と「根来寺撮影会」を開催。6月、「第十四回・和歌山8ミクラブ公開映写会」を県民文化会館小ホールで。<エルモGS-1200クセノン映写機使用…高塚会長所有>8月、撮影会、「信楽の里」。17名参加。同月、「納涼ビールパーティ」開催、25名参加。(高塚会長宅)10月、第14回県民文化祭参加『8ミリ映画祭』。「県民文化会館」にて。11月、本谷前会長、「勲五等瑞宝章」授与さる。同月、撮影会、「牛滝山」にて。家族共15名参加。12月、「総会・忘年会」を「円山亭」にて。(会員数48名)。

## 昭和57(1982)年

3月、撮影会、「神戸・異人街」にて。5月、「第13回和歌山県小型映画連盟・総会」と「友が島撮影会」を開催。7月、「第十五回・和歌山8ミクラブ公開映写会」を県民文化会館小ホールで。同月、撮影会、「50ftノーカット」を和歌山城内にて。10月、月刊誌「小型映画」休刊。同月、第15回県民文化祭参加『8ミリ映画祭』。「県民文化会館」にて。11月、撮影旅行(1泊)、「書写山・円教寺・北条石仏」へ。16名参加。12月、「総会・忘年会」を「東通会館」にて。(会員数48名)。



【補記】 以上は昭和48(1973)年発刊の『20年の歩み』および、昭和58(1983)年発刊の、創立30周年記念誌『みそ路』から、今般抜粋・編集しなおしたものです。またこの後の歩みは、毎月の『会報』などから抜粋して引き続き記載します。

#### 昭和58(1983)年

4月、撮影会、「奈良公園」、参加者8名。5月、「第14回和歌山県小型映画連盟・総会」と「得生寺会式撮影会」を開催。〔年会費6,000円〕6月、「第十六回・和歌山8ミクラブ公開映写会」を民文化会館小ホールで。8月、「30周年記念パーティー」を紀の国会館にて。出席30名。思い出のフィルム上映、記念写真撮影、祝宴。記念誌『みそ路』発行。9月、撮影旅行(1泊)、「近江八幡水郷めぐり」。参加者9名。10月、第16回県民文化祭参加『8ミリ映画祭』を県民文化会館小ホールにて。12月、「総会・忘年会」を「バンビー」にて。出席27名。この年、連盟総会の記録なし。

#### 昭和59(1984)年

4月、撮影会、「高野口の桜」。8名参加。5月、「第15回和歌山県小型映画連盟・総会」と「白浜撮影会」を開催。6月「第十七回・和歌山8ミクラブ公開映写会」を県民文化会館小ホールで。同月、生馬先生の伝記映画「子猫物語」「80才はまだ若い」…を上映(例会)＜吉方・鎌田両氏が生馬先生宅所蔵のフィルムから編集。＞9月、共同作品「車イスと共にあるいて」を施設に寄贈。10月、第17回県民文化祭参加『8ミリ映画祭』を県民文化会館小ホールにて。11月、撮影会。「太秦映画村」。同月、昭和59年度『和歌山文化奨励賞』を「和歌山県小型映画連盟」が受賞。受賞を記念して会員の作品ライブラリー「ふるさとの記録」を発刊。12月、「総会・忘年会」を「紀の国会館」にて。出席30名。

#### 昭和60(1985)年

4月、「ソニー8ミリビデオ」のデモ。カメラ28万円という。(藤戸氏)同月、「第16回和歌山県小型映画連盟・総会」と「湯の峰、本宮撮影会」。6月、「第十八回・和歌山8ミクラブ公開映写会」を県民文化会館小ホールで。＜福知山8ミリ同好会より会長等2名来会。＞7月、生馬先生の胸像の除幕式が、郷里「湯川」で行われた。8月、生馬茂(名誉会長)先生湯川にて、94才の天寿を全うされた。会員10名、お通夜・告別式に参列、御冥福を祈った。(30日)10月、第18回県民文化祭参加『8ミリ映画祭』を県民文化会館小ホールにて。10月、例会で生馬先生を偲ぶ作品が上映された。「ある日の生馬先生」…鎌田、「沖繩平和記念堂開堂式」…吉方。11月、本谷前会長、昭和60年度「和歌山市文化功労賞」を受賞された。12月、「総会・忘年会」を「紀の国会館」にて。

#### 昭和61(1986)年

4月、撮影会、「和歌山城」にて。6月、「第十九回・和歌山8ミクラブ公開映写会」を県民文化会館小ホールで。10月、第19回県民文化祭参加『8ミリ映画祭』を県民文化会館小ホールにて。同月、撮影旅行(1泊)、「南紀グリーンピア」。7名参加。11月、「第17回和歌山県小型映画連盟・総会」と「四郷の干し柿撮影会」。同月、今月より『例会場』を「井崎ビル」より、「高塚氏宅」に変更。12月、「総会・忘年会」を「紀の国会館」にて。

#### 昭和62(1987)年

4月、「第18回和歌山県小型映画連盟・総会」と「根来寺・桃山町撮影会」。6月、「第二十回・和歌山8ミクラブ公開映写会」を県民文化会館小ホールで。9月、「県文化祭参加功労」により、「県映連」が仮谷知事より感謝状授与。10月、第20回県民文化祭参加『8ミリ映画祭』を県民文化会館小ホールにて。11月、撮影会、「河内長野・サイクリングセンター」。12月、「総会・忘年会」を「紀の国会館」にて。

#### 昭和63(1988)年

6月、「第19回和歌山県小型映画連盟・総会」、「紀の国会館」にて。(撮影会は行わず)参加当クラブ=20名、他クラブ=9名。同月、撮影会、「奈良・シルクロード博」にて。8名参加。9月、撮影会、「大阪・万博記念公園」にて。10月、第21回県民文化祭参加『8ミリ映画祭』を県民文化会館小ホールにて。同時に「第18回県8ミリコンクール」表彰式。本年より春の「公開映写会」は中止された。12月、「総会・忘年会」を「紀の国会館」にて。

#### 平成 1(1989)年

1月、昭和天皇崩御(7日)。平成元年となる。3月、「ビデオカメラ」を始めて持込んで『ビデオ研究会』。(高塚会長宅)＜岩橋会員をはじめ、11名参加。＞鎌田副会長逝去さる。4月、撮影会、「緑化センター」にて。7名参加、モデル5名。同月、撮影会、「食博見学と関西空港クルージング」。(県文化協会行事)6月、第2回『ビデオ研究会』。10名参加。10月、「第20回和歌山県小型映画連盟・総会」と「撮影会」。橋本市…柿の選果場・釣り竿制作工房・隅田八幡秋の大祭など。10月、第22回県民文化祭参加『8ミリ映画祭』を県民文化会館小ホールにて。同時に「第19回県8ミリコンクール」表彰式。11月、例会・上映作品が「フィルム…1点」「ビデオ…4点」の現象表れる。12月、「総会・忘年会」を「紀の国会館」にて、25名参加。(会員数33名)

#### 平成 2(1990)年

1月、例会・上映作品「フィルム…4」「ビデオ…1」2月、撮影会、「銘酒長久・中野酒造」、10名参加。(県文化協会行事)6月、撮影会、「花の万博」(県文化協会行事)9月、例会で「液晶ビジョンXV-H1」試写(シャープ)同月、「第21回和歌山県小型映画連盟・総会」と「根来寺撮影会」。10月、第23回県民文化祭参加『8ミリ映画祭』を県民文化会館小ホールにて。同時に「第20回県8ミリコンクール」表彰式。11月、撮影会、「紀州東照宮・和歌祭り」。今月の例会を「ニュース和歌山」紙取材、12月3日付けで掲載。＜記事のタイトル…ふれあいネットワーク＞12月、「総会・忘年会」を「紀の国会館」にて、24名参加。(会員数33名)

#### 平成 3(1991)年

1月、例会・上映作品「フィルム…1」「ビデオ…5」4月、撮影会、「五條市…金剛寺の牡丹」「橋本市菖蒲谷・子安地蔵の藤」。5月、「第22回和歌山県小型映画連盟・総会」、「紀の国会館」。＜参加 当クラブ=18名、他クラブ=8名＞6月、「読売新聞社」より取材、7月17日紙上に写真と記事掲載。＜タイトル…熟年・時の輝き、70才を越した会員ばかり！＞7月、「8ミリビデオ教室」。西本カメラ店にて、(株)ソニー事業本部・栗田氏。8月、県教委「視聴覚教育指導者

研修会」、4名参加。(紀の国会館)10月、第24回県民文化祭参加『8ミリ映画祭』を県民文化会館小ホールにて。同時に「第21回県8ミリコンクール」表彰式。12月、本谷前会長、病气入院中のところ、13日、86才の天寿を全うされた。同月、「総会・忘年会」を「紀の国会館」にて、20名参加。(会員数32名)

#### 平成 4(1992)年

2月、撮影会、「淡路島・水仙郷」。8名参加。4月、本谷前会長逝去を機に、『和歌山県小型映画連盟』を改組するための「緊急総会」を29日「紀三井寺はやし」で開催。(当クラブより9名)7月、『和歌山県アマチュア映像連盟』の「設立総会」を大阪ナンバ「大野屋」にて。記念講演;小山紳人氏(8名参加)。および天神祭撮影会。会長=松山、副会長=高塚、事務局長=丹生、監査=大井(敬称略)10月、第25回県民文化祭参加『8ミリ・ビデオ映像祭』(今年より改称)。会場=県民文化会館小ホール。同時に「第22回県アマチュア映像連盟8ミリコンクール」表彰式。11月、撮影会、「箕面の紅葉」。家族共13名参加。12月、「総会・忘年会」を「紀の国会館」にて。25名参加。(会員数34名)

#### 平成 5(1993)年

5月、創立40周年記念撮影会(1泊)、奈良市。12名参加。8月、県教委「視聴覚教育指導者研修会」、6名参加。会場=志学館9月、「CFCサロン・津軽撮影大会」。久し振りに2名参加。10月、撮影会、「温山荘」にて。10名参加、モデル嬢1名。11月、第26回県民文化祭参加『8ミリ・ビデオ映像祭』開催。会場を『志学館-メディアアートホール』に変更。同時に「第23回県アマチュア映像連盟8ミリコンクール」表彰式。11月、第24回『和歌山県アマチュア映像連盟』総会開催、打田町「ふじい」。(記念講演)元NHK・高野氏、〔撮影会〕バラグライダスクール。12月、「総会・忘年会」を「紀の国会館」にて。30名参加。(会員数41名)

#### 平成 6(1994)年

6月、撮影旅行(1泊)、「三重県熊野市」一帯。12名参加。7月、第25回『和歌山県アマチュア映像連盟総会』と『実技講習会』開催。(株ソニーより「エディットギヤー1000シリーズ」実技講習。会場「サンピア」38名参加。10月、「CFCサロン・高山、白川郷撮影大会」。今回は5名参加。同月、「第27回県民文化祭参加『8ミリ・ビデオ映像祭』開催。会場『志学館-メディアアートホール』。「第24回県アマチュア映像連盟8ミリコンクール」表彰式。(受賞…前田・塩崎・菱田・関・橋爪・八木博)11月、撮影会、「京都三千院」。12月、「総会・忘年会」を「紀の国会館」にて。28名参加。(会員数39名)

#### 平成 7(1995)年

5月、撮影会、劇団「少年鼓動」月岡澄子さん主演のドラマ、和歌山城内で。7月、「テレビ和歌山」の要請あり、『おはよう和歌山』に会員数名出演。<月～金の、朝7:25～ 8:00の時間帯>8月、例会場今月より『和歌山市勤労者総合センター、視聴覚室』へ変更。9月、県連有志撮影旅行、「中国三峽下り」。10月、「CFCサロン・備前・瀬戸内撮影大会」。今回は4名参加。11月、第28回県民文化祭参加『8ミリ・ビデオ映像祭』開催。会場『志学館-メディアアートホール』。同時に「第25回県アマチュア映像連盟8ミリコンクール」表彰式。同月、「第26回『和歌山県アマチュア映像連盟総会』と『大塔・農林業祭撮影会』」12月、「総会・忘年会」を「紀の国会館」にて。

#### 平成 8(1996)年

5月、和歌山市「生涯学習サークルバンク」にクラブ名登録。8月、第27回『和歌山県アマチュア映像連盟総会』と『犬鳴山撮影会』。<当クラブより7名参加>10月、「CFCサロン・和歌山撮影大会」を担当。全国より58名来和。<和歌山城・高野山・雑賀崎・木本神社など> 同月、「第29回県民文化祭参加『8ミリ・ビデオ映像祭』開催。会場『志学館-メディアアートホール』。同時に「第26回県アマチュア映像連盟8ミリコンクール」表彰式。12月、「総会・忘年会」を「紀の国会館」にて。高塚会長勇退により、第5代会長に「関 久」氏就任。

#### 平成 9(1997)年

3月、例会に、元NHK高野カメラマンを招聘。17名出席。上映作品の講評と、「プロとアマチュアカメラマン」の講話など。5月、第28回『和歌山県アマチュア映像連盟総会』と『商工祭撮影会』。<当クラブ担当、会場=小浜荘、クラブ会員17名参加>役員改選により会長・副会長留任、事務局=大井、監査=丹生。7月、「ビデオ研究会」。高塚氏宅、11名参加。8月、有志会員による撮影会、「マリーナシティ&ソレイヨン」。10月、第30回県民文化祭参加『8ミリ・ビデオ映像祭』開催。会場『志学館-メディアアートホール』。プログラムに「アンケート用紙」を付す。同時に「第27回県アマチュア映像連盟8ミリコンクール」表彰式。同月、例会で「ナレーション講座」、三久・松本両女史を講師に。<会場=あいあいセンター3階>11月、撮影会、「亀池・生石高原」にて。10名参加。同月、例会で「生馬賞コンクール」…審査・講評に「高野武司」氏招聘。同月、「県民文化祭30周年記念式典」において「県連盟」が感謝状授与される。12月、「総会・忘年会」。「華月殿」にて。23名出席。

#### 平成10(1998)年

1月、「市生涯学習サークル」としての活動状況『和歌山放送』より放送される。4月、撮影会、「白崎海岸」にて。9名参加。8月、第29回『和歌山県アマチュア映像連盟総会』と『粉河ふるさとセンター撮影会』。<当クラブ会員5名参加>同月、「CFCサロン・佐渡撮影大会」。今回は3名参加。11月、撮影会、「高野山一帯」。8名参加。同月、例会で「生馬賞コンクール」…審査・講評に昨年同様「高野武司」氏招聘。同月、第31回県民文化祭参加『8ミリ・ビデオ映像祭』開催。会場『志学館-メディアアートホール』。同時に「第28回県アマチュア映像連盟8ミリコンクール」表彰式。12月、「総会・忘年会」。「華月殿」にて。19名出席。席上、会の名称を『和歌山映像クラブ』に改称。『会則』『申し合わせ事項』も一部(生馬、知事、市長の各コンテストを年1回の年度賞コンクールに統合し、夫々を年度賞内の賞とした)改定。

#### 平成11(1999)年

1月、「テレビ和歌山」吉方氏宅に取材・放映。会員と種々の懐かしい機材と。4月、撮影会、「下津町・福勝寺他…さくら」。9名参加。8月、第30回『和歌山県アマチュア映像連盟総会』と『白崎海岸・由良興国寺撮影会』。<当クラブ会員7名参加>会長=松山、副会長=小野、事務局=大井、監査=丹生（敬称略）10月、第32回県民文化祭参加『8ミリ・ビデオ映像祭』開催。会場『志学館—メディアアートホール』、県・葦科副課長臨席。同時に「第29回県アマチュア映像連盟8ミリコンクール」表彰式。11月、撮影会、「紀伊風土記の丘」にて。9名参加。同月、例会で規約改定後はじめての「年度賞コンクール」…午前10時開始。審査・講評に昨年同様「高野武司」氏招聘。12月、「総会・忘年会」、「華月殿」にて。22名出席。（会員数29名）

#### 平成12(2000)年

5月、撮影会、「美里町・自然社、高野町」にて。9名参加。7月、公募『初心者講習会』。（ニュース和歌山に記事掲載）「和歌山市勤労者総合センター」にて、応募者3名。10月、第31回『和歌山県アマチュア映像連盟総会』と『木本八幡宮・秋の大祭撮影会』。<26名参加、当クラブ8名>同月、第33回県民文化祭参加『8ミリ・ビデオ映像祭』開催。会場『志学館—メディアアートホール』、県・神徳課長臨席。同時に「第30回県アマチュア映像連盟8ミリコンクール」表彰式。11月、NHK小山カメラマン来和、『ビデオ研究会』。会場「勤労者総合センター」、撮影実技（城内公園）も併せて。<打田、紀南クラブ会員もまじえ17名参加>。同月、例会で「年度賞コンクール」…午前10時開始。審査・講評に「松山 健」連盟会長を招聘。12月、「総会・忘年会」、「華月殿」にて。19名出席。（会員数30名）役員改選により、第6代会長に「前田幸男」氏就任。

#### 平成13(2001)年

4月、打田映像クラブ主催『ビデオ講習会』、講師=元NHK高野カメラマン。打田町公民館、打田国分寺。当クラブ6名を合わせ17名参加。同月、撮影会、「友が島」へ。（船便がなくなるとの情報）9名参加。同月、例会、今月は「フィルム作品」を主にして、6点上映。6月、第32回『和歌山県アマチュア映像連盟総会』。紀南サークル初担当。『白良浜・海人祭撮影会』。<25名参加、当クラブ8名>会長=松山、副会長=大井、事務局=前田、監査=丹生（敬称略）9月、「CFCサロン・浜名湖周辺撮影大会」。今回は3名参加。10月、第34回県民文化祭参加『8ミリ・ビデオ映像祭』開催。会場『志学館—メディアアートホール』。県より泉副課長臨席。<NHK小杉チーフカメラマンも来場>。同時に「第31回県アマチュア映像連盟8ミリコンクール」表彰式。11月、公募『初心者講習会』。「勤労者総合センター」にて。応募者8名…新入会候補多数見込みあり。<翌年度6名入会>。同月、例会で「年度賞コンクール」…午前10時開始。審査・講評に「松山 健」連盟会長を招聘。12月、「総会・忘年会」、「華月殿」にて。18名出席。（会員数30名）

#### 平成14(2002)年

1月、NHK大阪にて「デジタルビデオ講座」、7名受講。  
4月、撮影会、NHK小杉チーフカメラマンの指導を受ける。午前「温山荘」、午後NHK講堂にて。15名参加。同月、懸案の『分科会』が誕生。先ず「パソコン編集法」。<毎月、例会後の週・中頃の夜。希望者で>6月、第33回『和歌山県アマチュア映像連盟総会』と『青葉祭撮影会』。4月、NHK杯、盾が県連主催の総会親睦撮影会コンクールに贈られた。我がクラブ会員は、金賞、銀賞、佳作を獲得した。<26名参加、当クラブ8名>8月、県教委「視聴覚教育指導者研修会」、6名参加。会場=志学館。10月、第35回県民文化祭参加『8ミリ・ビデオ映像祭』開催。会場『志学館メディアアートホール』。県より泉副課長臨席。同時に「第32回県アマチュア映像連盟8ミリコンクール」表彰式。「テレビ和歌山」より取材、夕刻放映された。11月、公募『初心者講習会』。「勤労者総合センター」にて。応募者5名…新年度3名が入会された。同月、例会で「年度賞コンクール」…午前10時開始。審査・講評に再び「高野武司」氏を招聘。同月、NHK「とっておき関西お昼前」に塩崎氏の『菊花展』が放映された。12月、「総会・忘年会」、「華月殿」にて。12名出席。（会員数34名）創立50周年記念を明後年に控え、新年度よりの年会費7,000円を提案、可決された。その他「会計監査」の設置などに伴う「会則」の一部改定。



NHKチーフカメラマン 小杉氏

#### 平成15(2003)年

1月、分科会『テレシネ研究会』発足。同月、役員会にて『50周年記念事業・推進委員』を選出。3月、『50周年記念事業・推進委員会』開催。基本事項を検討。4月、塩崎会員の個人映写会開催。5月、『50周年記念事業』に関する会員向けのアンケート実施。7月、県教委「視聴覚教育指導者研修会」、5名参加。会場=志学館。8月、『50周年記念事業・推進委員会』開催。第二次案検討。10月、第36回県民文化祭参加『8ミリ・ビデオ映像祭』開催。会場『志学館—メディアアートホール』県より木下副課長臨席。同時「第33回県アマチュア映像コンクール」表彰式。11月、『初心者講習会』。勤労者総合センターにて開催。応募者3名…<翌年度2名入会>同月、例会で「年度賞コンクール」…午前10時開始。審査・講評に 高野武司氏を招聘。11月、第34回『和歌山県アマチュア映像連盟総会』と紀伊半島民俗芸能祭』12月、「総会・忘年会」、「華月殿」にて。10名出席。（会員数33名）

# 平成15年度年度賞コンクール講評記録

撮影:中谷 保好

記録:中嶋 孝

編集:南川 陽一

平成15年11月23日(日)に勤労者総合センターで和歌山映像クラブの年度賞コンクールが行われました。審査は高野武司先生にお願いして入賞作品は別表のとおり確定しましたが、その時高野先生から各作品について個別に大変熱心なご指導を頂きました。ご指摘いただきました事項は我々が映像をつくっていく上で守るべき非常に重要なポイントです。

ここに講評記録としてその内容をまとめ、今後の作品づくりに必須の教科書としたい。(南川)



高野 武司 先生

## 講評対象作品

### A. 平成15年度年度賞コンクール参加作品

生馬賞:「ぐるっと徳島 海峡&溪谷」	14分	前田 幸男
県知事賞:「光川亭仙馬の足跡を訪ねて」	13分	鈴木 荘
市長賞:「秋の火打山・妙高山縦走」	14分	南川 陽一
佳作:「梅」	3分	岡崎 譲
佳作:「シベリア抑留の軌跡」	14分	中嶋 孝

### B. コンクール非参加作品

「結婚式」	6分	藪谷 承吾
「雲雀山・得生寺」	15分	塩崎 博

注:これら作品のコピーは和歌山映像クラブの事務局にあります。

## 1. 高野 武司先生プロフィール

一言自己紹介をします。私は元NHKのカメラマンです。和歌山の放送局にも10年ほど前におりました。それから大阪へ出て定年を迎えまして、大阪の文化センターで現在ビデオ講座を続けています。皆さんとは10年位前からお付き合いをさせて頂いております。よろしくお願いします。

## 2. アマとプロ

最近特にアマチュアの方もレベルが上がりまして、プロとの差が無くなって来ています。特に器材の面ではそうです。プロの器材とアマチュアの器材について昔は離れていたのですが、最近ではもう殆んど一緒になって来ています。それからコンピューターが使えるようになって編集は全部パソコンで出来るようになって来ました。するともうスーパーも出来るし、オーバーラップも出来るし、いろんな加工が出来ます。すると編集の技術的なものでも、ハンディは無くなって来ています。

そういうことでハード的なレベルは確かに上がったのですが、問題は個人個人が撮った映像の撮り方とか、それをどう処理していくとか、どうまとめていくかという、そういうソフト面がプロとは少し差があるということなので、そういう点を含めて一つ一つ見て行きたいと思います。

## 3. 講評の仕方

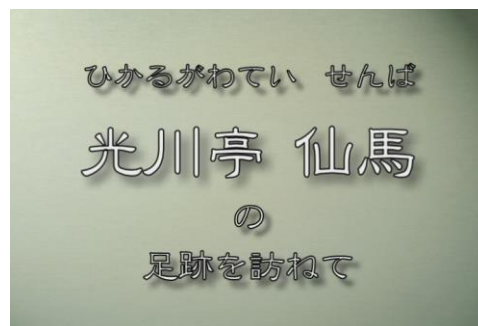
今日は審査を一応しますが勉強会ですからそう堅苦しく考えないで下さい。あまり難しいことは言いませんけれども、何が足りないのか、どういう風に撮ったらよくなるのかという見方をしていきたいと思えます。作品を一つずつ見ながら講評いたします。一つ一つ作品を見ますので時間がかかりますけれども、パアッと見ちゃってあとでまとめて講評しますと、作品のイメージが次々と移ってしまいよく分からなくなる恐れがあります。それで一作品毎見ながらやって行きたいと思えます。

## 4. 「光川亭仙馬の足跡を訪ねて」（鈴木 荘:13分）

### 4. 1 企画の重要性

これは大変な労作です。素晴らしいです。ここで申し上げます。このようなコンクールでの採点というのは、撮影は勿論大事ですけれど一番大きいのは企画です。アマチュアの方に一番足りないのは企画です。プロと比較して撮影の力が劣るとか、編集がどうかということは何と多少ありますけれども、一番問題なのはそれをどうやっていくかということです。つまり絵は撮れてるがそれをどうまとめていくかということが出来ないのです。

それをこれから皆さんに力を付けて頂きたいと思うのです。



### 4. 2 狙いを明確に

企画と言う事が大切ですが、先ずその前に狙いをしっかりしなければ駄目です。狙いがなくてただ漠然と撮っていくという方が案外多く見受けられます。

この作品はしっかりとした一人の人にスポットを当てて、その人をずっと追っています。この作品にどれくらいかかったのですか。これは大変な力作です。要するに、この中では光川亭仙馬という人、これは政吉さんとおっしゃるんですね。この人間を先ずどれだけ浮かび上がらせることが出来るかということです。今の段階ではとにかく昔の人ですから残っているものも少ないし、写真だってないでしょう。そういう時代の人ですから残っている資料でどれだけ見せることが出来るかということです。

それから光川亭仙馬にどんな作品があるのかということでしょうね。それともう一つは和歌山の文化にどれほど影響を与えて来たのかということで、お寺さんをよく回って、残されたものをたどって行ったのです。その意味でよく考えて作られたものと思います。特に映像もしっかりしていますし、全体的にはいいと思います。

### 4. 3 映像構成の工夫

ちょっと注文だけを申し上げます。最初に何か異様なこうもりのような焼き物のカットがありましたが、こういうものではなく、仙馬の「あつ、いいなあ。」と思わせるような二つか三つしっかりした作品を最初に見せる必要があります。

何故かという、このビデオ作品では仙馬の作品の印象がなままずっと入り込んでいる。しかもかなり長い部分が仙馬という人、政吉さんという人の生涯だとか、陶芸にかかわるまでの話があります。仙馬の説明に入る前に彼の作品をもっと印象付けた方が良いでしょう。場合によればある程度仙馬の作品についてのコメントを付けられるといいですね。彼の作品のどういうところがいいのか、どういうものが生かされているかということを一言くらい入れてから政吉さんの人生の生涯に入りこんだ方が分かりやすいです。



仙馬の作品

### 4. 4 企画構成

企画を立てる時工程表を作ると思います。一番上をこれにして、二番目をこれにしようとか、この次に生涯を持ってこよう、そして最後に作品をたどるような話をという風に考えます。このビデオ作品ではその構成はいいと思います。

#### 4.5 ズームの使い方

仙馬の作品を紹介する時にフィックスで撮ってありましたけれど、場合によっては大事なところではズームで寄ったり、ズームで引いたりするのもいいんです。ズームを使っていけないことはない。でもなるべくフィックスを中心に見せた方が、見るほうの人には見やすいんです。安易にいくつもいくつも数を重ねると、やっぱり変化が見たいから、もう少し見たいなあとと思うものが案外ワンカットでさっと終わってしまうので惜しいなと思うんです。ですからそういう意味で、初めに2〜3カット、2〜3の作品を見せて、こういうものを作った人がこの人ですという風に入り込んだ方がよいと思います。

#### 4.6 歴史の撮り方

それと歴史を随分詳しく撮っておられました。あれはいいと思います。窯跡に建っているという記念館がありました。広川には何か残っているものはないのですか。今どうなっているかというようなものが少しあったほうがよいと思います。そういうものがあれば、もう少し厚みをもって見せることができます。

#### 4.7 イメージ映像

ずっとお遍路をしましたね。あれなんか石手寺かどこかだと思うんですけど、ああいうところが難しいんですよ。イメージ映像になります。その人はもういないのだから、それを何かに借りて映像に見せなければならんということなのでね。例えば階段を上がるお遍路さんの足だけとか、手を合わす手だけとか、そういうなるべく現状よりもむしろ想像させるようなもので絵を見せていくと厚みが出て来るのです。

むしろ資料なんだから仕方ありませんけれど、そういう狙いで行くのであれば、そういう風にした方がむしろイメージ的なものは生きて来るということです。お墓参りをちゃんと追っているというのは、大変丁寧な作り方だと思います。

#### 4.8 仙馬の作品の撮り方

あとは作品なんですけど、焼き物の不老橋と現実の不老橋、ああいうやり方はいいですね。作品の中の不老橋が画面の下の方に見えてるんです。あれなんか不老橋にアップでずっと寄って行って、場合によっては2カットにして見せてやるんです。あれは1カットずつしか入れてないけれど、そうでなくてアップで見せたいところは見せてやる。和太の跡地にある根上がり松を入れ込んで、もう1回お皿に戻してもいい、そういうやり方も出来ます。

不老橋も1カットになっている不老橋と対照的に見せるのが大変面白いので、あれはあれでいいと思います。あんまりこんなにお茶碗と焼き物が交互にポンポンポン出て来ると、見ていて飽きるのです。カメラワークとしての変化で、ズームで寄ったり、網模様になった真ん中からずうっと引いて見るという手もあるでしょう。そういうようなことで、変化を見せてやるということで見るとの者にとって案外いいんです。

同じものばかり続けると意外と印象に残らないということで、ズームで寄るということはポイントに寄っていくということで、そこに相手の目を持っていくということです。不老橋の中だって、お茶碗の中に問題になった不老館と橋があって、橋にすうーっと寄って行けば、この橋とあの橋がイコールになるというイメージが出て来るのです。そういうようなもので、1カットで終らせないとこもやっぱりアピールなんです。



不老橋の焼き物



不老橋

特にここで言わなきゃならないことは、作品がどんな意図で作られたかがよく分かればよいということですね。それとその人の人柄が浮かび上がればこれでもう充分ですね。その意味でこれはよく出来てると思います。

#### 4.9 場所移動の表現

それから場所の移動であちこち行ってます。その場所が変わるたびに車が出てくるが1~2回はいいけれど、後は正直にやらなくても良い。むしろ無かったっていいんです。次が紀三井寺ならポンと行って構いません。むしろそれだったら和歌浦側から名草山を入れ込んだのを一発くらい入れておいて、ポンと紀三井寺へ行ってその絵と合わせても構いません。案外そういった場所の説明というのが少なかったような気がしますね。



車での移動

広川という町の説明が殆んど初めのうちは無かったですね。

車でずうーっと記念館の場所に行くだけで、その前に広川のあそこだよという感じの説明があればよかったですね。

全体的なまとめは非常にうまく出来ていました。感心するくらい13分では非常に密度の濃いものに、しかもよく調べてあるのでよかったですね。

#### 4.10 パンの仕方

昔の窯の跡の模型みたいのがありましたね。ああいうのはアップで1カットをポンと部分的な窯の中らしきものに寄って行ってもいいんです。中途半端なパンがあつたけれど、あれはしないほうがいい。



窯模型

動かすならちゃんと動かしてちゃんと見せた方がいい。動かさないならロングを撮って部分を撮る。動かす場合は最初5秒ほど止めてやる。それから動かす事が大切です。初めと終りはちゃんと止める。パンというのは相手の目を動かすのだから、初めをちゃんと認識させてから動かさないといけない。

終わったときにしっかり止めてやる。メインは後の方ですからね。初めはこういう関係にありますということで、後の方がメインになります。メインの方からパンをしたら駄目です。初めと終りの止めが短いと編集が出来なくなってしまうので、長いくらい止めた方がいい。

#### 4.11 オーバーラップの使用注意

ここではオーバーラップはあまり奨励はしません。使っても構いませんけれども、オーバーラップとかページめくりというのは、絵をごまかすだけのものです。

実力がついた上でやるのならそれはいい。単に短いからボカしてしまうということを使うと、それでいいと思って次も使うようになる。そうでなくて、しっかりそういうものが撮れるようになったら、それはもうどういう風にやっても構わない。

#### 4.12 終わり方

最後がちょっと辛いですよ。これは難しいです。どう終らすかなと思ったのですよ。結局終わらすのはああいう終わり方でも決して悪くないとは思いますが、最後の終らせ方はまだまだ色々考え方があると思いますので、これからご検討なさって下さい。

## 5. 「シベリア抑留の軌跡」(中嶋 孝:14分)

### 5. 1 過去の映像化

淡々とお話をされて、かえって心を打たれるものがありました。こういうものを作るのはたいへん難しいのです。これも過去のもので、しかもご自分の体験をもう1回たどって見るということとして、どうしても映像になるものが少ないのです。ご自分にかかわるものが無いので、作り方が我々が作るにしてもたいへん難しいのです。

よくこれだけご自分の言葉でここまで話されてきたから、これだけ説得力があったのだと思います。



### 5. 2 技術面のこと

先ず技術的な面から申し上げますが、企画はちょっと別にしましょう。撮影なんですけれど祭りとかは要りませんよ。むしろそれだったら舞鶴の昔のイメージのある街の姿か、通りみたいのがあればいいんですが、昔と今では違いますからね。それならむしろ最初にロングが入って、港の風景が見えましたよね。あれからすぐ引揚記念館に入っているといいと思うんです。今度の場合はそしたら時間が節約出来ますから。問題は中嶋さんと舞鶴の港も含めたかわりをここで見せるのですから、出来たら街の祭は無くて別にも構わない。街らしい街の絵は頭の脇にあったらいい。

それで駆け足で旅行しただけで見て歩くというのは難しいんです。ですからこれを3日くらいかけて撮るんだったら、かなりのものが撮れると思いますけれど、恐らく1日だけで終らせたのでしょね。するとやっぱり限られてしまいます。しかも施設の中には入れないところもいっぱいあると思います。レンガ作りの昔の連隊があった兵舎なんかもう無いでしょう。残っていて現在使っているものもあるかも知れませんが、そういうところは入れないかも知れません。ですから絵の撮れるものが少ないから、これも仕様が無いんですけれども、なるべくこの場合だったら、帰ってきた栈橋だとか、記念館の中の写真とか、いろんな模型みたいなものとかでしか表すことが出来ない。

### 5. 3 テレビ映像の利用と著作権

それでその他のビデオ映像にはどんなのがあったのですか。帰って来るところなんかあったのですか。写真じゃなくて動く絵が。新聞じゃなくてテレビがあったでしょう。現地の様子だとか、ソ連が参戦したときの映像などは無かったのですか。そういうものはなるべくビデオの画面を接写するんです。三脚を据えてカメラを構えて全部写すんです。なんか使える絵があるかも知れません。テレビの放送なんかで武装解除するときの絵が実際あるんですよ。日本の戦争の関係の映像があることはあるんです。僕が持っています。そういうものを使ったら構わないんです。

著作権という問題があるんですがこのクラブ内で使う分にはかまわない。それをコンクールに出したりすると著作権に引っかかるのです。著作権というのは50年たったら消滅しますから、ぼつぼつ50年だから、そのような映像は多分文句は言われなと思いますけどね。そういう映像があるんでしたらどんどん取り入れたら良いと思います。ただ放送を出した側の会社側の著作権みたいなものがあるんですね。それがどうなるのかよく分かりませんが、なるべくそれを使って、とにかく資料はそれしか無いのですから。

### 5. 4 資料写真の撮り方

撮影のときでも写真はなるべく枠を撮らない。近付いて撮ってそういうものに気を付かせないように撮った方が得なんです。ガラス越しに撮るとき偏光フィルターを付けたら良いのですが、偏光を持って行ってやるのは大変ですからね。そこまでしなくてもいいでしょう。



そういう時はカメラの位置を少しずらせてみる。それと後ろに人がいると反射して写ることがあるから、そういう時は人がいないときを利用して撮れば少しは緩和される、そういう撮り方の工夫もぜひ皆さん考えて下さい。少しの間も三脚を立てて非常にいいと思いました。そしてラーゲリの中の絵なんかもね。もうちょっとアップで撮ったりということだね。その中のものをズームで寄ったりしてもいいんですよ。非常にまじめに撮っているのでもいいんですけどね。例えば黒パンを計量して分けている人の表情なんかももう少しアップで、ポンポンと重ねてやるともっと訴える力が強くなります。

## 5.5 イメージ作品

それでこれはやっぱりイメージなんですよ。イメージを作る。ですから中嶋さんの気持ちというのを本当に相手に伝えるためには、やっぱりイメージをどうつかんで入れるかというのが問題なんです。物が無いんですからこれは。ですからご本人があそこに立たれてお話をしましたけれど、あれは非常に面白いと思います。あれでいいです。あれで初めて中嶋さんが「私が体験者だ」ということを話したのでよく分かる。



作者の語り

## 5.6 体験との比較

抑留生活はこうだったということ、あそこで見れば分かるんですけど、黒パンなんかもよく撮れています。出来ればご自分の体験として、ここにはこういうのがあるけれども私達の方はこうだったというのがあれば、もっとおもしろいですね。今のお話だと、引揚記念館にあるものでほぼああいうものかなあと話をしますけどね。むしろそれを踏み込んで、私の体験ではこういうこともあった、ああいうこともあったとね。例えばあそこに着物がありません。ここにはこういう着物があつたけれども私のところでは配給が何もなくて親がくれたセーターがただ一つの寒さ対策品だったという表現をすればよく分かるんです。そういう風な体験をあそこに一つずつ嵌め込んで行ったらもっと面白くなる、訴える力がもっと強くなります。

## 5.7 ズームを生かす

それから岸壁の母の絵がありましたが、あれをもう1カット撮るんです。又岸壁の上にたたずむ親がいたでしょう。それをもう少し詰めてね。向こうに光る海と立っている人をもうちょっとアップに見せるか、でなければゆっくりズームする。

パツと寄ったら駄目ですよ。ああいうのは考えさせるものだから、サツと寄ったら駄目です。すうっと寄って行く方が情感が出る。あれは1カットでは勿体無い。場合によってはその絵とね。最後に栈橋へ行ったでしょう。あんなのは要らない。上から撮った写真に、岸壁を歩く人の絵と、帰って来る人の絵を重ね合わせて、うんと情感を盛り上げる。そうするともっともっと盛り上がる企画になって来る。全体的には丹念によく撮っています。ご自分の体験も、よく語られていたと思います。



岩壁の母

## 5.8 終わり方

最後の東舞鶴駅、これは思い出ですからね。これはもうこれでいいと思います。でもそのときには、あの東舞鶴駅の写真とか模型等がありましたね。場合によっては、これを旨く使えたのではないのでしょうか。帰りましたというときに1回オーバーラップで昔の絵を見せる。またそれを戻して今の絵にして終る。そういうやり方もあります。

これはご自分の体験ですから、どこでこういう風に終わったらいいというのではなくて、やっぱり中嶋さんの自分の思い出を綴ったものだから、それでいいと思うのです。

今の絵に戻さずの場合によっては昔の絵で終わったっていいんです。昔の絵で終わる時はその絵を長く撮っておかなければならないんです。もしかするとタイトルにダブルかもしれないですが。ああいうフィックスのものでも、動かないもの、写真でも模型でもいいから、これはと思うものは長く30秒くらい撮っておかなければならない。そしてそれを場合によっては短く使えばいいし、長く使う時にはそういう形にして終わってもいい。

### 5.9 静止画について

このような時に実際テープを回さずに画像を静止画にして取り出すことも出来ますが、ストップした映像というのは分かるんですよ。同じ絵をストップしてフィックスで見せる場合と、長く撮って見せる場合と絵が違うんです。そうでしょう。わかるでしょう。だから動かない絵だったら止めておいて1コマを長く使えばいいだろうというけど、それは止めて下さい。見たらすぐ分かるんです。

### 5.10 再体験の中断

見る人に「おかしいな」と思わせたらもう駄目なんです。それは失敗作です。それは何故かという作品というのはたとえば、今中嶋さんの絵を見るということは中嶋さんの体験を皆さんが再体験していることになるんです。だから中嶋さんの話を一つずつ聞きながら、それより先の想像力も含めて、常にフィットしているのです。そこに「おかしいな」というのが入ったら考え方が途切れるのです。だから感情が途切れないように映像を編集しなければならない。だから変なカットがポツと入ったり、カット変りで違う映像がパツと入ったりすると、「あれっ」と思うでしょう。するともうそれで再体験の感情が止まってしまうのです。だから見ていて違和感が無いように、素直に行けるようにするのが絵の作り方なんです。

### 5.11 絵の構成

全体的には、もう少し引揚記念館の展示の中で体験したものを旨くつなげていった方がよかったかも知れないけれど、それが本人の体験なんですから、これはもうこれでいいと思います。ご自分のお話をちゃんと入れ込んだということは一番説得力のあることで内容的には何も言うところはありません。

記念館そのものの建物は最初に見せるだけで後は無くていいんですよ。岸壁を見てそれであのような形で出て最後に「帰りました。」ということで充分繋がります。

もう少しラゲリの中の向こうの生活の写真があればよかったですね。向こうで働いているような写真が引揚記念館には無いんですか。そういうのがあれば撮っておくんですよ。それから向こうで亡くなった人のお墓とかね。そのような絵があれば話の中に順番に入り込むから今とは違ってさらに良くなります。それがちょっと足りなかったな。中嶋さんが抑留地で実際現場を撮影してきた映像と違うんですけどイメージだからいいと思います。

### 5.12 ナレーション

お話もなかなかお上手でした。出来るだけ自分の言葉で話をする事はいいんです。自分の体験談の所に限って話すと声が上ずってあまりよくないんですよ。自分の話した言葉というのは意外と自分の耳に悪いのです。自分で喋った言葉を聞いてご覧、自分がいやになるんです。それはもう自分の言葉に慣れるしかないと思います。なるべく自然な話し方で、何時もと同じ話し方でやって、どちらかというと時間を



東舞鶴駅の模型

シンプルに、どうしても早めになるからゆっくり話してください。しかもあまり長い言葉にしないということです。書いてもおなじですね。日本文というのは主語があって述語があるんだけど動詞が一番最後に付く。そうすると何がどうしてどうなったかというのが一番最後になります。長いとどうしても分かりにくい。なるべく短い言葉でゆっくり話す事、その方が分かりやすい。

## 6. 「梅」(岡崎 譲:3分)

### 6.1 人と季節感

人がいなかったのですね。岩出の緑化センターだとたまに人が来ないんですよ。僕も大変困って、あそこの職員の人に頼んで、ちょっとやらせをしたことがあります。人のいないと言うのは結局花だけを見せることになってしまいます。編集するのが苦しかったらうと思います。絵はよくアップを撮っています。

花のアップもあるし風景もしっかりしています。しかし人がいないと季節感というのが以外に出ないのです。うまく女の子の2~3人が来て花見でもしてくれればいいんですが、それが無いのが辛いんです。あんまり同じ絵を続けると目が疲れて来るので、「切り返し」とか「切り替え」といった何かそこに変化が欲しい。それを撮るのもカメラを撮るそれぞれ個人の考え方です。

「昨年は同じ場所で人間を入れて撮りましたが、今年は意識して人間を入れずに撮影し、音楽に合わせ作品をまとめてみました。」(岡崎)

人間をうっかり入れて却って壊してしまうこともあるんです。余程その人がうまく合ったような人だったらいいんですけどね、そうでないとあまりその効果が無いかも知れない。

しかし編集の技術から言うとね何かそういうもの、インサートするものが無いと辛いんです。花の情感だけで見せるというのはね、プロでも大変難しいんです。ですから、やっぱりそこは人物などそぞろ散歩している人を入れ込んでもいいだろうし、また何か鳥でもいいだろうし、鶯もいるんだったら何とかなるんだろうけれども、なかなかそんなにはいてくれない。大阪城公園だったら餌を貰いに来るのがいるから結構いるんですよ。鶯もいるし目白も来るんですよ。そういう絵を撮り込むしかない。そういうのがあれば絵が救われるんですよ。

### 6.2 人間の集中力とインサートカットの重要性

人間の目というのはそんなに集中力が無いんです。だからその集中力をある程度欠かさないために、別のものにちょっと移しておいて、また戻してやるのをぜひ皆さん方も頭の中の片隅において下さい。インサートというのは大事です。つまりメインの絵が良く出来ていても同じものを何カットも何カットも続けるわけには行かないから、何か一つ目先の変わったものを入れて、また続けていくというようなことをします。昼間の絵から夜の絵に移るときに、何か夜に代るような夕焼けの絵とか、電気の点いた絵とかを入れますよね。切り替える必要があるときに切り替えなければならない。変化をもたせるためにやる映像をインサートといいます。インサートをうまく撮れるようになると一人前です。何でもいってわけじゃないんです。何かその大事なこれに一番ふさわしいようなインサートがあるにちがいない。

それを皆さんがテレビを見ながら「あっ、これがインサートだな、なるほど」と実感出来るようなものが沢山出て来るといいんです。テレビの普通のニュースにはあんまり出て来ないんですけど、ちょっとしたい長い番組、しっかりした番組には必ずしっかりしたインサートの映像が出て来ます。それ



を頭の中に入れて下さい。テレビはストーリーを見るのは勿論いいですけど、映像として見て下さい。このような目でテレビを見ることは結構いい勉強になります。この作品は見ていて長いと思うでしょう。3分程度でも長いんです。というのはインサートが無いから長いんです。

### 6.3 場所の位置つけとロングの使い方

どこか高いところから紀ノ川を撮って梅園に入る場所は無かったかしら？無かったかな。それじゃ梅園でなくてもいいんです。ロング一発見せて、その中で自由にやればイメージ的には繋がりますから。

街のどういうところかという事が分かる絵が欲しいですね。どこかその紀ノ川の写るような、公園の場所は違うかも知れないけれど、駅の南側の高いところがありますね。あの当たりから一発パアーツと紀ノ川寄りの通りを入れ込んで見せてもいいと思うんです。岩出だったらそういう絵が撮れますから、そういうものを撮って入れ込んでいくと絵に厚みが出て来るんです。花だけじゃなくてこういうところに咲いてるよというイメージがあると良いですね。

### 6.4 アップの使い方

最初にロングで場所説明して、それから花のアップでパンと入って相手に印象を与えちゃうんです。それであとは引いたサイズの梅園にしていくという風にしたらいいいんです。初め花のアップからだったらいいですね。とにかく見せなきゃね。

アップの出るのが遅すぎるんです。もっと初めの方に1発か2発目を見せておいて、それから引いた絵にするのです。



花のアップ

### 6.5 音楽とタイトル

音楽は非常にいいし、タイトルがパアーツと「梅」一発で非常にすっきりしていいんです。

タイトルは短い程いいんです。短くて的確にやるのがいい。言葉数が多いと読めないんです。読んでるうちに終わっちゃうんです。それで「あれなんだっけな」となるわけです。やっぱりタイトルは簡潔にしたほうがいい。その点でこれは一発で素直でいい。字もなかなか面白い。あれは楷書ですかね。ああいう筆で書くのも日本的でいい。

### 6.6 総括

惜しいのは人物・インサートカット・場所の位置付けなどがあれば本当は良かったのだけど、あれだけで見せるというのは正直言って辛いんです。見てる方も辛い。そういうことを含めて、もう少し横幅を広くするともっともって見えます。個人的に好き嫌いがあるので一概には言えませんが、自分でいいんだったら自分だけのものであって、みんなに見せるときには、やはりみんなに訴える力が少しでもあった方がいい訳なんです。

絵は確かカメラワークはしっかりしています。奥さんを連れて来て歩かせたらいいですよ。場合によったらカメラを三脚に載せて回しっ放しにして、二人で歩くところを撮ったらいいですよ。

「去年それを同じ所でしたのです。今年是人なしと音楽に合わせました。あの音楽が好きです。」(岡崎)

もし、この作品を人に見せるんだったら編集で、それこそオーバーラップにするとか花のアップをもうちょっとアップにするとか、花びらと花びらを混ぜるように編集のテクニックで見せるしか方法が無いわけです。

絵がしっかりしているのでいくらでも撮れるのであって、本人のお考えで人を入れるのは好きでない、今度はこれでやって見たいということでしたらそれでいいでしょう。分かった上でやってるのだからこれでいいと思います。この次はこのようにして。 — 25 — て下さい

## 6.7 オーバーラップの使い方

「音楽に合わせてオーバーラップをけっこう使っています。」(岡崎)

音楽の変化に合わせてオーバーラップをする。なるほどそういうのは良く入るタイプですね。

オーバーラップにはゆっくりやる奴と、パッと変える奴とあるでしょう。今言ったオーバーラップと言うのは、ゆっくりまだこっちの映像が残っていてだんだん消えて行って、次の像が出て来るタイプです。

切り替えるときに使うちょっとしたオーバーラップがあるでしょう。パッと変えるタイプのもの、あれはあれでいいんですけど、なるべくあれに頼らないで下さい。ごまかしの部分があるんです。

この作品の様にオーバーラップを使うと絵がソフトだから感じがいいんですよ。オーバーラップが絶対悪いというわけではないんです。カット編集が良くてオーバーラップが悪いと言うわけではないんですけど、要するに映像がうまくなくてもオーバーラップだったら無理矢理に繋ぎができるわけですよ。それが皆さんの上達が絶たれることになると思うから言うのです。分かっている方がいいんです。

「この作品で、パンをしながらオーバーラップをしている部分があります。ここは結構僕が気に入っていますけど…。」(奥野)

それはいいですよ。動いているときのオーバーラップはね。こっちが消える前にすっと変わるんじゃなく、こちらが動いていると思うときに向こうが浮かび上がってくる普通のオーバーラップがいいんです。それがオーバーラップの時間が短いとカット編集による場面転換と変わらないから良くありません。

「この作品なんかは僕はオーバーラップがかなり短いような気がするんです。4秒から5秒くらいが適当ではないかと思います。」(奥野)

そうそう、両方とも像が残っていなければいけない。目がそういう風に像が浮かび上がってくるのを分からなければいけない。単なる切り替えのときのカット編集をちょっとオーバーラップさせるものもあるけれど、ああいうものとは別個に考えた方がいいんです。

## 7. 秋の火打山・妙高山縦走 (南川 陽一:14分)

### 7.1 山の映像撮影

内容からして8ミリフィルムの白馬と同じ人かなと思ったんです。これはなかなかよく撮れています。登山というのは、ご存知かと思いますが、皆さん経験がおありだと思いますが1回やり過ぎしちゃったら、先へ出るということは大変な事で前から撮る事が出来なくなるんです。これを撮るといのは、大変これ難しいというか体力の要る仕事なんです。

一般的には何分でしたか、14分ですか。3日の行程を14分にまとめるというのは大変難しいんです。どこで終らせるかというのもこれも大変なんです。結局歩いて歩いて終わってしまうというケースがあるし、なかなかその間の絵が撮れてないんですよ。

そういう意味じゃこれはなかなかのもので、ヒュッテの中の様子もよく撮れてましたしね。それから山頂でインスタントおこわなんか食べてるところなんかね、ああいう絵が欲しいんですよ。

ああいう絵を沢山撮らないと、ただ歩いてるだけでは絵がもたないんですよ。



お昼ご飯は インスタントおこわ

山頂のカット

## 7.2 8ミリフィルムとの対比

あの白馬登山は非常にムードのあるような音楽がかかって上手だったと思います。しかしあの時は天気が悪くて、上から何も見えなかったし雨だったですね。本当に気の毒でした。しかもあの当時はまだ感度に限界があるフィルムですから部屋の中は撮れなかったんですよ。

今のカメラはそういう意味では非常に優れてますからあれだけの絵が撮れる。そういう意味ではこの絵は非常に練れてるといふか、よく馴れてるといふか、的確につかまれています。

しかもこれ三脚を持って行ってるのですね。これは大変なことですね。歩くだけでも精一杯なのに三脚を担いで食べ物を持って登るといふことはこれ大変なので、そういう意味でこれは大変労作です。本当に要領よくまとめています。

## 7.3 登りの表現・アップの活用

ただ登るところ、特につづら折れの12曲がりの所や最後の妙高へ登る急な登りも同じような絵を使わざるを得ない。登ってる人のアップの顔だけを、狙っていくんですよ。場合によってはみんな下を向いて顔が見えない。そういうときには仕様が無いからそのままワイドで下に構えて、ぐうっと上がってそのままフォローしたっていい。そういうこともやらなきゃ駄目。それから場合によっては、あまり急でないところで下のほうから登って来る八丁登りかあんなところでは、(頭の先から顎の下までを示して)顔のここだけ狙う。ここだけをね。画面に顔のアップが流れて行っちゃって構わない。

それから手で岩を持つところの手先だけを撮って見るとか、何とか登って来る足だけを撮るとか、そういう風に絵を固めてもっと撮らないと映像の厚みが出て来ない。これがないと同じような絵を使わざるを得なくなる。そこで最後の妙高の登りは4カットか5カットは少しサイズは違ったけれども、登って来る上側からだけの絵しか無い。下からも狙うべきです。下からワイドで構わないから、登って行くところをどこかで1回撮って行き過ぎさせて、そこでちょっと待ってくれと待たせて次のカットを撮る。これが大変なんだけど、そういう風に撮らないとあの絵は撮れない。



妙高への登り

## 7.4 編集テクニック

インサートの紅葉なんかもちょうと撮っているのでこれは使えません。ふうふう言って着いて、みんなが休んでいるのにこちらはまだ絵を撮ってたから大変です。最後にまだ絵を撮ってるうちに行っちゃうということがよくあるんです。そういう意味でこのカメラマンは体の強い人なんですね。息を切らさないといふか、それくらいのことばもうご存知です。なかなかよく撮れたものです。



紅葉のインサートカット

2日目ですか小屋から小屋へ行くときに絵では案外簡単に着いてしまうのです。それを何とかもう少し2~3カットでいいから時間がかかるよ、大変だよという風な絵に見せないといけません。みんな見てる人は「ああ、楽々で行っちゃった。もう着いたの」という感じになるわけです。それは見せる方の人の編集のテクニックです。やっぱり辛いんだから辛いように見せてやるのが大切です。

## 7.5 カットすべき所とカットしてはいけない所

そのためにはどこかを削らなきゃ駄目だし、13分でどうしても収めるというのだったら、何か他のものを割愛していかねばならない。

特に最初の方の絵であの笹ヶ峰だけ、あそこのところの絵はちょっとやっぱり無けりゃ駄目なんですけど、何か一つ無くてもいいかなという感じの絵が頭の方に伝わっているように思います。台風の写真が横にあったけれどね早く登山口に行きたいわけなんだから、お天気なんか関係ないじゃありませんか。コメントで一言「台風が近付いたけれども、台風一過で天気が良かった」とそれだけでいいんです。あまり説明は要らないです。



笹ヶ峰と天気図

火打山の山頂の時に、あそこの話の中で「あそこに残雪があるよ」って声が聞こえるんです。この作品にはその残雪はありませんが、その残雪が欲しいですね。山頂では残念ながらその話し声に気が付かないんです。それが後で編集して、「あれこんな話がある」ということになって絵がなくて困るのです。山頂では見えるものは全て撮っておくことが大切です。残雪を見てる人がいて、対象の残雪の絵がないとおかしいですからね。「あそこに残雪があるよ」と言ったきりもう下りて行っちゃうんじゃなくて、やっぱり山頂から残雪の絵を見せていくようにした方が分かりやすい。そういう意味で少し急いじゃった感じがします。

妙高の燕温泉へ下りるときに1回沢へ出ていますが、あの辺はどこか少し端折っても構わないから、中間の歩きのところの湿原あたりをもう少し見せても良かったんじゃないかな。その方が皆さんの記憶にも残るし、あの湿原なんかも1カットで終っちゃったのはちょっと惜しいなと思う。

## 7.6 総合評価

ただ全体的に見て、これだけ撮ると言うことは誰でも撮れるというわけではないんです。これは物凄くしんどいのです。それも体をあまりぶらさないで当然息が苦しいはずなのに、しっかり撮っていると言うことは凄いなと思います。この前もお話したと思いますけれど、僕らが若い頃に山岳専門の福原健二と言うプロダクションがあったのです。そのプロダクションの絵もこの絵を見たらそんなに違わない。殆んど同じです。そのプロダクションはかなりのもので、フィルムを5~6人のスタッフで撮ってるんだけど、この映像は一人で撮ってるんでしょう。もうそれに対抗できる位の絵を撮っています。

## 7.7 作品の長さ

もう少し中身があれば13分じゃ短すぎるんです。当事者に配るときにはこんな絵だけじゃ駄目ですよ。30分、1時間、2時間といくら長かっても、当事者本人にはいいんです。

これは第三者に見せるんだから端折って見せる。そういう分け方をして下さい。これだけを当事者に渡すのだったら勿体無いですよ。40分位にすればもう少し具体的なものになる。そういうことが分かって作られるのだったら、これは素晴らしいと思います。

## 7.8 BGMについて

「最初と最後だけBGMが入ってあとは全然無い。このようなBGMの入方はいかがでしょうか。」(塩崎)

音の無いところに音楽をもうちょっと入れて、また音のあるところはその音を生かすとということでもいいんじゃないですかね。どの位入れたらよいかは難しいですね。

歩いてるところとかその外にも入れてもいいんだけど入れるのは難しいんです。あの音楽は歩いているときの音楽です。リズムがあるからね。だから歩いてるところはあれでよい。また自然の風景の所は、さわやかな違う音楽でもいいからそれをかぶせて行ったらもっとムードが出たかも知れない。

## 7.9 終わり方

「最後にフラッシュバックみたいにして終わっていましたが、いかがですか。」(奥野)

うんあれはね最後に一つのサマリーとしてまとめたもので、あれはあれでまとめ方としていいと思うんです。あれが宿屋のバックの絵だけで終わったら辛いね。ああいう形で終わっておく、あれも一つの方法ですね。

場合によったらあそこまで行かないで妙高のシルエットがあった、あのあたりで終わってもいいんです。もう着きましたと言うことで、温泉があるでしょう、滝があるでしょう、この山に関係のある絵があればそれで終わってもおかしくはない。だから本人がそれじゃなくてこういう風にやりたかったんだと言え、その通りにする。

これは非常によく出来た作品だと思います。

「いつも山の映像は登って下りてくるそれだけの構成になるのですが、もうちょっと目先の変った構成はないでしょうか。」(小野)

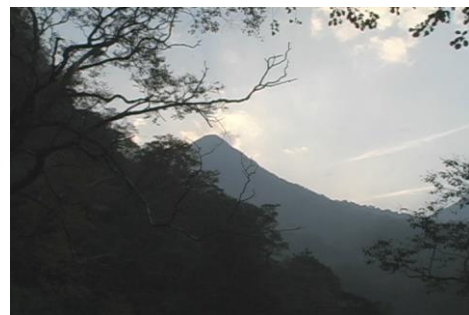
そうなんですよ。出来ればいいんですがね。何か見せるものがあればいいんですがね。結局登った人達の記録でもある訳だからそのような構成になります。前に撮られた白馬でも白馬鍾温泉のあたりから下りたところで終わってますよね。ほとんど猿倉まで下りるところで終わっているわけです。ほぼ全体を万遍なくやったわけですね。それが一つの記録ではあるわけです。だからどこかの芸術作品を見せるのではなくて、あくまでも記録で、私達の今まで歩いてきた足取り、道のりをみんなと一緒にもう1回再体験するんだというのだったら当然これが正解でいいと思うんです。

もっとも面白い何かがある場所で見付けられるとか、いろんなことが何かあったといえば、それをもうちょっと膨らませて見せてやるというのも大事です。

「電車なんかだったら、帰りしな和やかに帰って行くシーンがあったらいいのかなと思います。」(奥野)

電車で行って旅行した場合、ある程度そこまで行ったらそこで終わってもいいんですよ。自分のところに帰るまでは要らないんだから。どこか切りのいいところで、京都へ行ったのだったら京都を見て、そこで帰るところでもう終りでいいんです。

山の場合だって単調な下りだったら、単調なところで終らせる方法もあるんですよ。妙高山のてっぺんで、「良かった」と万歳くらいやって終る手もあるんですよ。それでも、まあ妙高山から燕温泉へ下りるというのは大変な道だったです。僕も登ったけど、あそこは登るのはしんどいけれど、下るのも同様にしんどいです。

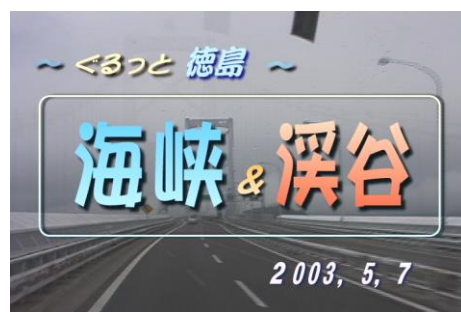


妙高のシルエット

## 8. ぐるっと徳島・海峡&溪谷 (前田 幸男:14分)

### 8.1 タイトル

こういう旅行であっちこち場所を変わって行くのを作るのは、意外と難しいんです。まとまらないんです。一つあってまた違う所へ変わってしまうわけですね。タイトルの「海峡&溪谷」はうまく作ったものですね。これを単なる「徳島旅行」とか何とかということにすると、なかなかタイトルと合わない場合もあるんです。なかなか洒落たタイトルだと思いますよ。





## 8.2 旅の絵

絵もなかなか的確に撮っています。船の中の絵とかよくワンポイント自分がいる位置から映像をよく捕まえていたと思います。こういうように動き回れないときには、そこで如何に絵を描けるかということ、是非皆さんやってください。なかなか撮り切れない場合が多いのです。

もっと絵があった方がよかったかなと思うのは、バスが祖谷溪谷へ入って来ますよね。あの間に乗ってる人がどういう人か分からない。要するに一番前にいるから場所はいいんです。あそこならすつと振り返れば撮れるんです。ワンカットね。そんなのがあると、どう云う人達が行ってるかということも分かる訳です。そういう絵があったら「切り返し」という、映像に変化が出て来るんです。ずうっと説明が出来てるんです。大歩危・小歩危トンネルを越えてよく分かるんですけど、その間にポット人が入ると、また感じが変わってきます。そんなのがあった方がよかったかなと思います。

全体的に見た場合ですが、頭の方から見ますと、入り方は大変良かったです。高速でパッパッパッと入って、それですぐ海。それで分かる訳でそれはそれでいいと思います。

## 8.3 悪条件での絵

ところで我々が行くときは天気がいい場合があるけれど、悪い日だってあるわけです。たまたま天気の悪い日にぶつかったり、渦潮が巻くような時間帯でなかったんでしょう？それを無いからといって撮らなかつたらしょうが無いんです。それをあそこまでまとめたのはやっぱりうまいです。

つまり波が荒れたのを阿波おどりのリズムに合わせるとかね。あれはそうかな本当に。阿波踊りってそこから来たの？ああいう感じのリズムというのは、もしかしたらそういうかもしれないなあという思いがしましたよ。それはそれに似てるからそうしたのかな。なかなか面白い。

ラジオドラマのことを横に入れましたよね。あれは僕は面白アイデアだと思います。一つの発見ではありましたよね。しかもあの上の見えない非常に天気の悪いところ、あれをあんなに演出しました。その様な取材が大事なんです。

ああいうときに「天気が悪いから写らんわ」と言って、やめる人が多いんです。ところがこの作品はそれなりに難儀しながら見てるところ、しかも下の波の音なんかもうまく入れ込んでやりましたでしょう。あれは非常にいいと思います。

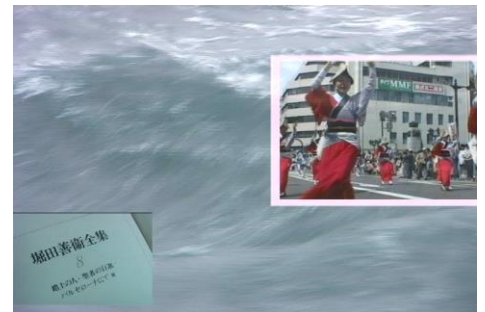
結局旅行したときの状況というものをあれだけよく的確に捕まえて、絵に出来るというのはたいしたものです。

去年でしたっけ、どなただったか「雪往きて」(注:関 久氏)あの時もそうなんですよね。あの穂高とか山岳地帯というところでお天気が悪かったら始末が悪いわけなんです。しょうが無いから、絵にならないからってやめる場合がある。しかしあの時はちゃんとそれを雪なら雪なりに絵にして、あれは5月の半ば頃だったと思うが、珍しい雪なんですけどね。でもあれだけの絵にした。やっぱりああいう絵にしちゃうという根性、それが大事なんです。そういう意味じゃこれもよく絵にしたし、迫力がありました。



なると「観潮船」にて

船内風景



渦潮に入れたカット



悪天候の潮の道

あの入り口では一発あって、あとポット入るところでいいと思うんです。カウンターでキップを買うところは無くて構わない。あのままボンと行って入り込んでいいと思います。

しかも中は風が強くて車イスの人とか皆さんが難儀している絵をもう少ししっかりと、そういう狙いで撮ったわけじゃないと思うんだけど、そういうのがあったら本当によかったと思う。風の強いところとかね。要するにあの下が見えないし、見えなくていいんです。あの程度でいいんです。ああいう日が年にかなりあるわけですね。スイスイとお天気がいい、いつも青空だと思っていたらとんでもない間違いで、行っても世の中が見えない日が随分あるんです。

そういう意味では、あれを諦めずにお撮りになったのは大変いいと思います。

#### 8.4 かずら橋

そしてあとは祖谷溪なんですけどね。あそこの祖谷溪のかずら橋のところ、ああいう危ないところなんでしょう。あのときの絵はよく撮れてました。良かったです。勿論下から撮ればもっといいんですけど、下りられないんでしょう。しょうが無いんです。

渡り切ったところで、正面から来る人の顔のアップを撮った方がいい。怖くてふうふう言って「ああ助かった」と言った感じの最後の言葉があったでしょう。あの人をあの前の段階から、ずうっと追うといいですね。やっと人が歩いているところを望遠ですべて撮る。

望遠で顔を撮る。それと足元は足元で別の人で構わないですからそれも撮る。あの辺もうちよつと入れたら面白かったんです。

それから横に平家の落人の説明画面が入っていたですね。あれは要らないんじゃないでしょうか。かえって分からないんです。あれなんだろうなって思います。後でそこへ行かないんなら別だけど、行ってるわけでしょう。だったら要りません。話だけでいいです。かえって副画面が出て来るとなんだろうなって考えちゃうわけです。

#### 8.5 BGMを入れるタイミング

それからあのかずら橋の歌はね、面白いですよ。うまく入れると思います。ただ歩いている最中から入れるんじゃなくて、橋のロングか横から撮った絵がありましたね、あのあたりから音楽を入れた方がいいです。歩いている最中から入れるというのはよくない。一発引いたサイズにしといてから音楽を入れて、また人の入った絵になっても構いません。そうやった方がけじめがつきます。音が小さく入って、上げて行ってるのでそんなに気になりませんがね。あれはあれでいいと思うんです。

初めに危ないようなところを見せてるんだから、むしろ何とはなしに音楽に合わせた絵として全体の橋を見えるところに小さく人が歩いてるとか、そういう絵で収めた方がいいのかも知れない。それで現実に戻ってアップで渡した方がいい。そういう風にした方がけじめがついていいと思います。

#### 8.6 インサート・カットの必要性

だからあのかずら橋は沢山撮っておかなきゃいけない。あれは沢山撮っておくことです。いろんなアングルをね。引いたサイズとかいろいろ撮っておいてそれを編集の時にその中に入れる。かなりあそこは



かずら橋



歌の導入部分

分厚く撮っておかないといけません。

初めから音楽に合わせるということを考えましたか？撮ってるときにどのような作品になるかということが案外分からないんです。そこまで考えていない。だからとにかく撮影する時はこれだけでいいやと思わないで、撮れるものがあつたら必ず撮っておく。ここもいいなと思ったら撮っておく。撮っておかないと、あとで絵が足りなくなるんです。足りなくなるとどうにもならなくなるから、人によっては絵を止めて静止画にしたりするけれども、それは絶対駄目です。それからもっと足元のインサートとか、違う人でもいいから足元や手でかざらを握り締めている所とかを撮っておく事です。そういうインサートを沢山撮っておくと、それはどこへでも使える。皆様も分厚く撮るということに心掛けて下さい。

### 8.7 船の絵

それから船の場面は大変よく撮れてます。特に船頭さんの声を生かすということ、これが大事です。あの船頭さんの声をうまく採ると、全部採ったら絵にならんわけですよ。ある程度ここまでいいなと思うのを採ったら、後は違う絵を撮つとかなくちやいけません。

この作品も乗ってる人があまり写ってなかったけどこれも1カットくらいは欲しいですね。ここには出ていませんが別に撮ってるかも知れません。みんなが旅行してまとまる場所は乗り物の中だけなんです。行ったメンバーの全員と言うわけにはいかないけれど、ある程度のメンバーをワンカットずつでも入れておくといろいろな面で便利です。皆さんにも喜ばれます。撮られるのが嫌がるんなら仕方が無いけど。絵はやっぱあつた方がよかつたと思います。



遊覧船

### 8.9 絵の質の向上

あの阿波の十郎兵衛ところですけれど、あの石碑の後ろに電柱があつたのです。ちょうど真後ろに引いたサイズに電柱がありましたよね。アップはいいんですけど引いたサイズに電柱があつたんです。あれはちょっとずらせば電柱は写らないと思います。ぜひこれからはそういうカメラの配慮をして下さい。

絵の質の問題です。絵は写ってるんです、サイズもみなの確でよいと思います。ただちょっとずらせば不要な物は写らないんです。ほんの僅かなことですが、でもそれが絵の質を上下するわけです。だからそういうことも含めてぜひあの1カット撮るのも、ただあつたからと言ってパチパチ撮るんじゃなくて、これでいいのかなちょっと動いたらどうかなということくらいは頭の中に入れて貰うと絵がまた変わって来るんです。



電柱の入ったカット

### 8.10 テレビ画面の複写

撮影のことばかりになって申し訳ないんですけど、あとあそこのテレビに何かビジュアル映像がありましたね。あの母親と会う所は泣かせる場なんだけど。あれだけじゃんじゃん上映してるから絵が悪くなってる。それを画面で写したんでしょう。余計に悪くなるわけです。まあこれはしょうが無いけれど、あれだけ差があるわけです。僕らも現物を見たわけでないんで、ビデオで見たんですからまああれでいいんですけど、あれだけ絵の質が悪くなるとよく分かりますよね。そのうちにハイビジョンになればもう少しよくなるんでしょうけれど、今のところはあれくらいでやむおえないね。惜しいけどね。

## 8.11 終わり方

まあこの3つの要素をうまく組み合わせていました。最後はワイプでない中に画面を副画面にして、画面全体にリピート見たいな形にして絵を見せて終ったんです。非常に終わり方としてよかったと思います。すっきりとして13分の中では、なかなか見せる内容が多かったように思います。

「ラストが尻切れのように思うのですが。」(前田)

いや、でもあそこで、十郎兵衛のところまで終るわけにはいかないから。やっぱり何かそういう絵がなければならぬ。だからそういうのを撮つとかなないと駄目なんです。だからあの時に、なんで終るかなと言うことを考えておかないと駄目なんです。それと十郎兵衛のあその場所では終られない。そうするとやっぱり帰路の何かをインしなければならぬ。だから船の中から四国が遠くなるような絵にするとかしないと終りようがないわけです。

「船は行く時は前で、帰る時は後ろで撮れとどこかに書いてあるようです。」(奥野)

まあその方がいいんです。つまり始まる時は近付いて行くとか、相手が近付いて来る方がいいんです。だから終る時には印象を弱めるからむしろ遠ざかって行く方がいい。船が岩壁から遠のくところでもいいわけです。ただ本人が乗らなかつたら駄目だから、船の側から向こうを撮るとか、遠ざかる岸壁を撮るとか工夫をしないと終われなくなってしまう。

ここで勉強になるのは、入りの絵と最後の締め絵、要するにどう最後を終るかということを考えて前田さんは撮っています。これがやっぱり大事です。全体的にはよくまとまっています。まとまりにくい素材です。全然要素の違う絵を3つ合わせているので難しいんですこれは。

「旅行ビデオの場合、撮った順番を編集のときに入れ替えても構いませんか？」(奥野)

それは構いません。ただ旅行に行った人に配る場合は変なことになりますから、撮った順番に並べた方がいいでしょう。全く関係がないように作ることも出来ます。しかし海と山とか、溪谷とあとは人間的なもので、するとどれを先にするかが難しいんですよ。5つ6つになったらある程度メインをつけて、それをしっかり入れて、後はある程度入れたら、メインを生かすものにしなければいけない。同じように横にオムニバスに並べたら、なんだか分からなくなってしまう。上手に順番を入替えてもいいと思います。

## 9. 「結婚式」(藪谷 承吾:6分)

### 9.1 参加者全員の撮影

結婚式を撮るとするのは最も難しいことです。ですから誰でも初めは迷われるんです。これが撮れるようになったら一流です。

難しいことの第一は参加者の全員を撮らねばならないということです。新郎新婦は勿論ですし、そのご両親もそうですけれど、そこに参列した人を全て写すということは殆んど難しいんです。

全員を写していないと結婚式に誰が来たか分からない、俺は全然写ってなかったということになる訳だから大変難しいんです。

### 9.2 タイミングの問題

結婚式の撮影が難しいことの第二はタイミングの問題なんです。結婚式の全体の流れがどうか。次にどんなことをやるのかが分かってないといけません。教会での結婚式の最初のセレモニーもそうですよ。どういう風に新郎新婦が動くのか、どこで指輪を交換するのか、分かっているようで分かってない。結局その写る場所にいかなきゃ駄目だ。



そういう意味ではこの作品は残念だけど場所的にも、タイミング的にも遅れている。というのは恐らく詳しいことは分かってなくて行かれたと思う。

### 9.3 場所設定の重要性

行く前に式場を調べて下さい。ここで渡します、ここに来てこういう形でやりますと分かっていると、ここじゃ写らないからこっちへ来ようとか、つまり式場のどっち側に行くかということだってあるわけです。

片方には音楽のスタッフがいますからあつちは駄目だよといわれたら、しょうが無いからこっち側へ来る。ライトは使えないから光の入る側、メインの光がよく入りやすいところを狙うというのも大事です。初め新婦とお父さんがどういう風に入って来て、どこで止まって新郎と対面するか。あそこが一つのポイントですから、それを撮り損なわない場所を見つけておかねばなりません。新婦の方のお父さんがもっと前へ出て来ればよかった。ところがそれが出なかったわけだね。それはもうハプニングで仕方が無い。

でも大体それだったらもうちょっと体をこちらにして、どこへでもその少し余裕を持たせるくらいの所にカメラを置く、あそこではあその側しか撮れないと思う。

それから指輪の交換をするところは、しょうが無いと思う。あの場合では動き回れないからあれでいいと思う。しかしそういうことが分かっていると話は違う。それでそのあとキスしたでしょう。あれなんかちゃんと撮ってましたよね。あんなの落としちゃったら大変ですからね。あとで恨まれますよ。ああいうのをちゃんと撮って置いてよかったと思います。



キスのカット

### 9.4 シャッターボタンの ON・OFF に注意

なかなか次の動作をやらないから、うっかりするとシャッターをOFFにするんです。大抵その瞬間に本番が始まって慌ててボタンを押すんですが、押してまたもう1回押すことになると、意外と時間がかかるんです。1秒くらいかかる事がある。すると間に合わない。もう前の動作の絵が入らない。だからあの場合では我慢して、この次にこうなると思ったらカメラを回しっぱなしにすべきです。人間は何かショックがパッとあると間違えて押す傾向があるんです。自分では押さないつもりなんだけど押しちゃうんです。そしてカメラは止まっちゃうんです。ああいう時は切らずに意識してカメラを回す方がいいんです。

### 9.5 音楽の撮り方

音楽はね、賛美歌を切らしたらまずいよ。このような時はカメラを回しっぱなしにすることです。回しっぱなしだったら音楽切れないでしょう。止めるとその音楽が切れてしまう。だから回しっぱなしにして撮って、場合によっては、無駄があってもいいから音を採る。こちらでピアノを弾いてるとか、オルガンを弾いてるとかの時、オルガンの方へカメラを持って来るんです。

ここでしばらく見せておいて、このくらいで音楽が要らないと思ったら、またこちらへ持って来て、歌を歌ってないだろうけど参列者の方にカメラを向ける。

音楽さえ切れなければ、その間に違う絵を嵌め込むことも出来るし、場合によっては他の人の表情なんかも撮ることが出来る。音楽を切るとね、ぶつ切りになっちゃうの。ぶつ切りの音楽が入っていると映像もみんなぶつ切りになります。



教会の十字架

この作品もぶつ切りだったでしょう。

だから音楽を生かすために、1小節くらいは連続して音を撮る、2小節目になった時に違う絵、新郎新婦の絵とかを持って来る。それから正面の舞台の所にキリストの十字架があったでしょう。あの絵を撮っておいて、もし入れるものがなかったら、それを入れるインサートするという風にして絵を作っていく。そうしないと音楽をぶつ切りにすると賛美歌でも何でも、ちょっと都合が悪い。

## 9.6 終わり方

最後に同じようなものを2回使ったでしょう。最後にふさわしい絵がなく仕様がなからあれを使ったのでしょうか。だから一つは、教会の前に庭があったでしょう。あそこの庭のところに人が出た所を撮らなかった？

そういう絵があるんですよ。それから始まる前に教会の正面の絵を1発撮って置いたらいい。初めと終りは違うからね。時間も違うし、人がいたりいなかったりするから最初に撮っておいた方がよい。そのような絵は終りに使えます。

「最後の‘終’というのは結婚式の場合どうなるのですか？」

「壽」でもいいし、「お幸せに」でもいいでしょう。そういう配慮も必要でしょうね。



エンド・タイトル

## 9.7 入り方

最初の1発目に見せるべき事は教会でやったということです。受付なんかどうだっていいんです。あそこに名前がスーパーで入るんです。新郎新婦の歩くところが欲しいですね。もっと長くね。出て行くとき正面を写したけども、あれは仕様がなから。正面を写してフレームアウトさせないでそのままフォローしちゃうんですよ。そうするとカット長くかせげるでしょう。長く撮っておけば、もしこの部分を使うにしても、2カット同じもの使うというおかしな事をしなくてもよい。

## 9.8 ワイプ使用上の注意

それからむやみにワイプを使わないこと。披露宴へ歩いて行く途中でワイプしないで、カットの切り替えで対応し、行き終わった所でフレームアウトしてからワイプにする方がよい。

## 9.9 披露宴の構成ルール

披露宴は、一つのルールがあるんですよ。

[a. 入場]初めは、要するに入ってくる場所無かったですか？スポットライトあてて、パアット来るとか、そういうのあるでしょう。そういうのを狙うんですよ。でないとな、立ってるだけじゃ仕様が無い。それでねスポットライトを当てながら会場を歩いて、正面のいわゆる雛壇へ行くわけでしょう。そこに二人が新郎新婦が座って、両脇に仲人さんが座るでしょう。そういう絵を撮っておかないと駄目です。二人がちゃんと座ってる所の絵は、ツーショットというか、二人の入った絵を撮っておく事が必要です。

[b. 仲人挨拶]その後結婚式だから、やっぱり仲人さんの一言ぐらいいねよく撮っといた方がいい。どういことどうなったという何でもいから入れといた方が、あとあとのためにいいですから撮っといた方がいい。

[c. 祝辞]それでそのあとで何があるかという祝辞があって、その後お祝いの言葉がいくつかあると思います。あそこで紹介してたけど紹介よりはむしろ一言くらい喋ってる所をポンポンと撮っておいた方がいい。

[d. 会場雰囲気]新郎新婦との関係とか見ている人との関係、会場全体の雰囲気が分からなかった。式場の後からフィックスで、動かさなくていいからロングで1発全体の雰囲気を撮っておいた方が

いい。もし入らなかつたら、パンするのは難しいんですが、そのときはメインの方に向かってパンしてご覧。あとで使いいいかも知れません。全体に何かあったら全体からこっちへパンしてもいいけど、全員が写るようにする。それでやっと何とか全員が入る。でも手前の人が入らないかも知れません。そのときはそれを別のところで横位置から撮影しておく。そして全員が「写らなかつたよ」と言うことが無いようにする。それが難しいんですよ。

[e. ケーキカット]ケーキカットも、あそこでは手先が見えないんです。司会の人「どうぞ撮影のために来て下さい」とか「いいですよ、もう1回やりますよ」とか言うはずですよ。

その時にあの位置は正面過ぎるんです。顔は見えるけど、下は見えない。1分や2分は余裕があるんだから、僕だったらカットする前に二人が持っているナイフをアップしておいて、ナイフからゆっくりとズームバックする。それからあなたのいた位置で二人を写す。それくらい時間がある。

そういう風に撮らないと今のままでは手先の方は分からないから何だか分からない。そういう風になると説明が出来るんです。

[f. キャンドルサービス]そのあと今度はお色直しに出て行く。次にローソクを持って入って来ます。そして各テーブルへ火をつけに行くでしょう。そういう2人の動きを撮ってやらなくちゃいけません。

結婚式というのは2人がメインなんです。その2人とあとは両親ですね。この二つがメインなんです。あとはお祝いに駆けつけて来ている方々です。

[g. 花束贈呈]それから最後に花束贈呈です。あれは傍まで行かなくちゃいけません。自分の席に座ったままで同じ場所で撮るのは無理です。

場所変えて傍へ行って両親に花束を渡すところとか挨拶を撮る。それだけの話だけれどもそれを撮るのが大事なんです。

## 9. 10 結婚式の撮り方まとめ

全てこういうものを作るのは文章として原稿を書くのと同じなんです。どういう風に撮ろうかなと言うのは、どういう風に文章を書こうかなと言う事と相通ずるところがあるんです。だから自分のやることを頭の中にまとめる事が出来るような絵の撮り方をしておかないと、あとで混乱します。

しかもこれは時系列で流れてますから結婚式の場合はこの場面を後ろへ持って来たり、前へ持って来たりすることはなかなかやり難い。だから撮った順序にある程度作って行かないとならない。絵もそれと合わせてロング・アップとかそういうものを撮っておかないといけません。ローソクの火とかそういうものは後で撮れるかも知れませんが、それ以外は撮れませんから大変これは難しいんですよ。

## 9. 11 事前打合せ

まだ恐らく結婚式をそんなに沢山撮られたことは無いと思うんですが初めてでしょう。結婚式には順序がありますから今回のをよく参考にして下さい。

それで今度やるときには主催者と向こうの関係者(注:キャプテン)に新郎新婦がどこから入って



ケーキカット



花束贈呈

どこを通るのか、ライトはどこで当てるのか、そういうことをちゃんと聞いておくのです。そうするとそれによってカメラの位置をどこにすれば良いかが分かるし、途中でカメラの位置を変えることも出来ます。

### 9.12 披露宴での撮影場所移動

だからカメラを撮る人は自分の席で撮ろうとしたら、それは大間違いです。それでは撮れません。初めはみんな邪魔しちゃいけないと思って自分の席で撮るのです。だけどある程度邪魔しないように、しかも責任もある程度持たないといけないので、本当に難しいんだけど、そうしないとまとまった絵にはなりません。その意味じゃ結婚式を撮るプロの人がいるくらいだから、これだけでそういう仕事が成り立つんですから難しいんですよこれは。

「主催者の新郎新婦から頼まれて撮るときに、どのくらいまで大胆に動けるかと言うのが問題です。

結局余りむちゃくちゃに動いては雰囲気壊しますし。」(奥野)

無茶苦茶に動くよね。その辺が難しいんです。ですからね。あんまり動き回っても駄目だし、だからと言って動かなければ撮れないし、だから少なくとも相手が動く時には動いても構わない。先ず相手が動くでしょう。音楽に合わせて歩いて来るところなんかはね。あんな時は動いたってあっちに気をとられてるから分からないんだからそういうときに移動して撮る。

「前へ行く度胸というのかな、やっぱり偉いと思うな。」(岡崎)

なかなか普通の人には難しいと思います。けれど、ある程度これは心を鬼にしてやらないといけません。同じ場所にいたら撮れません。これは皆さん共通して悩みの種だと思う。ある程度邪魔をしない程度にやって、良識の範囲内で動いてください。あんまりしょっちゅう動き回っていたら言われる。雰囲気壊しちゃうからね。なるべく壊さないように、動き回るのは最低限度にしても、ケーキにナイフを入れるところと、何か動きのあるときには仕様が無いから動くようにする。プロは三脚を据えてライトを持ってあちこち動き回っているでしょう。プロだから仕方が無いとして、アマチュアはそうは行かないんです。

### 9.13 話す人と聞く人

例えば仲人が話してる場合などは言葉の一区切りを、一言くらいちゃんと意味になるようなところだけ撮っておいて、あとは自席に帰って来る。そして座って今度は聞いている人を撮る。話してる時は必ず対面として、こっちが話せば聞く人がいなければならない。ここはどうしても一つの対として撮らねばならない。それは絵としては例えばここに座ってるでしょう。向かい側でお話していると、これを撮るでしょう。ここで戻って撮れば聞いている人を撮れるし、ここにテーブルがあって人がいればここでまた撮れる訳です。そのくらいの絵はね。これはもう最初の絵の言葉を生かせばいいんだから、後はもう載せ変えりゃいいんだから、一応は絵があればいいわけです。

### 9.14 三脚の利用

「頼まれたときは隅に三脚を立てさせてもらってるのですが。」(奥野)

頼まれたときには関係者にことわって三脚を端の方に立てます。普通フィックスのときはここで撮るということにして、動き回るときには三脚なんかは持って行かれないから、手持ちで撮ります。



## 10. 雲雀山・得生寺（塩崎 博:15分）

### 10.1 導入部

なかなかこれ力作ですよ。細かいところは別として、ロングを3回使っている。場所を変えて撮り直しては？ 枯れた木があるから印象に残る。あれが入らないように山の下から撮ること。

あのようにしっかりとした、印象に残るカットが何回も出て来ると、またかと思われて損です。寺の麓の見えるところから撮るとうんとよくなる。得生寺へ入るところのゴタゴタしたところ、あれは無くてもよい。むしろ古い町並みをあの後ろに入れるようにしたほうがムード的によいのではないか。

### 10.2 地図のスーパー

前に出す地図のスーパーは無くてもよい。映像と言うのはなるべくゴタゴタしないほうがよい。スーパーが入るとそちらの方に目が行く。

地図をいれるならロングの場面でなるべく動かない絵を使う。絵が変化しているところに入れずに、長めに撮ったところにスーパーを入れる。中国の風景や砂漠などには地図が要るかもしれないが、地元で行くものだから画面で充分に分かる。

よい絵だから勿体無い。だからゴタゴタした入り口など説明しないで、古い町並みをすぐに入れるよう整理した方が入りやすい。

### 10.3 祭りをどう捕らえるか

僕も何時も仕事で行く時は、午後2時頃から始まるのでお昼すぎ現場に行く。そうすると人がいっぱいなかなか動けない。だから中で子供たちが準備をしているところなどは撮っていない。これはよく撮っています。

作品の作り方にもよるが、子供達が地元の伝統を守る役割を果たしているのだという事にするのであれば、もうちょっと地元のためにやっているのだという事をもう少し印象付けた方がよい。

単にお祭りを見せるだけならあれくらいでよい。どちらかと言うと切り口の問題なんだけれど、何をどういう風に祭りとして撮ったのか、郷土の行事を支える子供たちの姿を通して祭を見る姿を撮ったのか、それによって変わって来る。視点をもう一つ詰めるとすごく良くなる。それと本堂から戻って来るところは、ある意味では行事を正確に記録したもので、非常に貴重なものです。ここまで撮った人は恐らくいない。

絵はとにかくよく撮れていましたが、インサートをもっと考えて欲しい。それは歩いている人達の足元とかを入れると助かります。絵巻などああいうものは僕も見ることが無い。

中将姫の話はもう少し短くする。詳し過ぎる。15分と言う時間にはうまく配分されているが出来たら中将姫が山へ登るあたりは切ってもおかしくない。

どこで終るか僕は心配した。でも子供たちの話でうまくまとめていた。これは貴重な記録ですよ。



地図スーパー



祭りの準備をする子供達

## 10.4 水平に気を付ける

皆さんも気をつけて下さい。水面を撮る時に分かるんです。ところが夢中になると分からなくなってしまふ。自分が撮っているときは曲がっていない。しかし撮った後に持ち帰って見ると曲がっている。これは「クセ」ですから、意識して「俺はこんなクセあるのだ」と思って、常に直すように心掛ければそんなに目立たないようになる。特に良い場面の時、曲がっていると辛いんです。またそういう時は夢中になっているから分からない。

## 10.5 三脚の使い方

三脚を使って撮影する時は三脚を強く抑えないこと。ちょっと触れる程度で三脚が動く程度にして止めておく。動かそうと思えば動く状態のフリーにしておく。値段は高いが三脚の水平を取り易い、ボール形のものを使う。しかしこれは重いから遠くへは持って行けない。従って軽い三脚の場合はあまりパンとかズームをしないとすることで絵を作る。

## 10.6 手持ちの訓練

また手持ちでも「ブレ」ない訓練をする。ワイド側にすればブレは少なくなる。見ている人が動くことを意識しなければ動いても良いのです。手持ちの方が動きやすいのだから、訓練を重ね、失敗を恐れなくて、どんどん撮っていただきたい。

望遠を使うときは何かに寄りかかるなど工夫して、これ位だったら大丈夫だと言う撮り方を覚える。先ずご自分のカメラに馴れて下さい。カメラの操作は体で覚えるようにして、大切なものを撮り落とさないよう訓練して下さい。

## 10.7 音のインサート

まとめて見ますとこれは非常によい作品です。ここまでちゃんと撮れて完成すれば充分です。地元の方に渡せば、祭が絶えてもこれを見ながら繰り返すことが可能です。あれだけちゃんと撮れば、出来たら見物している人々をもうちょっと入れればよくなる。音の方も「ご詠歌」ですか？

「屋外で撮った場合雑音で使えないので、本堂内で撮ったものをインサートしています。」(塩崎)

表は人がいっぱいでもノイズが多くて駄目な場合があるので、時には音の乗せ替えということも必要です。編集は音を先に入れ、それに絵をかぶせて行く。そうしないと絵と音が合わない。



小学生による25菩薩

## 11. コンテスト総評

### 11.1 採点の配分

総評について申し上げます。一番大事なものは企画。撮影は勿論ですが、「企画・構成」と言うのは皆さんの中では一番重要なものです。どう作って行くか、どう見せようかと言う本人の意思です。ただある風景をそのままつなぐのであれば、誰でも出来るのです。そうじゃなくて、どういう風にやっ行って行こうかと言う大事なもので、これを30点とします。

それから「撮影」は勿論重要です。絵が無かったら何も出来ませんからこれも30点。

それから絵を生かすか殺すかは「編集」なんです。これは20点。

残りは「全体をうまくまとめているか」と言うことで、企画・構成が良くても全体的に見た感じと言うものがあるのです。いいか悪いかと言うことで20点。全部で100点満点と言うことです。

## 11.2 「企画・構成」の評価

今回ジャンルが違うので良し悪しは言いにくい。「企画・構成」で良かったのは鈴木さんの「光川亭仙馬」、中嶋さんの「シベリア抑留」、前田さんの「ぐるっと徳島」です。満点は30点ですけど、満点とは行かないで25点ということです。あとは「秋の火打山・妙高山縦走」20点、これはよくあり得る山のムードを撮影したもので、考え方・発想としては鈴木・中嶋さんの方がより新しいと言うか、内容がどうしても濃くなるので、そういう意味ではテーマそのものの問題だと思います。「梅」は残念ですが、タイトルとして梅だけということで簡潔でいいのですが、中身が伴っていないということで15点。

## 11.3 「撮影」の評価

撮影技術としては、前田さんは的確にとらえ、場所を限られてそれをうまく使っている。船の中でも温泉も、実像の使い方の良さと的確に撮影してこれは20点。

鈴木さんは難しい企画をうまく要所要所を抑えている。もう少しアップをしっかりとつかまえて挿入したらまだまだ良い作品になります。

中嶋さんのは、自分の体験から自分の音声をうまくマッチさせ、編集には難点があったのですが、撮影そのものはこれ以上のものは撮りにくだろう。あとは自分の持っているライブラリーがあるならば、その中から昔の映像を引っ張り出してこれとうまく合成していくことで、もっともっとレベルアップ出来たのではないだろうか。

そして「梅」はこれだけではどうにもなりません。梅だけでもたそうと言う事なので、ちょっと無理です。どう考えても何か他のものをもう一つ二つ、ひとひねり、ふたひねりしないと、ちょっとこれではもちません。そういう意味でも、春めいた風景を入れ込んで、動物をはめ込むとか、人を入れるとか何とか変化をもたせないと、あの時間でも長く感じる。もう一工夫お願いしたいと思います。

南川さんの「火打山」の方は、撮影の方は苦勞してこれだけ撮れる人はそういないですけど、ただもう少し苦勞するかも知れないが、人物の表情をもう少し大きく、風景も山頂とか節目節目の映像をもう少し押しさえ込めば、これはプロに勝るようなよい作品になると思います。あれだけ歩けるということは、余程歩ける人が他にもあると思います。それを生かすために表情みたいなもの、ただ歩いているだけでは無しに、もっと人間的な面を出せばもっと面白くなる。

「ぐるっと徳島」は、まとまりの悪い映像を10数分間の間に、海と山と溪谷とをうまくまとめている。普通だったらダラダラしてしまう時間的にもあれだけ見せれば充分です。ちょっとひねりすぎた部分もある。例えば歌など入れるのはあっても無くても良いですよ。昔を偲ぶような感じだったら今の絵は合わない。昔のあのような所を撮って、おばさんが疎水の前を歩いている情景でも作られているのなら違うのです。それだけじゃなく、藁葺きの家とか昔の生活がにじみ出るような映像であれば、音楽を入れるのは良いがあくまで現在の話なのです。船に乗っているのはどこかの観光客なんだから、ちょっとそういう意味では分からんですけど、観光的なので映像的には良かったです。

## 11.4 「編集」の評価

編集なんですけど、ちょっと皆さんはやっぱレベルが大分問題がありますね。これからは編集、特にインサートの使い方を考えて下さい。

鈴木さんは場所を切り替えるのに、車をあちこち遠いという表現に車を使っている。あれも良し悪しで、1回だけやればポンポン変えても構わない。思い切って変えて行く位にする方がリズムが良い。そういう意味で、場所移動はどんどん変化してやる。

「火打山」の方は20点満点で15点ということは7割5分なのですが、編集でもう少し生かせるものがあつたし、もう少しインサートを入れ込んで、うんとよく見せる絵はちゃんとあれだけあるのだから、それを迫力あるように見せるとか、危なそうに見せるとか、愉快的な表情をもう少し強調して見せるとか、映像の世界というよりむしろ現場の雰囲気はどう伝えて行かかと言う所に力を入れて貰うと、絵がぐっと引き締まる。

「ぐるっと徳島」は全体的に良かったと思います。長くやっておられる方はそれだけ経験が豊富ですから、それだけのことはあるとよく分かります。特に鳴門の海の上から覗いた所、普通だったら落としてしまう、それをあれだけ見せたというところ、船の中僅かな中に説明を入れるのは難しいです。旅行の一過性の中でそれだけ演出するのは大変なことだと思います。そういう意味で要領よくまとめたということです。全体的にはそういうことなんです。

### 11.5 総合評価

作品を見てみますと、「徳島」が90点の1位、鈴木さんと南川さんは同点になってしまいました。両方もしっかりしていて優劣がつけがたいが、私に決めてくれと言われれば決めます。よくバランスが取れている鈴木さんが2位、南川さんが3位ということになります。

後は中嶋さんが残念ですけど60点でちょっと足りなかったんですね。もう一ひねりするとよくなる。これから直してよくなる可能性があるのは中嶋さんのです。これにちゃんと昔の絵を嵌め込んで、しかももう少し歴史をたどるような絵があの中で見付かれば比較にならないほど立派な作品になることは間違いない。体験があるのだから訴える力が大きいです。あのままだと絵の部分に足りないところがある。もう少し工夫すれば間違いなくよくなる。

「梅」はさっき申し上げた通りです。

「得生寺」は抜群によく出来ています。こういうものを要するに文化財という。文化とは何も残っているものではない。そういう意味でこれはあのスーパーはやめたほうがいいですね。質を落とす。それにロングをもう少し違う絵があれば3箇所使わないほうが良い。スーパー地図はやめたほうがよい。それとロング、最初の次に2回出て来る。同じものは2回と使わないほうが良い。それほど印象に残る。途中でもう1回使うのが許容範囲、ちょっとどちらかに寄るとか、アングルを変えて撮るとか、そういうイメージを避けなければいけない。この作品は有田市に持って行ったら喜びますよ。こんなのは撮っていないと思います。教育委員会の方へ行ったら、それなりの評価は得られます。折角撮ったのだから、和歌山には仏像など文化財は多いが、人間がかかわるものは死んでしまったり、伝承が切れる場合がある。そう言う時映像は物凄く役に立つ。現在の話じゃなくて、50年、100年先の話でもそう言う時の財産になる。映像とはそういうものですから、地元のこういう絵を撮る機会がありましたら、皆さんもぜひそれに参加して、後世のために今の映像技術というものを伝えて欲しい。

### 11.6 映像文化

文化とはここで初めて我々のやっている「映像文化」、皆さんの映像クラブというのは、こういうものをビデオクラブの力によって、プロではなくアマチュアだけで残せます。プロが撮っていれば良いのですが無いですよ。写真はありますが、ビデオは誰々さんが撮ったものがあるという事です。ここで写っている子どもたちも30~40年たってみるとよい大人になって、あれあの時誰かがいたということになる大変な財産です。ぜひ文化財として、何かの形で残すようにした方がよい。名前が入っているのだからそれはそれとして意義がある。ぜひ役立てていただければよいと思います。

今回全体としてちょっと参加者が少なかったですね。これからは初めての方、初心者というか作品を造り慣れていない方に、得意な方は指導して下さい。大切な事ですよ。

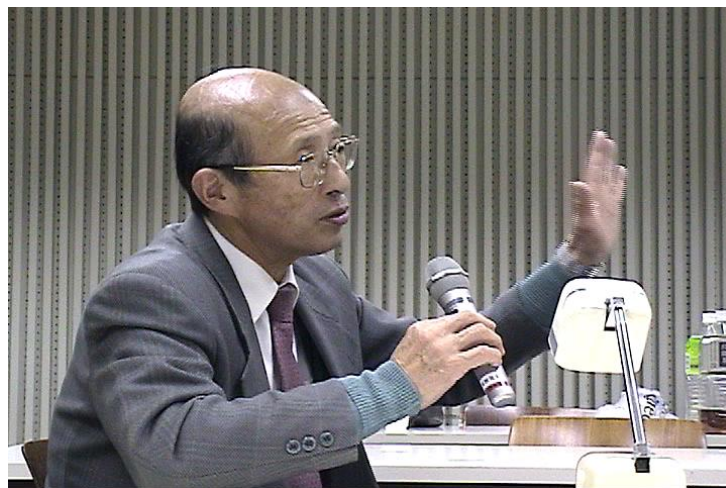
そして撮影の基本というものをもう1回見直して、フィックスを基礎としながらも、それをうまく生かして行く。そしてあとは器材をもう1回見直し少しでもバージョンアップというか使いこなせるように努めて欲しい。

三脚が途中で動いたことがよくありますので、それらを含めてパンしてもちゃんと撮れる位にすると、難しいものが撮れるようになる。とっさの場合絵が撮れるようになる。それ以上言うことはございません。

皆さん長くやっておられるので、音声の入れ方、音楽の使い方、なかなか丁寧にやっている。このレベルをもっと持ち上げていただいて、と言ってあまり難しいテーマを狙わなくてもいいと思います。もっと身近なテーマをすっきり撮られて、それを記録する。身の回りのこれはと思うものをしっかりと撮ってもら。それが場合によっては貴重な財産になるかも知れません。ぜひお体を大事にさせていただいて、無理しないで、なんと言ってもこれから先はやっぱり元気で動けるということが大事なのです。

そのための「生きがい」の一つとして、ある程度の負担をかけないと人間というのは駄目になってしまうから、少しは緊張していただいて、緩めるところは緩めていただいて、作品造りに励んで下さい。

以上いろいろ有難うございました。



高野 武司 先生

## 随想・映像クラブの20年

前田 幸男



現在『会報』は480号を数えている。単純に計算すると40年前の今頃創刊号が出たことになる。

40年前と言えば1964年、昭和39年で、私は40歳を過ぎてやっと自分の会社を立ち上げたばかりの頃である。

軍隊(呉海軍)で覚えた酒と煙草は激しかったが、「趣味」などという余裕はまだ体の中のどこにもなかった。

昭和50年代後半になってようやく心の中に余裕が出て来た頃、私は仕事の仲間から『動くカメラ』というもののあることを始めて教えられた。いわゆる「8ミリフィルムカメラ」であった。早速カメラ店へ行って、何の選択能力もないまま、店員の薦める「エルモ」を買った。またその直後、同じカメラ店で当時のクラブの会員のひとりを紹介され、その人の推薦ですぐ入会することになった。その会員は親切に私の面倒をみてくれたのだが、私より若いのに先に逝ってしまって今はもう居ない。

当時クラブの例会場は「井崎さん」という会員さんが所有するビルの二階を借りていた。例会は毎月第3土曜日の夜に開かれていて、入って行くといつも正面に「高塚会長」が座り、後でわかったことだが、元会長だった本谷さん(故人)や、最古参の会員という吉方さんら、御歴々がまぶしく眼に写った。既に会長を譲った「生馬先生」はおいでにならず、いつの総会かで一度お目にかかった記憶だけがはっきり記憶に残っている。

今『会報』を繰り返し見ると、私の名前が「出席者名簿」に出て来るのは56年3月のことだ。しばらくは出席したり欠席したりで、その頃から既に「届出欠席」の制度はあったようだ。当時の会報はタイプ印刷のB5版2ページだったが、誰がその作成に当たっていたのかは今も知らないままである。

どんなに探しても「出席者名」欄以外に私の名前が出て来るのは昭和59年7月が始めてである。そこでやっと「出品者」として登場するのだ。実に3年がかりである。題して『絵になる街・横浜』・13分20秒とある。この月の例会には6点の出品作があったが、なんと私の拙作がその月の『月例賞』というのに推され、翌60年春開催された「公開映写会」…<6月22日／県民文化会館小ホール>に、その作品が250名の観客の目にさらされることとなったという記録がある。ただし記録で見ただけで、その時の会場の様子やその他は、本人である私の記憶からもとつくに消えてしまっている。

更に記録によると、私は60年には3作、61年にも3作、62年には5作、そして3年後の平成2年からは年間出品数を11作にまで伸ばしている。そしてやがて年度末の総会で、何点もの賞を受けるほどの勢いをみせた時代が来る。実はその頃は賞の仕組みそのものが、「生馬賞コンクール」が4月に、「知事賞コンクール」が7月に、「市長賞コンクール」が11月にとそれぞれ別々に行われ、またそれぞれに金・銀・銅賞があったので、ひとりで複数の受賞が可能だったのである。その頃私は仕事の上で既に業界団体の役員などをやっていて、全国出張はおろか、時には海外旅行の機会にも恵まれていたので、作品の題材にはこと欠かなかった時期である。

ついでに記憶に残る作品をいくつか拾ってみると、「ズームイン浅草」「都電・荒川線」「ヴェニスの旅情」「バリは楽園」「麗わしの島・台湾」「最果ての離島利尻・礼文」「サラブレットの里」「桂林・漓江を下る」「上高地を歩く」「二十四の瞳を追って」「五箇山・合掌集落」「おわら風の盆」「おじゃ〜れ八丈島」と、題材は各地に及んでいる。

また賞といえば、そんな頃「フジフィルム・コンクール」や「CFC サロン全国撮影大会」が盛んで、私だけでなくクラブ員も多く参加したし、賞を貰ったことも多かった。丁度幼稚園へ通うようになっていた孫娘がモデルになって手助けしてくれたせいもあった。当時フジフィルム社の賞は素晴らしくて、マウンテンバイクも一台貰ったし、中でも忘れられないのは『2名様招待ディズニーランド宿泊付き入場券』を貰ったことである。丁度平成2年で、私も8ミリフィルムから「ビデオ党」に仲間入りをしたばかり、このフジフィルムで貰った入場券でディズニーランドを一日中惜しげもなく撮りまくったものだ。1秒にかかるコストがいくらか計算しながら撮らねばならなかったフィルム時代よさようならと、いい気なものであった。

平成10年春には「DV カメラ」にも仲間入りしたし、平成12年秋には遅ればせながらコンピューター編集を学ぶことにもなったが、時既に私は傘寿を祝ってもらう年齢になっていた。

クラブの有志で私の傘寿を祝ってくださったので、お返しにと思って手作りの『自分史』のようなものを作ってお渡ししたが、その中で私は次のようなことを書いている。「文筆家に憧れた少年時代の淡い夢は、いつの間にか忘れ去られていたが、動く映像との出会いがあったおかげで、ペンに替わってカメラが私の表現したい欲望を叶えてくれることになった」と。

思い返せば平成元年春、個人的にもいろいろ御指導を受けた鎌田斌先輩が病気で亡くなられ、計らずも私がその後を受けて副会長の大役を引き継ぐこととなった。そして高塚会長とその次の関会長と二代の会長のもとで、私は12年間も副会長を勤めた。

今私は会長を勤めさせていただいているが、もしこの「動く映像」の趣味を知らずに来ていたとしたら、私はどんなにか虚しい余生を送ることになっていただろう。私にとって「映像クラブ」はかけがえのない老後の生き甲斐となったのである。

時代の移り変わりは殊の外速く、息せききってここまでついては来たものの、もうこの辺が私の力の限界だろう。特にメカに弱い私にはそのハンディを乗り越える馬力がもう果ててしまった。人様に迷惑をかけるより、ゆっくり美しい風景でも撮り、他人様のことも、コンクールのことも気にせず、ひとりで楽しむことにしよう。

そして後輩の諸君がどんどん腕を上げてゆくのを静かに見守ることにしよう。若い人達はクラブの範囲を超え、広い視野に立って挑戦することも可能だし、新しい器材に取り組むことも、新しい時代のテーマを開拓することも可能だ。

羨ましいけれど、私はそれらを横目に見ながら我が道を行くことにしよう。

# フィルム一筋

小野 誠之



H15白馬山頂での小野氏

私が8mm映画撮影を始めたのはスチール写真と同様山登りの記録を残したいからであった。

今思えばなんでこんなしんどい事を始めたのだろうかと思う。カメラを持てば人一倍動きまわり休憩時間でも周囲を眺めて何かを一カット撮っておけば何かに役立つことがある。山行の荷物を出来るだけ軽くする為、小型のカメラと言う事でNIKKOREX-8F(ズームコンバージョンレンズ2倍付き700g)、レギュラーフィルム(16mmフィルムの片側ずつ往復撮影する)時代の頃(S37年)から始まった。

レギュラーフィルムは磁気コーティングが出来ないので

ヘタナ活弁にテレコの適当な音で伴奏した。

今思えば幼稚な事をしていたものだ。それでも山の仲間と一杯やりながらわいわいとそれを見るのも楽しいものであった。

私達の時代は物が豊富でなかった戦前、戦中に育った為か物を大切にと言う事を教え込まれた。昭和35年製のオンボロ車も公道を走れる状態で今手元にある。雨の日は走らせないが。その教えが元で8mmカメラでも壊れるか、フィルムの発売が止まって使えなくなるまで当初のカメラで頑張った。

シングル/スーパーの新型フィルムが使える新しい多機能の搭載されたカメラが出回ってもなかなかそれに移れなかったが、とうとうレギュラーフィルムの

国内現像停止(H元年)となったので止む無くシングル/スーパーフィルム使用のカメラへ移った時は既に8mmカメラの全盛時代は過ぎていた。カメラはレンズも明るくなり、ズームレンズ付きで又、現地録音機能、オーバーラップ機構など便利な機能が備えている事は有難いがカメラは1.5~2kgと重くなった。年をとって体力が低下してくるのに山行の荷物が軽くなならない。撮影を止めようかと思うが止められない。

ビデオもどんどん毎日と言っていい位新しくなっている。重いカメラより軽いビデオに変わりませんかとの誘いが時々ある。ビデオはフィルムに比べて暗い所でも強い。又フィルム1巻3分20秒に比べれば長時間の撮影が出来、機能を個々に見れば確かに有利であり素晴らしいと思う。

しかし8mm撮影機のフィルムをかき落とすカシャカシャと言う音は蒸気機関車の力強い音のようにたまらない魅力的な音だ。ビデオには無い力強い音だ。あの音を聞かないと撮影したという気分になれない。

カメラメーカーは無責任で故障しても修理してくれない。最近故障カメラの修理をしてくれる店が出来たので有難いが電気系統の修理が出来ないものもあると言う。

少し前、ヨーロッパ旅行をした時も8mmカメラを持って行った。ヨーロッパでは古い8mmカメラで撮影している人を見かけ気を良くした。まだまだ8mmフィルムで撮影している人は外国にもいるんだ。8mmフィルムで映像を充分楽しもうと自信を持った。ビデオに移ればビデオカメラだけではすまない。周辺機器への投資も必要になる。それだけ投資してあと何年撮影活動が出来るかと思うと、もったいない。8mm撮影機も動きフィルムも入手出来る間は自分の楽しみとして8mmマニアで行きたい。

ビデオに投資する金があれば8mm撮影機を持って妻と海外旅行を楽しみたい。



NIKKOREX-8F



## 私のビデオ三昧

菱田 公造

中学生の終わり頃からの趣味だったラジオ製作や真空管のアン  
プ作りに加えて、私がビデオに興味をもちはじめたのは、30数年  
前の1975年前後のことだったろうと思います。家庭用のVTRが  
出始めてまもなくの頃、β マックスのテープが1本3000円位した  
記憶があります。映画ファンでもあった私は、よくTV映画を録画  
して楽しんでいました。まもなくVTRの小型化も進み、ポータブル  
VTRとビデオカメラが発売され私のビデオライフは、ますます楽し  
いものになって行きました。



今から思えばあんなに重たいポータブルデッキ(8.5Kg)を肩にして、両手にカメラと三脚で7Kg にもなるのによく撮影に出かけられたものだと思います。(まだまだ若かった・・・) その頃から据置型デッキとポータブルデッキを組み合わせでビデオ編集を始めていましたが、カットとカットの継ぎ目のレインボーノイズや映像の乱れには悩まされました。しかしその悩みも後に発売されたFEヘッド付のVTRによって見事に解消されることとなります。βとVHSが次々と新技術を発表して、私たちビデオファンにとっては話題に事欠かない楽しい時代でした。

“ビデオ読本”から“ビデオサロン”に改名されたのもこの時代より少し前の1980年前後だったのかな。そして数年SONYからEDベータのEDC-50というビデオ一体型カメラが世に出てやっとポータブルデッキから解放されました。EDベータのその映像を見たときの感動はいまだに忘れられません。すぐに予約して手元にと届くまでの数ヶ月の長かったことは、1日千秋の思いでした。



EDC-50

今のDVカメラの映像も美しいけれど、映像の奥行き感や、しっとりと落ち着いた感じの映像はEDベータの方が一枚上の感じがします。そのEDカメラも8Kg という重さには機動性が悪く、1988年のHi8ビデオの発表により私のカメラもHi8業務用カメラへと替わることとなります。それでも5.5Kg はありました。編集作業も正確さと快適さを追及し業務用機材を導入して同ポジやABロール、オーバーラップもできるようになり楽しかったあの頃の思い出が一杯です。

この様に思い出してみると私のビデオライフは、映像作品を作るというよりも美しい映像を追及して撮影機材や編集機材との追いかけてこだったのかなア・・・と思います。当クラブへ入会して11年、折に触れ先輩諸氏の話聞いてもフィルム時代もカメラや映写機におのおのこだわりが有ったようで、いつの時代も同じなんだなアと思いました。

これからはパソコンの時代、私も撮りためた美しい映像をデジタル変換したり、愛用のDVカメラとパソコンを使い、より楽しいビデオライフを過ごして行きたいと思っています。

JH3FWM

## 撮っても楽しい『ビデオ』

塩崎 博



今回、「和歌山映像クラブ創立50周年記念」に参画できる事をうれしく、また、ありがたく思っています。

私が初めてカメラを手にしたのは、昭和29年、当時2眼レフで写した写真、写したと云うより写った写真が「関西学生写真展」に入選したのがキッカケで映像に興味を持つようになりました。その後、「止まっているより動いているほうが面白い」と8ミリフィルム的小型映画を手がけたこともありましたが、昭和52年頃私たちアマチュアが手にする事が出来る携帯のVHSのデッキとカメラが販売されたのを機にビデオに乗り換えました。

平成元年定年退職後、時間にゆとりが出来始めた平成5年現在お世話になっている「和歌山映像クラブ」に入会してから奥深い映像のトリコになってしまいました。

私が撮影に行く時は、感動の場面を映像に残したいと愛用のカメラを肩に、作品作りは足でかせぐものと出かけ、またドライブを楽しみながらの撮影時は行動範囲が広がってゆき未知の地方の方々とふれあいが始まり、今も親しく付き合いを続けるなど趣味の域を超えて楽しさを満喫しています。

現地での撮影で気を配るのは、どこで自分らしさを作品に生かすのか。一つの被写体を見つけたら様々なアングル・ポジションから、そして、サイズを変えて撮影します。他人と違ったところに目を配る。そこに色々な出来事が隠れています。それが見つかれば、人と違った作品が出来上がります。

その他、木漏れ日、光と影、水の波紋、夕日、といったカットは編集時にインサートに使用するなど作品にゆとりが出せ必ず役立つ素材でもあります。

撮影が終わったテープは、家に持ち帰りパソコン「Canopus DV Storm」を操り、カットをひとつひとつ分解してナレーション、BGM、を入れて行き、自分の意志を作品に吹き込んで行きます。1カット5～6秒、長くて10秒位で留めて、作品は15分程度にまとめます。「ここは苦心して撮影したシーンだから使いたい」などの思い入れがあり、なかなか切り捨てできません。でも、第三者に「楽しく観て貰う」ためには、「作品の内容が解り易く、丁寧に構成する事」に心掛けています。

私もクラブ入会后、スムーズに進んだ訳ではなく一つの壁に行き当たり挫折しかかったことがありましたが、ある方が、私の作品にナレーションを入れて下さり私の愚作が見事に生まれ変わりナレーションの大切さを教わりました。このようにナレーションの援助と、いち早くパソコンによるノンリニア編集に取り組んだお陰で「和歌山県アマチュアコンテスト」で「県知事賞」5回をはじめいくつかの賞を受賞(別記参照)する事が出来ました。

こうしたビデオ制作の『道楽』が適度の運動と気分のリフレッシュ、ストレス解消と健康維持に最善のようでしたが、私も年齢には勝てず狭心症のため療養の身となりました。ビデオ制作の最大の楽しみは、完成作品を「より多くの皆様に観て頂きたい」そんな願いを込めて、去る平成15年4月13日「古希」を記念して「あいあいセンター」6階ホールで過去の入賞作品を中心とした私の映像作品『映像散歩』を開催したところ、200人を超える方々がお越し下さり盛大に開催することが出来ました事は皆様方のご支援の賜と深く感謝しています。私もまだまだカメラを手放す事は出来ません。

今後は健康に留意しながら、更に腕を磨きより良い作品作りを目指して行きたいと考えていますので、皆様方の一層のお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

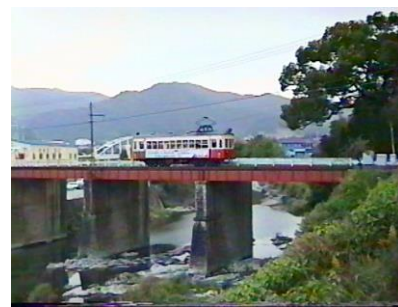
筆者ビデオ作品集:『和歌山県アマチュア映像コンクール』入賞作品等



平成5年『県議会議長賞』  
「ねんね根来の子守唄」



平成6年『県教育委員会会長賞』  
「思い出のローカル電車野上電鉄」



平成7年『知事賞』  
「南海貴志川線最古参電車ラストラン」



車庫のある伊太祁曽駅で上下列車が行き違う



平成8年『県視聴覚連絡協議会会長賞』  
「和歌山城・早春譜」



平成9年『知事賞』  
「白壁の街・倉敷」



平成10年『知事賞』  
「和歌山城を訪ねて」



平成11年『県教育委員会会長賞』  
「根来寺を訪ねて」



平成12年『知事賞』  
「紀州・和歌浦・天満宮」



平成13年『知事賞』  
「雲雀山・得生寺」



平成14年（賞審査対象外作品）  
「興国寺・天狗まつり」

## 思い出50年

岡崎 譲



50年と言えば、私は高校生の頃だ。在籍していたのは光風工業(現在の和工)で校舎はもう住宅地になって跡形もないが、堀止の停留所(当時は市電があった)を南に行き、丁度現在の桐蔭高校と背中合わせになっていた。桐蔭高校はまだ進学校になっていない時代であったから何も意識もせずに学校生活を送っていたように思う。

当時の在籍は機械課で、今思い起こしてみても学校で果たして何を学んだか、何か役に立ったか、思い出してみてもあまりない。強いてあげるとすれば、製図ができたので図面

と言えば私というくらいになったことかもしれない。

しかし学級担任に橋爪と言う先生がいて、何を教えていた先生なのか今ではさっぱり記憶にないのであるが、授業内容が少し変わっていて、本来の授業をせずにやたらと他の話をした。

内容はいわゆる人生訓で、少し宗教がかかってはいたが、若い私にとっては非常に面白かった。その課外授業の中でよくやられたのが、人生訓のほかにもうひとつ音楽鑑賞があった。普通の授業時間に、レコードと蓄音機を持ってきてみんなに解説を加えながら聞かせてくれた。勿論工業高校には音楽の時間はないし、授業中教室で音楽ばかりやるのではないのだが、そこで聴いた音楽は、私の一生の趣味となったようだ。

その意味で今から考えると、いわゆる芸術と言うものに出会った最初のもので、あれから50年、まあ色々やってきたが、その先生との出会いが全てのもののルーツであったような気がする。

このようにして芸術に目覚めた(?)私は、色んなものに手を出した、まず映画である。当時は映画全盛時代で、和歌山市内にも沢山の映画館があった。築地にはじまり10軒いやそれ以上にあったように思う。そのような時勢、映画鑑賞クラブのようなものも各地にあり、そのひとつに入会して、この作品はどうだ!こうだ!とケンケンガクガクとやったものだ。今の映像クラブと違って、作られた作品は面識のない他人のもの、そこへもってきて各人の好みはバラバラだから遠慮もなにもない、だいたい人間は悪口大好き、無責任に作品をコテンパンにやっつけて楽しんだものだ。

しかし、そのようななかでも人間は成長はするものらしく、今までボサッと見ていたものが、映像が透けて見えてきたと言うか、組み立てが見えてきたと言うか、自分なりになんとか解ってきたように思う。でも当時フランスのヌーヴェルヴァーグが台頭してきた頃で、何かしら難しい作品が続々と出てきたのには面食らったものだ。しかし時代の流れについて行かねばとない頭をふりしぼって何回もその作品を見たものだった。しかし歳をとるとは不思議なもので、昔あれだけ解りにくいと思っていた作品が、60才を過ぎビデオで見ると、不思議と良くわかる作品がある。なかには今をもってしても解らないヤツもあるが、やはり歳はとるものだと改めて認識するときがある。

その他に、やったものとするれば、写真がある。写真はごく一般的な家庭写真で子供の成長とか旅行の記録ばかりであるが、私の変わったところは、とに角、写真の整理が好きで、家中写真ブックだらけになってしまった。

また世の中で言う芸術写真は苦手で、なぜかと言えば、私には、良し悪しの基準がわからない、ひらたくいえば、1位のものとのビリの差が解らないのだ。

そして1位の作品には解説のようなものが付いていて、どこそこが、こう良かったとか解説がされている、本来写真を見てどう感じるかが大切なことで、頭からの先入観の植付けのような解説は不要なものと思っている。とかくこの世、全て解説ブームで、スポーツ、美術、音楽、ニュース等解説だらけ、解説の必要性は認めないわけではないが、少しは黙っているといいたくなる場合がある。

それに比べて同じ写真のジャンルでも、報道写真はすごい、何の理屈もいらない、ただ見ているだけでいい、写真の持っている本来の姿がそこにある。かく言う私も、何かものにしてやろうと車にカメラを積んで随分と長いこと(20年近く)、通勤、その他でチャンスを待ったが、ついにその機会は訪れはしなかった。

今この歳になって、仕事のほかに、三日坊主を含めて本当に色々とやったが、その上に立って、映像クラブ50年、発足の頃に思いをはせると、諸先輩の方々のご苦労は並大抵ではなかったはずだ。

発足当時のアマチュア映像はどんなものだったろう、私の記憶では16ミリフィルムを縦半分に切った8ミリはもう世に登場していたのではなからうか、勿論無声だ、テープ式の録音機が出てくるのはまだ後のような気がする。

映画はもう完全にトーキーの時代になってはいたが、日本映画の初カラー作品は、1951年であるからほぼ50年前だ、このような時代に自分で映像を撮ると言うことは、己が撮りたいと言う意欲のほかに、大変な経済的負担があったのではないか。意地悪い言い方をすれば、金持ちでなければ出来ない趣味、おそらくそうであったらと思う。撮影機、フィルム、現像、編集等それら全てについて、様々なトラブルに遭遇したはずだ。そこいらのサラリーマンが、ちょっとやってみるかと言うように絶対行かなかった筈だ。

それから50年、それらの苦労を知っている人々が、現在の姿を見てなんと言うだろうか、何んでも簡単に出来てしまうこのご時世。我々はもうそれにどっぷりと浸かっているが、50年前このクラブを作った先人達はなんと言うだろう、多分”昔の方が良かった”と言うと思うが、どうだろう。

---

## 映像クラブ五十周年おめでとうございます

藪谷 承吾

入会して一年目の私には分かりかねますが、いろいろ流れがありご苦労が  
おありだったことと思います。

私自身これからも撮影技術を身につけ良い映像を残したいと思っています。  
編集は何とか出来るようになりましたが、まだまだ未熟です。編集テクニックを  
会員の皆さんに教えてもらいながら、さらに良い作品を作っていければと思っ  
ています。クラブへの希望として入会して早く編集を習得するために、いくつか  
ある編集ソフトの編集手順のマニュアルを作ってもらい、編集の手順を撮影し  
映像として残してもらえれば、新しく入会される方にも早く習得できるのではと  
思っています。ここからは映像クラブの会員の一員として頑張れたらと思っています。

クラブの先輩方のご苦労に感謝し、ますますのクラブの発展に期待致します。



## 和歌山映像クラブと私

奥野 敏之



私が和歌山映像クラブに入会させていただいたのは、昭和の末期か平成の初めだったように思います。

実は本当はもう一年早く入会できたはずなのです。私が和歌山映像クラブを知ったのは、当時電気店に配布されていた公開映像祭のパンフレットでした。その作品の中に『野上電鉄』の文字があり(菱田さんの作品です)、鉄道ファンである私は一度覗きに行こうとしていました。

ところがその当日、車の鍵が行方不明になり、たどり着くことが出来ませんでした。今から思えばなつかしい思い出

です。私が初めてビデオに接したのは専門学校時代、安売りのデッキ(確か東芝のβ)でした。夜学に通っていた私はテレビ録画が出来るビデオという機械はあこがれの物だったのです。でもまさか家庭用ビデオカメラがそんなに早く出てくるとは思いませんでした。卒業して就職、職場の上司がすでに持っていたβの大型ビデオカメラ(ファインダーが液晶にすらなっていないやつ)をかついで、職場旅行のカメラマンを買ってでた。もちろん旅行が終わってからも1ヶ月くらい借りたままだったのはいうまでもありません。でもまだまだ高嶺の花。自分で買うことは出来ませんでした、と思いきや、その冬、ソニーから初めて電動6倍ズーム搭載のV50という機種が発売になり、ボーナス全額を持って電気屋さんに行ったのを覚えています。

鉄道、それもローカル私鉄や引込線が好きな私のこと。V50という今から見ればとんでもない画質と、振り回しの権化のような撮影。でももう撮影できない映像は今でも作品の中に登場したりします。編集という言葉を知ったのは、鉄道撮影と同時に始まった職場行事の撮影の中でしょうか。その次のボーナスで買ったED-βデッキに、パチンコで大勝ちして買ったタイトラー。身内用の冗長な作品を作り始めたのがきっかけでした。そう、そのころに入会した和歌山映像クラブ。

まああまりまじめなクラブ員ではありませんでしたね。しょっちゅう物をなくすいい加減な性格(これは今も変わっていません)が災いして、例会の日を忘れるのもしょっちゅう。あのころは高塚先生のお家をお借りして例会を開いていましたが、何度かは違う日にいって前で立ちつくしたこともありました。

クラブにとって少しは役に立つようになってきたかな、と思えるようになったのは、コンピュータ編集を始めてからのように思います。梅田電器を前田会長に紹介してもらい、初めて買った編集用コンピュータ。当時は22Gハードディスクで100万円近くしました。それでもアナログに比べて段違いの精度で編集できるそれに思いつきはまりました。またコンピュータにはまることで、職場でもコンピュータといえは私に先ず相談が来るようになってしまいました。これがいいことだったのか悪いことだったのか判断がつかい兼ねますが、和歌山映像クラブに入会していなかったら、今の私は存在していなかっただろうということだけは言えると思います。

小さい頃から鉄道趣味1本で来た私(初めてしゃべった言葉は「こまま」(特急「こだま」のこと))。音と共に動く映像を撮ることの出来るビデオの世界は一生私から離れることはないと思います。これからハイビジョンなどますます進歩していくこの世界。寝たきり老人になってもビデオ編集が出来るように(そしてその頃にはインターネットを介しての在宅ビデオクラブも可能でしょう)、今はしっかり素材を撮影しておきたいと思っています。

『おじいちゃん、又ビデオ作ってるの?』って、看護婦さんにあきれられる老後が小生の願望です。

## ビデオの楽しみ

南川 陽一

今回の記念誌編集の為に過去の会報を改めて読ませて頂きますと、そこには先人達がそれぞれの時にそれぞれのやり方で精一杯映像創作に楽しんでおられた姿を感じました。

私自身映像への関わりは高校時代のモノクロ写真からです。大学受験の勉強をしなければならぬ時に砂糖の缶で引伸し機を自作し、酢酸の定着液で畳をボロボロにしながら徹夜で写真の焼き付けしたことを思い出します。

写真と並行して動画の方はCANON:814の8ミリフィルムカメラ、SONY:CCD-TR705のHi8ビデオカメラ、それからSONY:VX-1000さらにCANON:XV-2のDVカメラへと変遷してきました。

ビデオには三つの楽しみがあります。第一は撮影する楽しみです。レンズを通して映像化する時に、その構図をどのようにしようかといういろいろ考える楽しみがあります。これは写真の世界でも同じですが写真と違うのは、写真は決定的瞬間にシャッターを押せばよいのですが、ビデオでは決定的瞬間の前からシャッターを押しておかなければならない事です。ビデオカメラマンには環境がどのように変化するか推測する能力、予知能力が必要とされます。その推理が的中した時の喜びは格別です。

次に編集加工の楽しみがあります。撮影した映像は素材であり、料理で言えば市場で買ったままのたまねぎや魚などの材料に過ぎないものです。これをいろいろと加工し、美しいお皿に盛り付けて、気に入った音楽を流し、良い雰囲気テーブルでおいしく食べられるようにするのが編集です。

編集をしてみますと僅か一カットの入れ替えで映像の意味が全く変わってしまう事や、時間の省略の難しさが良く分かります。映像と音と時間を組み合わせ、加工して一つのメッセージを作り上げるビデオ編集の世界は大変奥の深いものです。

第三の楽しみは出来上がった作品を人に見てもらうことです。ところがこれは当事者同士ではともかく、第三者では見せられた方は大変な迷惑です。ということが分かっているながら私もいろいろ迷惑を掛けて来ました。心して注意しなければなりません。やはり映像クラブ内でお互いに見せ合うのが安全です。

ビデオ制作はともすれば自己満足に陥る事があります。趣味の世界ですからそれでも何ら問題はない訳ですが、映像クラブの例会では自分の作品を少しは客観的に眺める事が出来ます。他の人からの一言も自分では気が付かない貴重なアドバイスとなります。

第三者の鑑賞にも堪え得る作品作りには、機材を操作する優れた技術力と、今見えている物が美しいと感じる感性が必要です。

黄金分割という言葉があります。1:1.6の比率で構成されたものは美しく見えるということで、ミロのピナクスやエジプトのピラミッドにその比率が多く使用されているそうです。そこでわれわれがビデオ撮影する時に黄金分割でまとめればよろしいと参考書によく書かれています。

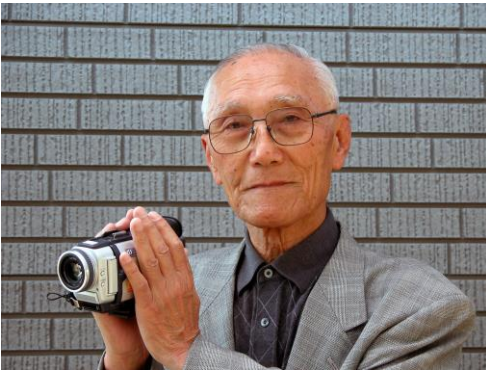
しかし私はそのようなマニュアルから習得した手法を多く覚えているテクニシャンであるよりも、美しいと感じて自然界から切り取った映像が、結果として黄金分割であったという感性の持ち主でありたいと思います。

偶然のきっかけでしたが、この映像クラブに入会させていただきましたことに感謝しています。



# 私 と ビデオ

中嶋 孝



私とビデオカメラとの馴れ初めは10数年前に遡ります。会社を定年退職し、2人の息子が独立して家を出た後、妻と二人暮らしになりましたが、仕事人間で趣味を持っていなかった私は何もやることなく退屈していました。そこへ孫が生まれたので、息子達にビデオカメラを買い与えて孫を撮影させ、送って来たテープを見てひとり悦に入っていました。

そんな時、和歌山市の成人学校でビデオカメラの講習会が行われることを聞き、私も息子のソニー製の8ミリビデオカメラ「CCD-TR55」を借りて参加しました。

講師はソニーから派遣された人で、学科講習の後は、紅葉溪庭園や和歌山城へ撮影実習に出掛けました。成人学校を終了する頃には、写真と違って動きと音のあるビデオの世界にすっかり魅了され、以後妻とツアー旅行に出掛けるときには常にビデオカメラを携行して、添乗員さんに急き立てられながら撮影しています。お陰で現地の風景をゆっくり楽しむ余裕が無く、帰宅後編集するときに改めてじっくり眺めると言う癖がついてしまいました。

そして平成13年(2001年)10月、私のビデオライフに転機をもたらす時がやって来ました。和歌山映像クラブの「8ミリビデオ映像祭」を初めて見た私は、上映された作品の迫力に圧倒され、一も二もなく入会申し込みを済ませました。最初の例会には「何か作品を持って来るように」と前田会長から言いつけられて、正月が明けるのを待ちかねて串本と大島へ出掛け、撮って来た作品に孫娘にアルバイト料500円を支払ってナレーションを入れて貰い、初めての例会に持参しました。

入会后2年間、先輩会員の皆様の作品を見せて頂くことと、自分の作品に寄せられる批評や助言を聞かせて頂くのが楽しみで、例会を欠席したのは風邪で休んだ1回だけ、毎回作品を持参するのを目標に制作に励んでいます。その割には上達しませんが、目標にしていたパソコンを使ってのビデオ編集も、先輩の皆様のご指導で何とか出来るようになり、ビデオの面白さが分かるにつれて、病膏肓に入ってきました。そんな中で、最も強く印象に残っているのは舞鶴への撮影旅行です。

私は太平洋戦争の末期、昭和19年(1944年)10月、19歳で現役兵として徴集されて満州(今の中国東北部)へ渡り、翌年日本の敗戦と共にソ連軍に捕らえられてシベリアの収容所へ送られ、2年余り強制労働に従事しました。夢にまで見た祖国への第一歩を印したのが舞鶴だったことから、この街には特別の思い出がありますが、引き揚げ後一度も訪ねたことがありませんでした。そこで一昨年6月、餘部鉄橋や丹後半島へ撮影に出掛けた帰り、半世紀ぶりに舞鶴へ立ち寄り、昭和63年(1988年)に建設された引揚記念館や復元された平引揚棧橋を見学してビデオに撮り、例会で皆様にご覧頂きました。引き揚げの当事者である私が作ったビデオということで皆様が関心を寄せられ、温かくも厳しい批評や助言を頂きましたので、これを生かしてもう一度作り直してみようと思い、昨年5月再度舞鶴を訪れました。今回は会員の皆様から頂いたアドバイスに従い、妻に撮影を頼んで自分が画面に登場して説明したり、たった1枚残っていた入隊当時の写真や、引き揚げ後ロシアから送られて来た労働証明書と記念メダルを画面に取り入れて、習い始めたアドビプレミア6.5で編集し、「シベリア抑留の軌跡」と題して仕上げました。この作品は例会で幸い好評を得ましたので、和歌山県主催のアマチュアビデオコンクールに出品すると共に、秋の映像祭でも上映して頂きました。私はこの作品はこれで完結と考えていたのですが、思わぬことから更に次の段階へ進むことになりました。



昨年11月、元NHKのカメラマン高野武司先生をお招きして開催された「年度賞コンクール」に提出しましたところ、幸か不幸か先生のお目に止まり、翌日前田会長宛てに「中嶋会員の作品はアマチュアが取り組むには大変大きなテーマです。そこで、こんな風に作ってはどうかという私案を後日送ってあげようと思っていますから、皆で参考にして貰ったらどうでしょう」との電話があったそうです。そして数日後高野先生から「和歌山映像クラブの皆様へ」ということで、「作品の企画・立案にあたって」と題して、「どう作ればわかりやすく、中身の濃い、感動を呼ぶ作品に仕上がるのか」を書いた文書を送って下さいました。

更に加えて、(仮称)「再訪・引き揚げの地舞鶴」構成表(案)として、要素、映像、音声・音楽、コメント、ラップ(時間)と分けて、初めのタイトルからエンドタイトルまで、8項目に分類して具体的にお示し下さいました。その上作品制作に役立てるようにとNHKの資料映像の中から、ソ連参戦・武装解除・引き揚げなどに関する映像を選んで20分ほどのテープにダビングして送って下さいました。

今まで作品の構成など全く考えずにと言うよりも何も知らずに、ただがむしゃらに撮影していた私にとっては、青天の霹靂というか、目からうろこという感じで、最初はどうしたら先生のご厚意にお応えすることが出来るのか、思いつきませんでした。ところが1月の例会の席上、先生から送られたビデオテープを出席者全員で視聴し、先生のコメントや構成表を読んで、「もう一度作品を作り直すべきだ」と言う要望が私に寄せられました。私も内心では「もう一度挑戦しなければならないだろう」と感じていましたので、会員の皆様のご意見に基づいて3度目の舞鶴訪問を果たし、文字通り「三度目の正直」を狙いたいと考えています。

とは申しましても、先生が作られた構成表を見ますと、私が栈橋に立って思い出に浸ったり、岸壁の倉庫群の間を歩いたり、遠くの海を眺めたり、またその間に心境を語ったり、収容所生活の様子を説明したりと、私自身が出演する場面が多く、撮影する人がもう一人必要になります。前田会長が「私が行ってあげようか」とおっしゃってくれましたが、遠くまで同行して頂くわけにも行かず、やむおえず妻を口説き落として、臨時のカメラマンになって貰うことにしました。

いずれにしても私にとっては大きな宿題を頂いてしまいましたので、光栄である反面、今までのようにマイペースで制作するわけにも行かず、正直なところ悩んでいます。この作品には先生から頂いたNHKの資料映像を使わせて頂きますので、著作権の関係でコンクールや映像祭に出品することが出来ません。しかし秋の年度賞審査会に高野先生が来られたときにはお目かけなければならないので、今年最大の目標として取り組みたいと心に期しています。

ところで、私達の「和歌山映像クラブ」は今年創立50周年を迎えます。私は歴史あるクラブの一員として、この時期に在籍出来たことを喜び、先輩方を見習って自らの技能の向上を図りたいと考えています。それと共にクラブの発展を願って、一つの提案をさせて頂きたいと思えます。

「初心者講習会」を受講して入会された新入会員の方は、パソコン編集の習得を目的にしておられる方々が大半だと思います。私もそうでしたが、私の場合は「コンピューター分科会」と称する前田会長のお宅で開かれる夜間の教室で教えて頂き、更に「8ミリビデオサークル」にも入会して、鎌崎会長のお宅にも通ってご指導を受けました。これでは両会長にご負担をお掛けし、教わる方も遠慮があつて誰でも出来ると言うわけには行きません。費用の問題があるかも知れませんが、出来れば夏に行われる「視聴覚教育指導者講習会」のような設備のある会場で、「初心者講習会」のように一斉指導が受けられるようになればと思います。費用は受講者が一部負担しても良いのではないのでしょうか。

## 祝50周年 諸先輩方々のご苦勞とご努力に感謝

鈴木 荘



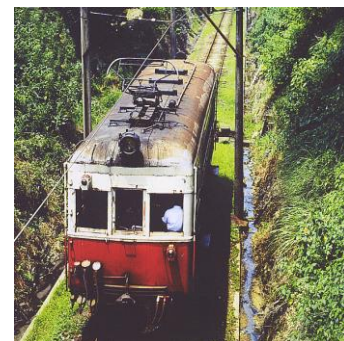
私が初めて映像を撮りだしたのは昭和38、9年頃です。ズームもないカメラと、映写機をセットで購入し、子供の記録を撮りだしたのが始まりです。ところが子供が大きくなり、仕事も忙しくなるにつれ、カメラを手にしなくなりました。その間25年ほど、全く映像のことを忘れていました。

平成5年に会社を定年退職し、時間を持て余す様になり、気になっていた、8ミリフィルムを、整理しようと思い立ちました。押入の奥から、映写機やフィルムを引っ張り出してはみたものの、フィルムはカビだらけ、映写機のベルトは切れている、電球はつかない等、やっどのおもいで修理し使えるようにしました。そしてホームビデオカメラのHi8を購入し、8ミリフィルムをビデオテープに複写して、テレビに映して、家族で楽しんでいました。

ある日、友人からアマチュアが、撮影した映像祭があるので見に行かないかと誘われ、見に行ったのははじまりで、毎年和歌山映像クラブの映像祭を見せて頂いていました。アマチュアでもこの様な、立派な作品が出来るのだと、毎年感動の連続でした。

いまでも当時上映された、作品を思い出します。和歌山県の名所やお祭り風景を撮影した作品や、野上電鉄の廃線の映像等々、印象に残っています。

私もこの様に映像を作品にしたいなあ、と、何時も思っていました、そして映像祭に、行くたびに入会の勧誘を受けましたが、私の持っている様なカメラや機材では、恥ずかしくて、とても入会する気にもなれず、何年か過ぎ去りました。ところが、時代も変わり、ここ数年前から、ビデオカメラはデジタル化され、パソコンが高性能で安くなり、手近なものとなりました。そのうえ安いノンリニア編集のソフトも多く出回り、やっど私でも購入するチャンスが訪れたこともあって、平成15年にクラブに入会させて頂きました。



在りし日の野上電鉄モハ20

1年生で撮影や編集のこと等、とんと分からない私でしたが、クラブの諸先輩方々から、撮影の仕方や、編集のこつ等のご指導を頂く事が出来、作品らしきものが出来る様になったのは、入会のお陰だと感謝しています。

今すこし思うことは、この頃はノンリニア編集が主流でパソコンなしでは、不可能な時代になっています、撮影技術は勿論のことですが、パソコン編集の技術指導も、クラブとして充実して行かなくてはいけないのではと思います。これから新しく入会される方々は、特にパソコン編集の仕方を学びたく思っているのではないのでしょうか。

入会して、はや1年経ちました。この1年間は毎月の例会が楽しみで、あつと言う間の1年でした、この様な楽しい時間を過ごさせて頂けるのも、50年もの永い間、諸先輩方々が努力を重ね築いて頂いた賜と深く感謝申し上げる次第です。

1年生の若輩者ですが、クラブの発展のため微力ながら努力したいと思います。

# 入賞作品記録

No.	コンクール名	年度	賞	受賞者名	作 品 名	上映時間	記 事
和歌山映像クラブ 生馬賞コンクール(金賞のみ)					[和歌山映像クラブ主催]		
001	生馬賞コンクール	S48	生馬賞	吉方 徳一	(第一回)		フィルム
002	生馬賞コンクール	S49	生馬賞	金谷 勝之	モンマルトルの画家たち		フィルム
003	生馬賞コンクール	S50	生馬賞	武本 弘			フィルム
004	生馬賞コンクール	S51	生馬賞	萩野 重三			フィルム
005	生馬賞コンクール	S52	生馬賞	本谷 惣山			フィルム
006	生馬賞コンクール	S53	生馬賞	田中 美延			フィルム
007	生馬賞コンクール	S54	生馬賞	鎌田 斌			フィルム
008	生馬賞コンクール	S55	生馬賞	岩橋 盛雄			フィルム
009	生馬賞コンクール	S56	生馬賞	千田 一郎			フィルム
010	生馬賞コンクール	S57	生馬賞	井崎 梁次			フィルム
011	生馬賞コンクール	S58	生馬賞	高塚 修			フィルム
012	生馬賞コンクール	S59	生馬賞	高垣 忠雄			フィルム
013	生馬賞コンクール	S60	生馬賞	該当なし	(生馬先生ご逝去による)		
014	生馬賞コンクール	S61	生馬賞	武本 弘	恋	3:50	フィルム
015	生馬賞コンクール	S62	生馬賞	中野 幸雄	串柿の里	8:30	フィルム
016	生馬賞コンクール	S63	生馬賞	前田 幸男	明日香・秋日	15:30	フィルム
017	生馬賞コンクール	H01	生馬賞	武本 弘	秋の詩	7:00	フィルム
018	生馬賞コンクール	H02	生馬賞	武本 弘	公園の詩	18:00	フィルム
019	生馬賞コンクール	H03	生馬賞	高塚 修	イタリアの旅 Part4	25:00	ビデオ
020	生馬賞コンクール	H04	生馬賞	前田 幸男	木の里、紙の里	15:00	ビデオ
021	生馬賞コンクール	H05	生馬賞	菱田 公造	春です 花です 桜だよ	8:00	ビデオ
022	生馬賞コンクール	H06	生馬賞	菱田 公造	その後の日方駅舎	10:00	ビデオ
023	生馬賞コンクール	H07	生馬賞	寒川 泰秀	庭に来た鳥たち	8:00	ビデオ
024	生馬賞コンクール	H08	生馬賞	奥野 敏之	ぼくがビデオを作るわけ	4:30	ビデオ
025	生馬賞コンクール	H09	生馬賞	高塚 修	ベネチアの一日	19:25	ビデオ
026	生馬賞コンクール	H10	生馬賞	岡崎 譲	タイの印象	10:30	ビデオ
和歌山映像クラブ 知事賞コンクール(金賞のみ)					[和歌山映像クラブ主催]		
027	知事賞コンクール	S53	知事賞	吉方 徳一			
028	知事賞コンクール	S54	知事賞	武本 弘			
029	知事賞コンクール	S55	知事賞	橋爪 歳和			
030	知事賞コンクール	S56	知事賞	関 久	香煙	14:50	フィルム
031	知事賞コンクール	S57	知事賞	中野 幸雄			
032	知事賞コンクール	S58	知事賞	関 久	もう一つの雛の祭り	15:00	フィルム
033	知事賞コンクール	S59	知事賞	八木 国蔵			
034	知事賞コンクール	S60	知事賞	中島 広一			
035	知事賞コンクール	S61	知事賞	中野 幸雄	吉野の桜	3:50	フィルム
036	知事賞コンクール	S62	知事賞	高塚 修	クスコ	14:00	フィルム
037	知事賞コンクール	S63	知事賞	前田 幸男	倉敷・美観地区	11:00	フィルム
038	知事賞コンクール	H01	知事賞	八木 国蔵	奈良シルクロード博	12:45	フィルム
039	知事賞コンクール	H02	知事賞	高塚 修	陶芸教室で創作	9:00	ビデオ
040	知事賞コンクール	H03	知事賞	前田 幸男	堺を歩く	14:00	ビデオ
041	知事賞コンクール	H04	知事賞	前田 幸男	街・緑・ファンタジー	12:00	ビデオ
042	知事賞コンクール	H05	知事賞	菱田 公造	東大寺と土壁の小路	9:00	ビデオ
043	知事賞コンクール	H06	知事賞	塩崎 博	思い出のローカル電車	16:00	ビデオ
044	知事賞コンクール	H07	知事賞	森下 幸生	花菖蒲園	8:00	ビデオ
045	知事賞コンクール	H08	知事賞	塩崎 博	語り継ごう和歌山大空襲	20:00	ビデオ
046	知事賞コンクール	H09	知事賞	菱田 公造	あれから三年たちました	15:00	ビデオ
047	知事賞コンクール	H10	知事賞	月山 清	四郷の串柿	7:30	フィルム

# 入賞作品記録

No.	コンクール名	年度	賞	受賞者名	作 品 名	上映時間	記 事
<b>和歌山映像クラブ 市長賞コンクール(金賞のみ)</b>					[和歌山映像クラブ主催]		
048	市長賞コンクール	S49	市長賞	藤戸 輝一	共同作品三面マルチ		
049	市長賞コンクール	S50	市長賞	良井 佑次			
050	市長賞コンクール	S51	市長賞	高橋 勇			
051	市長賞コンクール	S52	市長賞	千田 一郎			
052	市長賞コンクール	S53	市長賞	萩野 重三			
053	市長賞コンクール	S54	市長賞	八木 国蔵			
054	市長賞コンクール	S55	市長賞	塚本 守治			
055	市長賞コンクール	S56	市長賞	武本 弘			
056	市長賞コンクール	S57	市長賞	橋爪 歳和			
057	市長賞コンクール	S58	市長賞	打井 保			
058	市長賞コンクール	S59	市長賞	田中 美延			
059	市長賞コンクール	S60	市長賞	千田 一郎			
060	市長賞コンクール	S61	市長賞	武本 弘	水の楽章	8:00	
061	市長賞コンクール	S62	市長賞	中野 幸雄	秋のささやき	7:15	
062	市長賞コンクール	S63	市長賞	八木 国蔵	潮騒	5:00	
063	市長賞コンクール	H01	市長賞	田中 美延	踊り子の歩いた道	21:00	
064	市長賞コンクール	H02	市長賞	橋爪 歳和	おじいさんの猪退治	6:00	
065	市長賞コンクール	H03	市長賞	千田 一郎	二つの橋	9:00	ビデオ
066	市長賞コンクール	H04	市長賞	菱田 公造	ローカル鉄道・野上電鉄	9:00	ビデオ
067	市長賞コンクール	H05	市長賞	橋爪 歳和	桃太郎	10:00	ビデオ
068	市長賞コンクール	H06	市長賞	関 久	梓川・晩春のアルバム	14:00	ビデオ
069	市長賞コンクール	H07	市長賞	寒川 泰秀	がんばれ・みちる鼓笛隊	12:00	ビデオ
070	市長賞コンクール	H08	市長賞	前田 幸男	魅せられて倉敷	12:00	ビデオ
071	市長賞コンクール	H09	市長賞	菱田 公造	大和路ひとり	4:55	ビデオ
072	市長賞コンクール	H10	市長賞	菱田 公造	紫陽花と願成寺	12:00	ビデオ
<b>和歌山映像クラブ 年度賞コンクール(除:佳作)</b>					[和歌山映像クラブ主催]		
073	年度賞コンクール	H11	生馬賞	塩崎 博	根来寺を訪ねて	14:50	ビデオ
074	年度賞コンクール	H11	知事賞	菱田 公造	好きです海南・川端通り	13:30	ビデオ
075	年度賞コンクール	H11	市長賞	奥野 敏之	時空を超えて	9:20	ビデオ
076	年度賞コンクール	H12	生馬賞	塩崎 博	興国寺・天狗まつり	15:34	ビデオ
077	年度賞コンクール	H12	知事賞	関 久	懐かしき天津へ	15:00	ビデオ
078	年度賞コンクール	H12	市長賞	奥野 敏之	ある町オコシ・トロコ電車の・・・	10:00	ビデオ
079	年度賞コンクール	H13	生馬賞	岡崎 譲	霊峰・高野山	12:20	ビデオ
080	年度賞コンクール	H13	知事賞	菱田 公造	思い出のあの日・あの時	12:00	ビデオ
081	年度賞コンクール	H13	市長賞	前田 幸男	美瑛・前田真三の世界	8:00	ビデオ
082	年度賞コンクール	H14	生馬賞	奥野 敏之	三岐鉄道	12:00	ビデオ
083	年度賞コンクール	H14	知事賞	南川 陽一	富士・箱根の旅	15:00	ビデオ
084	年度賞コンクール	H14	市長賞	関 久	雪往きて	14:50	ビデオ
085	年度賞コンクール	H15	生馬賞	前田 幸男	ぐるっと徳島・海峡&溪谷	13:50	ビデオ
086	年度賞コンクール	H15	知事賞	鈴木 荘	光川亭仙馬の足跡を訪ねて	13:00	ビデオ
087	年度賞コンクール	H15	市長賞	南川 陽一	秋の火打山・妙高縦走	14:00	ビデオ
<b>県アマチュア映像コンクール</b>					[和歌山県映像連盟主催]		
088	和歌山県8ミリコンクール	S59	知事賞	田中 美延	山びこの詩		
089	和歌山県8ミリコンクール	S59	県視聴覚賞	八木 国蔵	春と出会いの・		
090	和歌山県8ミリコンクール	S59	県映像連賞	中島 広一	磯の香り		
091	和歌山県8ミリコンクール	S60	県議長賞	高垣 忠雄	太秦映画村		
092	和歌山県8ミリコンクール	S60	県視聴覚賞	井崎 梁次	国立公園・讚岐		
093	和歌山県8ミリコンクール	S60	県視聴覚賞	前田 幸男	絵になる街横浜		
094	和歌山県8ミリコンクール	S60	県視聴覚賞	小倉志津子	国宝・姫路城		
095	和歌山県8ミリコンクール	S60	県視聴覚賞	楠本 弘一	遠いみち		

## 入賞作品記録

No.	コンクール名	年度	賞	受賞者名	作 品 名	上映時間	記 事
096	和歌山県8ミリコンクール	S60	県映像連賞	月山 清	笑い祭		
097	和歌山県8ミリコンクール	S62	知事賞	関 久	雲雀山から	13:00	
098	和歌山県8ミリコンクール	S62	県議長賞	月山 清	飛べヒコーキ	11:00	
099	和歌山県8ミリコンクール	S62	県教委賞	千田 一郎	流しびな	9:00	
100	和歌山県8ミリコンクール	S62	県視聴覚賞	前田 幸男	ズームイン浅草	9:30	
101	和歌山県8ミリコンクール	S63	県教委賞	八木 国蔵	串柿の里	12:00	
102	和歌山県8ミリコンクール	H01	知事賞	武本 弘	秋の詩	7:00	第19回
103	和歌山県8ミリコンクール	H01	県議長賞	月山 清	ジェットエンジン	10:00	
104	和歌山県8ミリコンクール	H01	県視聴覚賞	八木 国蔵			
105	和歌山県8ミリコンクール	H01	県視聴覚賞	前田 幸男	堺を歩く	14:00	
106	和歌山県8ミリコンクール	H01	県視聴覚賞	小野 誠之	真夏のギリシャ	13:05	フィルム
107	和歌山県8ミリコンクール	H02	県議長賞	前田 幸男	若葉に埋もれたけやき大通り	9:00	第20回
108	和歌山県8ミリコンクール	H02	県視聴覚賞	月山 清			
109	和歌山県8ミリコンクール	H02	県視聴覚賞	武本 弘			
110	和歌山県8ミリコンクール	H02	県視聴覚賞	小野 誠之	パリのロマン	14:46	フィルム
111	和歌山県8ミリコンクール	H03	知事賞	寒川 泰秀	桃		第21回
112	和歌山県8ミリコンクール	H03	県視聴覚賞	月山 清			
113	和歌山県8ミリコンクール	H03	県視聴覚賞	前田 幸男	道南の一日	10:30	
114	和歌山県8ミリコンクール	H03	県視聴覚賞	小野 誠之	花火	8:40	フィルム
115	和歌山県8ミリコンクール	H03	県視聴覚賞	菱田 公造			
116	県アマチュア映像コンクール	H04	県教委賞	前田 幸男	木の里、紙の里	15:00	第22回
117	県アマチュア映像コンクール	H04	県視聴覚賞	田中 美延	保津川を下りて		
118	県アマチュア映像コンクール	H04	県視聴覚賞	寒川 泰秀	伊太祈曾神社		
119	県アマチュア映像コンクール	H04	県視聴覚賞	菱田 公造	ローカル線野上電鉄	9:00	
120	県アマチュア映像コンクール	H04	県視聴覚賞	森下 幸生	モーターボートオブチュン88		
121	県アマチュア映像コンクール	H05	知事賞	寒川 泰秀	貴志川ゲンジボタル	11:00	第23回
122	県アマチュア映像コンクール	H05	県議長賞	塩崎 博	ねんね根来の子守唄	6:00	
123	県アマチュア映像コンクール	H05	県教委賞	前田 幸男	日中友好提携10周年	20:00	
124	県アマチュア映像コンクール	H05	県視聴覚賞	菱田 公造	奈良part-1	5:00	
125	県アマチュア映像コンクール	H05	県視聴覚賞	市川 賢三	再会		
126	県アマチュア映像コンクール	H05	県視聴覚賞	小野 誠之	中国の旅 始皇帝の偉業	6:38	フィルム
127	県アマチュア映像コンクール	H05	県映像連賞	月山 清	大阪・天満宮船渡御		
128	県アマチュア映像コンクール	H06	県議長賞	前田 幸男	くまの探訪	14:00	第24回
129	県アマチュア映像コンクール	H06	県教委賞	塩崎 博	思い出ローカル電車野上電鉄	15:00	
130	県アマチュア映像コンクール	H06	県視聴覚賞	菱田 公造	哀愁・日方駅舎	10:00	
131	県アマチュア映像コンクール	H06	県視聴覚賞	関 久	秋の談山にて	13:00	
132	県アマチュア映像コンクール	H06	県視聴覚賞	橋爪 歳和	おじいさんの猪退治	6:00	
133	県アマチュア映像コンクール	H06	県映像連賞	八木 博	紀ノ川ファンタジー		
134	県アマチュア映像コンクール	H07	知事賞	塩崎 博	最古参電車ラストラン	14:00	第25回
135	県アマチュア映像コンクール	H07	県議長賞	関 久	梓川～晩春のアルバム	14:00	
136	県アマチュア映像コンクール	H07	県視聴覚賞	奥野 敏之	野上電鉄残照	9:00	
137	県アマチュア映像コンクール	H07	県視聴覚賞	菱田 公造	駅舎と桜花と	8:00	
138	県アマチュア映像コンクール	H07	県視聴覚賞	前田 幸男	点描・十勝～日高	15:00	
139	県アマチュア映像コンクール	H08	知事賞	前田 幸男	素顔の笠岡諸島	11:00	第26回
140	県アマチュア映像コンクール	H08	県議長賞	菱田 公造	藤白神社巡節	9:00	
141	県アマチュア映像コンクール	H08	県視聴覚賞	塩崎 博	和歌山城早春譜	11:00	
142	県アマチュア映像コンクール	H08	県映像連賞	小野 誠之	五月の梓川	9:33	フィルム
143	県アマチュア映像コンクール	H08	県映像連賞	奥野 敏之	岡山撮影旅行	14:00	
144	県アマチュア映像コンクール	H09	知事賞	塩崎 博	白壁の街・倉敷	13:00	第27回
145	県アマチュア映像コンクール	H09	県教委賞	前田 幸男	花しょうぶ物語	14:00	
146	県アマチュア映像コンクール	H09	県視聴覚賞	奥野 敏之	ようこそ和歌山へ	8:00	
147	県アマチュア映像コンクール	H09	県視聴覚賞	菱田 公造	あれから3年たちました	15:00	

# 入賞作品記録

No.	コンクール名	年度	賞	受賞者名	作品名	上映時間	記事
148	県アマチュア映像コンクール	H09	県視聴覚賞	八木 博	晩秋		
149	県アマチュア映像コンクール	H10	知事賞	塩崎 博	和歌山城を訪ねて	14:30	第28回
150	県アマチュア映像コンクール	H10	県議長賞	前田 幸男	文化財めぐり	14:00	
151	県アマチュア映像コンクール	H10	県教委賞	菱田 公造	紫陽花と願成寺	12:00	
152	県アマチュア映像コンクール	H10	県視聴覚賞	月山 清	四郷の串柿		
153	県アマチュア映像コンクール	H10	県視聴覚賞	岡崎 譲	タイの印象	10:30	
154	県アマチュア映像コンクール	H10	県視聴覚賞	奥野 敏之	おみかんの旅	10:00	
155	県アマチュア映像コンクール	H10	県映像連賞	小野 誠之	秋の生石高原	6:20	フィルム
156	県アマチュア映像コンクール	H10	県映像連賞	市川 賢三	珍客の子育てと巣立ち	15:00	
157	県アマチュア映像コンクール	H10	県映像連賞	楠山 彰一	花嫁衣裳		
158	県アマチュア映像コンクール	H11	知事賞	前田 幸男	二十四の瞳を追って	13:00	第29回
159	県アマチュア映像コンクール	H11	県教委賞	塩崎 博	根来寺を訪ねて	14:50	
160	県アマチュア映像コンクール	H11	県視聴覚賞	菱田 公造	好きです海南・川端通り	14:30	
161	県アマチュア映像コンクール	H11	県視聴覚賞	奥野 敏之	時空を超えてin佐渡	9:20	
162	県アマチュア映像コンクール	H11	県映像連賞	岡崎 譲	ネパール	15:50	
163	県アマチュア映像コンクール	H11	県映像連賞	八木 博	ビデオカメラマン9人の生態	13:10	
164	県アマチュア映像コンクール	H12	知事賞	塩崎 博	紀州・和歌浦「天満宮」	15:00	第30回
165	県アマチュア映像コンクール	H12	県議長賞	前田 幸男	春遠からじ	12:50	
166	県アマチュア映像コンクール	H12	県映像連賞	奥野 敏之	坑内電車	15:00	
167	県アマチュア映像コンクール	H12	県映像連賞	岡崎 譲	蓮の一生	15:00	
168	県アマチュア映像コンクール	H13	知事賞	塩崎 博	雲雀山・得生寺	14:50	第31回
169	県アマチュア映像コンクール	H13	県視聴覚賞	関 久	天津への道	15:00	
170	県アマチュア映像コンクール	H13	県視聴覚賞	前田 幸男	京の社寺から	14:25	
171	県アマチュア映像コンクール	H14	知事賞	岡崎 譲	紀伊風土記の丘	14:30	第32回
172	県アマチュア映像コンクール	H14	県議長賞	前田 幸男	紙遊苑・紙漉体験	10:00	
173	県アマチュア映像コンクール	H14	県視聴覚賞	奥野 敏之	温山荘・穴めぐり	6:00	
174	県アマチュア映像コンクール	H14	県視聴覚賞	中嶋 孝	加太春日神社ゑび祭	13:00	
175	県アマチュア映像コンクール	H14	県視聴覚賞	菱田 公造	熊野古道・かいなん	14:30	
176	県アマチュア映像コンクール	H15	知事賞	岡崎 譲	かくばん祭	14:00	第33回
177	県アマチュア映像コンクール	H15	県視聴覚賞	鈴木 荘	光川亭仙馬の足跡を訪ねて	13:00	
178	県アマチュア映像コンクール	H15	県視聴覚賞	中嶋 孝	シベリア抑留の軌跡	13:50	
179	県アマチュア映像コンクール	H15	県視聴覚賞	南川 陽一	湊沢65歳の青春	14:30	
<b>県総会親睦撮影会</b>					[和歌山県映像連盟主催]		
180	県総会親睦撮影会	S61	かつらぎ町長賞	鎌田 斌	四郷の串柿	15:00	紀ノ川担当
181	県総会親睦撮影会	S61	かつらぎ農協賞	八木 国蔵	串柿の里	12:00	
182	県総会親睦撮影会	S61	紀ノ川シネクラブ賞	中野 幸雄	串柿の里	8:30	
183	県総会親睦撮影会	S61	紀ノ川シネクラブ賞	月山 清	四郷串柿		
184	県総会親睦撮影会	S62	桃山町長賞	鎌田 斌	桃の咲く頃	15:36	打田担当
185	県総会親睦撮影会	S62	桃山町議長賞	八木 国蔵	桃源郷	8:30	
186	県総会親睦撮影会	S63	県総会親睦撮影会実施せず				和歌山担当
187	県総会親睦撮影会	H01	地場産業つり竿と隅田神社祭撮影会(10/15)を実施したが結果不明				紀ノ川担当
188	県総会親睦撮影会	H02	県総会親睦撮影会実施せず				打田担当
189	県総会親睦撮影会	H03	県総会親睦撮影会実施せず				和歌山担当
190	県総会親睦撮影会	H04	県映像連賞	月山 清	大阪天満宮船渡御	8:00	紀ノ川担当
191	県総会親睦撮影会	H05	打田8ミリ会長賞	高塚 修	sky遊々ハングライダー	13:00	打田担当
192	県総会親睦撮影会	H05	自然遺跡会長賞	前田 幸男	打田の空に舞う	12:00	
193	県総会親睦撮影会	H06	ビデオ制作研究会実施で撮影会実施せず				和歌山担当
194	県総会親睦撮影会	H07	優良賞	前田 幸男	ふるさと農林業まつり	7:30	紀ノ川担当
195	県総会親睦撮影会	H07	佳作	市川 賢三	ふるさと農林業まつり	11:30	
196	県総会親睦撮影会	H07	佳作	塩崎 博	晩秋の里・大塔村	12:00	
197	県総会親睦撮影会	H08	会場・犬鳴山『不動口館』で8/1撮影会が行われたが結果不明				打田担当

## 入賞作品記録

No.	コンクール名	年度	賞	受賞者名	作 品 名	上映時間	記 事
198	県総会親睦撮影会	H09	佳作	市川 賢三	和歌山商工祭(和歌祭)		和歌山担当
199	県総会親睦撮影会	H09	佳作	奥野 敏之	和歌山商工祭(和歌祭)	13:00	
200	県総会親睦撮影会	H09	佳作	塩崎 博	和歌山商工祭(和歌祭)	15:00	
201	県総会親睦撮影会	H09	佳作	前田 幸男	和歌山商工祭(和歌祭)	12:00	
202	県総会親睦撮影会	H10	金賞	塩崎 博	ふるさと民俗芸能大会	12:30	紀ノ川担当
203	県総会親睦撮影会	H10	佳作	柚木 正義	ふるさと民俗芸能大会	15:00	
204	県総会親睦撮影会	H11	最優秀賞	岡崎 譲	興国寺の盆供養	15:00	打田担当
205	県総会親睦撮影会	H11	優秀賞	塩崎 博	興国寺の火まつり	15:00	
206	県総会親睦撮影会	H11	佳作	市川 賢三	興国寺の火まつり	14:00	
207	県総会親睦撮影会	H11	佳作	柚木 正義	紀州由良開山の火祭り	15:00	
208	県総会親睦撮影会	H12	銀賞	塩崎 博	木の本の獅子舞	15:00	和歌山担当
209	県総会親睦撮影会	H12	佳作	市川 賢三	木の本の獅子舞		
210	県総会親睦撮影会	H12	佳作	前田 幸男	これが木本八幡例大祭	11:00	
211	県総会親睦撮影会	H13	白浜議長賞	塩崎 博	白浜「海人祭」	14:00	紀南担当
212	県総会親睦撮影会	H14	金賞	岡崎 譲	青葉祭	15:00	紀ノ川担当
213	県総会親睦撮影会	H14	銀賞	南川 陽一	青葉祭	12:45	
214	県総会親睦撮影会	H14	佳作	中谷 保好	青葉祭	9:15	
215	県総会親睦撮影会	H15	銀賞	岡崎 譲	獅子舞・神楽大集合	15:00	打田担当
216							
217							
218							
219							
220							
221							
222							
223							



生馬賞

知事賞

市長賞



映像祭看板

## 和歌山映像クラブ創立50年 在籍記録

No.	氏名掲載 資料最終年度	氏 名	住 所 (氏名掲載資料年度当時)
001	S51	青木 成行	
002	H14	青山昭七郎	
003	S29	秋山	
004	S56	浅井 貞子	
005	S46	阿部 康男	
006	H15	網野 博文	
007	H08	家崎 龍男	
008	S60	伊織 正造	
009	S49	井口 岳久	
010	S56	池原 俊三	
011	S60	生馬 茂	
012	S62	井崎 梁次	
013	S47	石橋 武夫	
014	H13	市川 賢三	
015	S29	稲葉	
016	S36	井上 喜雄	
017	H12	今西 武雄	
018	H01	岩尾 徹	
019	現役	岩崎 好宏	
020	H11	岩橋 盛雄	
021	S60	上野 嘉一	
022	S58	打井 保	
023	S46	打越 信一	
024	現役	榎坂 忠夫	
025	H15	大江 宗次	
026	H14	大瀬 賢司	
027	S54	太田 富一	
028	S47	大野 友慶	
029	S46	大前 繁雄	
030	S43	岡崎 昌泰	
031	現役	岡崎 讓	
032	S47	岡田 脩克	
033	S56	岡田 義明	
034	S47	岡本 義雄	
035	現役	小川 武	
036	S29	奥野	
037	現役	奥野 敏之	
038	S60	小倉志津子	
039	現役	小野 誠之	
040	S46	梶原 隆	
041	H08	梶原 文隆	
042	S52	梶原 政彦	
043	H08	楫本 良雄	
044	H09	風神 仁	
045	S56	金谷 栄幸	
046	S55	金谷 勝之	
047	S62	鎌田 斌	
048	S54	亀井 保	
049	S55	川崎 尚	
050	S36	川崎 弘	



## 和歌山映像クラブ創立50年 在籍記録

No.	氏名掲載 資料最終年度	氏 名	住 所 (氏名掲載資料年度当時)
051	S46	貴志 尚弘	
052	S50	岸本 健二	
053	現役	吉方 徳一	
054	H16	木下 文治	
055	S29	木村	
056	S29	客殿	
057	S54	九鬼 育子	
058	S62	楠本 弘一	
059	S46	楠本 竜	
060	H14	楠山 彰一	
061	S60	国友 安郎	
062	S29	栗山	
063	S29	畔柳	
064	現役	桑野 強	
065	H11	幸前 昭二	
066	S29	小坂	
067	S44	小寺 昌夫	
068	S51	小林 和男	
069	S56	小林 正一	
070	S55	小林 光治	
071	現役	坂部 隆夫	
072	H14	坂本 一弘	
073	S52	坂本 隆定	
074	H01	佐藤 六郎	
075	S51	山東 隆雄	
076	現役	塩崎 博	
077	S60	志波知重子	
078	H08	芝 義弘	
079	S52	芝崎 嘉夫	
080	S46	島 友介	
081	H09	島村 安彦	
082	S36	神人 澄	
083	S53	杉本 晴美	
084	現役	鈴木 荘	
085	S43	鈴木 克次	
086	S46	鈴木 嘉三	
087	H15	関 久	
088	H15	千田 一郎	
089	H15	寒川 泰秀	
090	H14	高垣 忠雄	
091	S53	高木 正夫	
092	現役	高塚 修	
093	S52	高橋 勇	
094	S45	田上 浩	
095	現役	武田 雅治	
096	H03	武本 弘	
097	S52	立石 幹夫	
098	S52	田中 正男	
099	現役	田中 美延	
100	S47	田辺 太郎	

## 和歌山映像クラブ創立50年 在籍記録

No.	氏名掲載 資料最終年度	氏 名	住 所 (氏名掲載資料年度当時)
101	S36	谷口 和男	
102	H05	谷口 修治	
103	S44	谷田 収	
104	S53	谷水 隆一	
105	S47	谷本 邦夫	
106	S43	田上 浩	
107	S52	田端 丈夫	
108	S55	田村 禎男	
109	S29	田谷	
110	S43	壇上 昌良	
111	H11	塚本 守治	
112	H15	月山 清	
113	H13	辻 喜造	
114	現役	辻本 毅	
115	S52	洞口 松三	
116	現役	道本 守道	
117	H06	土岐 良春	
118	H15	富田 豊	
119	S51	富永 健三	
120	S43	富永 竜男	
121	S54	中島 郭介	
122	H02	中島 廣一	
123	現役	中嶋 孝	
124	S48	中島 雅明	
125	現役	中谷 保好	
126	H09	中野 幸雄	
127	S55	中原 孝	
128	S53	中村 雅行	
129	S36	中村 好伸	
130	S36	成川 誠義	
131	S36	成見 辰男	
132	S36	牲川 基広	
133	S36	西尾 義輝	
134	S29	西峰	
135	S29	西脇	
136	S56	萩野 重三	
137	S56	橋爪 暎二	
138	H11	橋爪 歳和	
139	S47	橋本 弘	
140	S58	畑 晃	
141	S56	羽山 京子	
142	S52	浜口 松市	
143	S29	浜野	
144	S52	原田 守量	
145	S48	原田 好章	
146	S47	坂東 行雄	
147	S58	菱川 和夫	
148	現役	菱田 公造	
149	H09	兵谷 廣	
150	S48	平岩 勝	

## 和歌山映像クラブ創立50年 在籍記録

No.	氏名掲載 資料最終年度	氏 名	住 所 (氏名掲載資料年度当時)
151	S54	平松 章良	
152	H08	平山 邦次	
153	S55	福田 正夫	
154	S56	藤沢 元雄	
155	S56	藤戸 輝一	
156	S52	堀 禎宏	
157	S55	堀津 雅一	
158	H03	本谷 惣山	
159	S56	本谷 進作	
160	S55	前田 秀夫	
161	S46	前田 三重	
162	現役	前田 幸男	
163	S46	松村 定家	
164	現役	松村 庭華	
165	H08	松本 清和	
166	S56	松本 佳子	
167	現役	西端 通男	
168	S29	溝口	
169	S49	南方 宏文	
170	現役	南川 陽一	
171	H09	湊 一男	
172	H02	南出 陽一	
173	S62	宮崎 章	
174	S49	宮崎ときゑ	
175	現役	宮原 昌弘	
176	S36	村上 寅雄	
177	S62	森 和己	
178	H07	森下 幸生	
179	S52	森田 正芳	
180	H15	八木 国蔵	
181	現役	八木 博	
182	S54	保田 幸雄	
183	S46	藪 和男	
184	現役	藪谷 承吾	
185	H08	山口 政春	
186	現役	山西 康友	
187	S51	山本才一郎	
188	S53	湯浅 宗次	
189	現役	柚木 正義	
190	S55	良井 佑次	
191	S43	若林 道夫	
192	S46	和田 保	
193	S54	渡辺 一志	
194	H09	和中美喜夫	
195	H09	和中 光次	

お断り: 1. この名簿は現存する会報の記録や名簿から作成いたしました。どうしても見つからない年度がありました。

そのため記載漏れの方々がおられるかも知れません。誠に申し訳御座いませんがお許し願います。

2. クラブ名は「ナクサ和歌山支部」「和歌山シネクラブ」「和歌山8ミリクラブ」「和歌山映像クラブ」と変化して来ました。
3. 氏名掲載資料最終年度は、その方の名前が載っている最も新しい資料の年度です。
4. 住所や地名は氏名掲載資料最終年度当時のままです。現状とは異なる場合があります。

## 和歌山映像クラブ会員名簿

No.	氏名	住所	入会年	カメラ	三脚	編集ソフト
001	岩崎 好宏		H16	Panasonic:NV-GS100	Velbon:PH-268R	Adobe:Premiere Pro
002	榎坂 忠夫		S50			
003	岡崎 譲		H10	Canon:XV2	Velbon:PH-268	Canopus:DV-StormRT
004	小川 武		H12			
005	奥野 敏之		H06	SONY:DSR-PD150	Daiwa:VT-551	MAC:EDIT-DV2.0
006	小野 誠之		S61	FUJI:SINGLE8 Z800	SLIK:GOODMAN ACE	FILM編集(GOTO:RM-8008)
007	吉方 徳一		S30	FUJI:ZX550		FILM編集(GOTO:RM-8008)
008	桑野 強		H14	SONY:DCR-TRV900	Daiwa:VT-711	Canopus:DVREX-M1
009	坂部 隆夫		H13			
010	塩崎 博		H05	Canon:XV2	Daiwa:VT-523	Canopus:DV-StormRT
011	鈴木 荘		H15	SONY:DCR-TRV50	SLIK:700G-V	Ulead:VideoStudio7
012	高塚 修		S33	SONY:DCR-TRV900	SONY:VCF-HCA3	リニア編集(業務用)
013	武田 雅治		H16	Panasonic:NV-GS100	Daiwa:VT-523	Adobe:Premiere 6.0
014	田中 美延		S48			
015	辻本 毅		H10			
016	道本 守道		H16			
017	中嶋 孝		H14	SONY:DCR-TRV30	Daiwa:VT-551	Adobe:Premiere 6.5
018	中谷 保好		H14	—	—	—
019	菱田 公造		H02	Canon:XL1	Libec:30	Adobe:Premiere 6.0
020	前田 幸男		S56	Panasonic:NV-MX2000	SLIK:512F	Adobe:Premiere 5.1
021	松村 庭華		H14			
022	西端 通男		H15			
023	南川 陽一		H14	Canon:XV2	Daiwa:VT-711	Canopus:DV-StormRT
024	宮原 昌弘		H16	Panasonic:NV-MX2500	Panasonic:VZ-CTR1	リニア編集(HR-S9800&DT-DR3000)
025	八木 博		H05			
026	藪谷 承吾		H15	SHARP:VL-MR1	Velbon:CX-440	Ulead:VideoStudio7
027	山西 康友		S34			
028	柚木 正義		H09	Panasonic:NV-GS70	J-ONE:JT-12	リニア編集(SONY:XV-J550)

# 和歌山映像クラブ会則

2002.12.15 改定

1. 名 称 本会は、『和歌山映像クラブ』と称する。
2. 事務局 本会の事務局は、会長宅または事務局長宅におく。
3. 目 的 本会は、アマチュア映像の愛好者が集まり、制作に関する技術の向上と、会員相互の親睦を図る。
4. 構 成 本会は、アマチュア映像の愛好者で構成し、性別・年齢は問わない。
5. 事 業 本会は、目的達成のため次の事業を行う。
  - ①毎月1回、例会を開催し、会報を発行する。(12月は総会)
  - ②臨時、撮影会・研究会・コンクール・作品発表映写会などを催す。
  - ③各地同好会との交流または親睦を図る。
  - ④会員の希望により、新製品の紹介、物品・資材などの共同購入を行う。
  - ⑤賞を設け、毎年末の総会において表彰する。  
賞は、別項「申し合わせ事項」による。
6. 役 員 本会に、次の役員をおく。

会長1名の他、副会長、事務局長、会計、会計監査、幹事をおく。

  - ①会長は、会を統括し、本会を代表する。
  - ②副会長は、会長を補佐し、会長事故あるときは代行する。
  - ③事務局長は、本会の事務を統括し、会員ならびに他団体との連絡を担当する。
  - ④会計は、本会の会計を掌握し、毎年総会で会計報告を行う。
  - ⑤会計監査は、会計の監査を行い、その結果を総会に報告する。
  - ⑥幹事は、本会行事の企画・記録・会報の発行などを担当する。  
(例会・研究会・撮影会などの企画運営を含む。)
7. 役員を選出  
会長は、次のいずれかの方法により、総会において選出する。
  - ①総会における会員の互選
  - ②役員会の総会への推挙副会長・事務局長・会計・幹事は、会長が任命する。  
会計監査は、総会において選出する。
8. 役員任期  
役員任期は、2年とする。
9. 相談役  
本会は、相談役をおくことができる。  
相談役は、会長が役員会の承認を得て委嘱する。

10. 機 関 本会に、次の機関を置く。

①総 会

- \* 総会は、本会の最高決議機関で、毎年12月に開催する。  
また必要に応じて、会長が臨時総会を招集することができる。
- \* 決議は、出席会員の過半数とする。委任状による出席は認めるが  
議決権は議長に委ねるものとする。
- \* 議長は、会長がこれに当たる。
- \* 総会の決議事項は、次の通りとする。
  - a. 会長、および会計監査を選出する。
  - b. 前年度の事業および会計決算の審議、承認。
  - c. 新年度の事業計画および予算案の審議。
  - d. 会則の改定。
  - e. その他重要な事項。

②役員会

- \* 役員会は、会長が招集し、本会の運営に関する必要事項を協議する。

11. 会 計 本会の運営資金は、入会金・通常会費・臨時会費および補助金などの収入を  
もってこれに充てる。

①入会金； 1,000円とする。

②通常会費； 上半期3,500円、下半期3,500円とし、1年分を総会時に納入する。  
中途入会者は入会時期に応じて納入する。  
納入済みの会費は返却しない。

③臨時会費； 総会懇親会費など、必要に応じて徴収する。

本会の会計年度は、総会日から、次年度総会日前日までとする。

12. 入退会 ①本人の申出による。

②年1回も例会・総会・その他の本会行事に参加なく、会費の納入が3か月以上ない  
ものは、自主退会と認める。

13. 弔 慰 会員本人に不幸のあった時は、楳・生花またはこれに代わる供物を以って弔意を表わす。

《付 則》 \* 本会則に定めなき事項は、役員会の協議によって採決する。

\* 本会則は2002(平成14)年12月16日より改定実施する。

# 申し合わせ事項

1999. 12. 19 改定

## 1. 発表作品

- ①原則として、タイトルをつけ、編集を完了したもの。
- ②15分以内のもの。長編も可とするが、上映途中で打ち切る場合もある。
- ③テーマ、ジャンルは自由。
- ④既上映作品の改作作品も可とする。
- ⑤発表作品の提出時には、出品票を記入の上添付する。
- ⑥第2部上映作品は、提出時にその旨申し出る。(部区分は運営基準参照)

## 2. 研究会

随時、会員の要請により、出来るだけ希望に沿えるよう企画実施する。

## 3. 撮影会

会員の要望・希望・情報を尊重し実施する。

## 4. 相談受付

撮影、編集、録音その他作品制作上の疑問点など、解決の場として例会を活用し、必要に応じ、研究会の開催、個別対応などを以って対処する。

## 5. 和歌山県アマチュア映像連盟への加入

本会会員は、目的達成のため、和歌山県アマチュア映像連盟に自動的に加入する。  
会費は、当分の間、クラブ会計を以ってこれにあてる。

# 運営基準

1999. 12. 19 改定

## 1. 例会

【第1部】 報告・連絡・相談タイム。

【第2部】 試写・相談タイム。（但し、原則として30分以内）

\*未編集、ラッシュ、試験的・実験的映像の試写、再写による意見交換・助言・相談など、作品制作向上のための場とする。

\*参考作品の上映。

【第3部】 作品発表(上映・観賞タイム)

発表作品については

a. 発表作品は、新作・旧作・改作を問わない。

b. 原則としてタイトルをつけ、編集を完了したもの。

c. 多数の作品上映のため、原則15分以内のもの。

長編も可とするが、上映途中で打ち切る場合もある。

d. 映像の貸し借りは可とする。（場合により不可とすることもある、）

e. テレビ映像の取り入れは原則として避け、自撮の映像で構成したものとする。

## 2. 研究会

a. 作品の完成度を高めるため、適宜開催する。

b. 必要に応じて、外部より講師を招聘する。

c. 開催日・テーマなどは、例会または会報で通知する。

d. 撮影会の事前・事後の研究の場としても利用する。

## 3. 撮影会

a. 担当役員が会員の要望も勘案して企画し、詳細は例会・会報で通知する。

## 4. コンクール

a. 「年度賞コンクール」として、年一回、11月に行う。

b. 年間、例会発表作品を以って行う。審査は原則として第三者（作品について講評の出来る人）に委嘱する。

## 5. 賞

(1) 年度賞コンクール表彰

\*生馬賞(1名)

\*知事賞(1名)

\*市長賞(1名)

<上記3賞にはそれぞれに杯(持ち回り)と、副賞を授与する。>

※生馬賞は本会創設者・故生馬茂氏を記念して設けられたもので本会において最高の荣誉賞とする。

\*佳作賞（若干名）

(2) 奨励賞

年間を通じて多くの作品を出品し、努力顕著な会員に授与する。

(3) 皆勤賞

毎月の例会と総会に欠かさず出席した会員に授与する。

但し、年一回 に限り「作品出席」・・・本人欠席・・・も認めることとする。

<以 上>



## あとがき

伝統ある和歌山映像クラブの創立50周年に当たり、その記念誌の編纂をさせて頂いた事は、入会間もない我々にとって誠に光栄でした。

記念誌編集に際し過去の貴重な資料を提供して下さいました方々や創立当時の歴史を聞かせて下さった方々、記念誌に寄稿して下さいました方々、その他大勢の皆様のご協力を心から感謝致します。皆様のお蔭でようやく記念誌を発行する事が出来ました。

過去50年の歴史を次の50年の世代に伝えるべく、微力ながらこの編集に全力で参加させていただきました。しかし、編集技術が至らず創立50周年の歴史の重みを十分に表現できていない部分や、大切な事項を洩らしている部分があるかも知れません。

もしそのような個所があればどうかご容赦願います。お気づきの点がございましたら是非お知らせ下さい。今後の参考にさせて頂きたく思います。

編集委員 委員長：南川 陽一  
中嶋 孝

### 映像半世紀

和歌山映像クラブ創立五十周年記念誌  
平成16年7月10日発行

発行者：和歌山映像クラブ  
会長 前田 幸男  
事務局：和歌山市東高松 2-7-34  
小野 誠之方  
Tel. & Fax. 073-423-3415